TOSHIBA

地上・BS・110度CSデジタルハイビジョンチューナー内蔵

地上・BS・110度CSデジタル ハイビジョン液晶テレビ取扱説明書

形名 32Z1000
37Z1000
42Z1000
47Z1000

ご使用の前に

設置と基本の接続・設定

他の機器をつなぐ

個別に設定をするとき

その他

● 必ず最初にこの「準備編」をお読みください。
安全上のご注意、設置、接続、設定などについて説明しています。

準備編

● このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの「取扱説明書」と別冊の「操作編」、「資料編」をよくお読みください。
お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

もくじ(準備編)

この取扱説明書内のマークの見かた

参照していただきたい情報が記載されているページの番号を示しています。

取扱上のご注意を記載しています。

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

● この取扱説明書は、32Z1000、37Z1000、42Z1000、47Z1000で共用です。使用しているイラストは32Z1000のものです。37Z1000、42Z1000、47Z1000はイメージが多少異なります。

※ 以下は別冊のもくじです。(操作編もよくお読みください)

もくじ(操作編)

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表　示	表示の意味
⚠ 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷*1を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害*2を負うことが想定されるか、または物的損害*3の発生が想定されること”を示します。

＊１：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊２：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
＊３：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

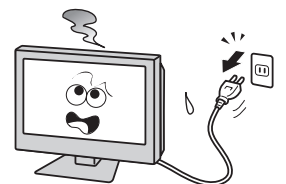
【図記号の例】

図記号	図記号の意味
⃠ 禁　止	“⃠”は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
● 指　示	“●”は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
⚠ 高圧注意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。 左の図は高圧注意の例を示します。

⚠ 警告

異常や故障のとき

■ 煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■ 画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

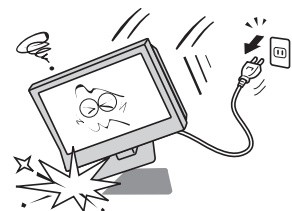
⚠警告

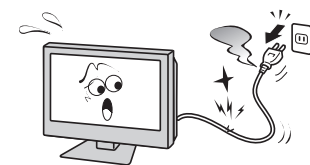
異常や故障のとき つづき

■内部に水や異物がはいったらすぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

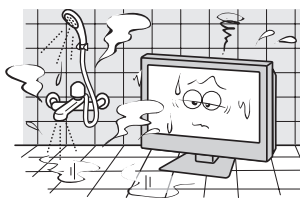
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

■電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く

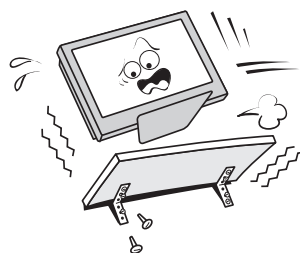
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードや電源プラグが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

設置するとき

■本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する

万一の異常や故障のとき、または長期間ご使用にならないときなどに役立ちます。

■屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない

火災・感電の原因となります。

■ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない

テレビが落ちて、けがの原因となります。
水平で安定したところに据え付けてください。
テレビ台をご使用になるときは、その取扱説明書もよくお読みください。

安全上のご注意 つづき

⚠警告

設置するとき つづき

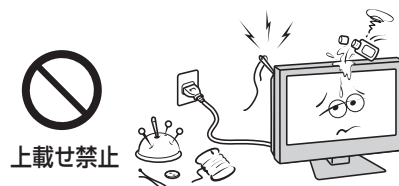
■振動のある場所に置かない

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

■電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

- 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
- 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
- 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

■上にものを置かない

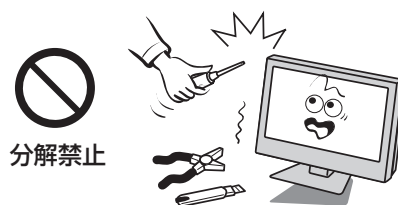
- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

■壁に取り付けて使用する場合、壁掛け工事は、お買い上げの販売店に依頼する

工事が不完全だと、けがの原因となります。
別売の壁取付金具をご使用ください。詳しくは別売品21をご覧ください。

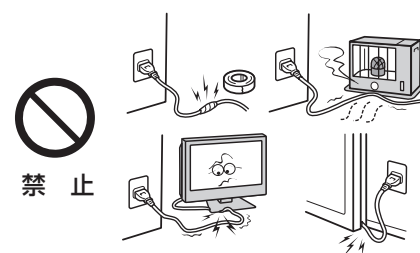
指　示

使用するとき

■修理・改造・分解はしない

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■電源コード・電源プラグは、

- **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない**
- **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
- **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

⚠警告

使用するとき つづき

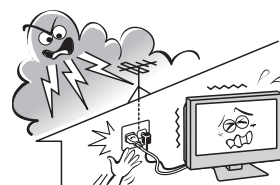
■異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

異物挿入禁止

■雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線・電話機コード・LANケーブルに触れない

感電の原因となります。

禁　止

■包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する

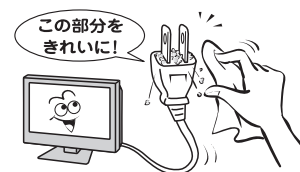
かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

指　示

お手入れについて

■ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取り付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する

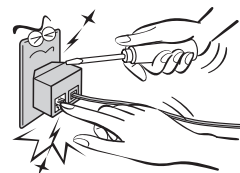
電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

指　示

⚠注意

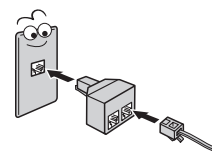
モジュラー分配器を使うとき

■モジュラー分配器、電話機コード、変換アダプターの端子に触れたり、分解や改造をしたりしない

電話回線には直流電圧がかかっています。ダイヤル時などに強い衝撃電流が流れますので、感電の原因になることがあります。

禁　止

■正しく接続する

正しく接続しないと、本機や他の機器の故障や火災の原因となることがあります。

指　示

安全上のご注意 つづき

⚠注意

設置するとき

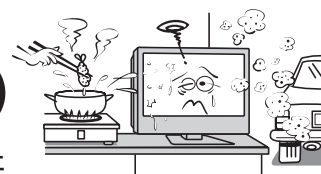
■温度の高い場所に置かない

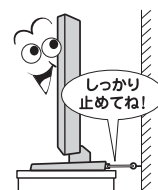
直射日光の当たる場所・閉め切った自動車内・ストーブのそばなどに置くと、発熱や感電の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形、破損、その他部品の劣化や破損によって感電の原因となることがあります。

禁　止

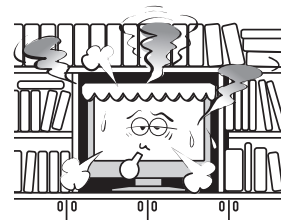
■湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、発熱や感電の原因となることがあります。

禁　止

■転倒防止の処置をする

転倒防止の処置をしないと、テレビが転倒し、けがの原因となることがあります。
転倒防止のしかたは20をご覧ください。

■通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 壁に押しつけないでください。（10cm以上の間隔をあける）
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

禁　止

■移動したり持ち運んだりする場合は、

- **離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および電話機コードや転倒防止をはずす**
  はずさないまま移動すると電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒して、けがの原因となったりすることがあります。
- **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で立てた状態で行う**
  表示パネル面を上向き、または下向きにして運ばない。
- **車(キャスター)付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、テレビ台の受け皿を取り除いて、テレビを支えながら、テレビ台を押す**
  テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。
- **衝撃を与えないようにていねいに扱う**

指　示

⚠注意

設置するとき つづき

■車(キャスター)付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する

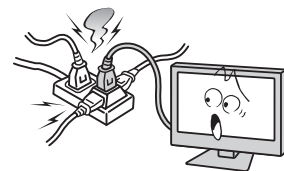
固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。

■テレビ台を使用するときは、

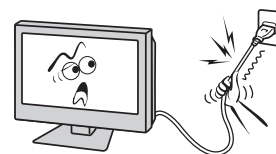
- 不安定な台を使わない
- 片寄った載せかたをしない
- テレビ台のトビラを開けたままにしない

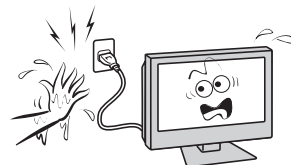
倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

禁 止
■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

使用するとき

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない

落ちたり、倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

使用するとき つづき

■ヘッドホーンやイヤホーンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

■リモコンに使用している乾電池は、

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れたりしない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

禁止

■液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて、液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

禁止

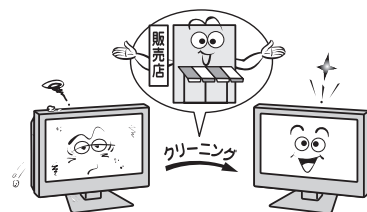
お手入れについて

■お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは操作編 87 をご覧ください。

プラグを抜け

■1年に一度くらいは内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- ご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動をあたえないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 液晶テレビではテレビゲームをお楽しみいただけますが、原理上、光線銃などを使い画面を標的にするゲームで、使用できない場合があります。
  また、外部入力(ビデオ1～4、HDMI)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
  - ・ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
  - ・DVDやビデオなどの音声を、直接AVアンプなどの外部機器に接続して視聴する場合

蛍光管について

- 本機内部に使用している蛍光管には寿命があります。
  画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しなくなったりしたときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

たいせつな録画・録音について

- ビデオなどに録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
- 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は、録画をすることはできません。また、著作権保護のため一世代のみ録画が許された番組(コピーワンスプログラム)は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」90を行い、暗証番号や双方向サービスの情報(お客様が本機に記憶させた住所・氏名等の個人情報、お客様のポイント数など)なども含めて、初期化することをお勧めします。
- B-CAS(ビーキャス)カードの登録廃止、登録名義変更などについては、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズにお問い合わせください。(カードが貼ってある説明書の表と裏をよくお読みください)
- **一般の廃棄物といっしょにしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。
  本機の内部で使用している蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

著作権について

- **あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、権利者の許諾なく、録画・録音したものを複製・改変したり、インターネット等で送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いませんので、ご理解のほどお願いします。**
  なお、著作権法違反は刑事処罰を受けますので自己責任の下でご利用ください。
  たとえば、以下の行為は違反になりますのでご注意ください。
  - **・録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。**
  - **・録画した番組をメールやメッセンジャーサービスなどで他人に送る。**

  また、以下の行為も著作権法違反となるおそれがありますのでご注意ください。
  - **・番組を録画したVHSテープ、D-VHSテープ、DVDなどの媒体を友人に貸す。**
- 本製品は、マクロヴィジョン社ならびに他の権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。
  この著作権保護技術の使用は、マクロヴィジョン社の許可が必要で、また、マクロヴィジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他一部の観賞用の使用に制限されています。
  分解したり、改造することも禁じられています。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 録画・録音機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(データ記録機器・録画機器等の故障、記録・録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。たいせつなデータ等は、お客様の責任で普段からこまめにバックアップされるようお願いします。
- 誤動作や静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータ等が変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービス等で本機に記憶されたお客様の登録情報やポイント情報等の一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

必ずお読みください

デジタル放送の番組情報取得について

● **番組情報を取得するために、番組情報取得設定を「取得する」（操作編 66）にして、毎日2時間以上本機の電源を「待機」にしておくことをお勧めします。**（番組表の内容が表示されないときは、「番組情報の取得」（操作編 19）で情報を取得・更新することができます）

・デジタル放送では、番組情報（番組名や放送時間など）が放送電波の中にはいって送られてきます。
本機は、電源が「待機」のときに番組情報を自動的に取得して、番組表表示や番組検索、予約などに使用します。
電源が「入」のときにも番組情報は取得しますが、視聴中のデジタル放送以外の放送の番組情報は取得できない場合があります。（デジタル放送の種類や本機のご使用状態によって、取得できる内容は異なります）

・本体の電源ボタンで電源を「切」にした場合や、電源プラグを抜いている場合、および番組情報取得設定を「取得しない」に設定している場合（操作編 66）には、番組情報は取得できません。番組情報が取得できていない場合には、番組表が正しく表示されなかったり、番組検索や録画予約などができなかったりすることがあります。

お客様登録をしてください

● ダウンロードのお知らせをお送りすることなどを目的としたお客様登録をお願いしています。
同梱の「お客様登録のお願い」をご覧の上、インターネットでお客様登録をしてください。
「お客様登録のお願い」のハガキでもお客様登録ができます。

お問い合わせ先について

● 受信契約など放送受信については、各放送事業者にお問い合わせください。（付属の「ファーストステップガイド」をご覧ください。冊子名「ファーストステップガイド」は 2005年9月現在のものです。将来は変更される可能性があります）

同梱のB-CAS（ビーキャス）カードについて

● B-CASカードは、常に本体に挿入しておいてください。21
※ B-CASカードは、デジタル放送の受信に必要です。
B-CASカードの登録や取扱いの詳細は、カードが貼ってある説明書をご覧ください。

● カードの破損、紛失、盗難などの場合、および本機の廃棄などでカードが不要となった場合などは、（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ（カードが貼ってある説明書を参照）にご連絡ください。

デジタル放送の録画について

● 地上／BSデジタルテレビ放送局は、著作権保護のために電波に「1世代のみ録画可能」のコピー制御信号を加えて放送しています。（2005年9月現在）
これによって、デジタル録画機器に録画した番組を他のデジタル録画機器にコピーすることはできなくなります。
詳しくは録画機器の取扱説明書をご覧ください。

インターネット機能について

● インターネットの利用には、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店または接続業者などにご相談ください。

● 本機でインターネットが使用できるのは、イーサネット通信のみです。ダイヤルアップやISDN等には対応していません。

● 回線の接続環境や接続先のサーバーの状況などによっては、正しく動作しない場合があります。

● Webサイトによっては、本機の仕様が対応していない場合があり、映像、文字などが正しく表示されない、または正しく動作しないことがあります。

● 本機で採用しているインターネット機能は、基本的な閲覧機能だけに対応しています。メール機能やインターネット上のプラグインソフト（FlashやJavaなど）の機能には対応していません。また、今後の新技術にも対応できない場合があることを、あらかじめご了承ください。

本機の現在時刻の表示（操作編 21 の図を参照）について

● デジタル放送を視聴していない場合は、現在時刻表示のずれが大きくなる場合があります。

本機は、デジタル放送から現在時刻を取得しています。
デジタル放送を受信していない場合は、補助的にインターネットから時刻情報を取得します。

● デジタル放送を受信しない場合で、インターネットの常時接続をしていない場合は、本機の現在時刻表示はできません。

地上アナログ放送の番組表や番組情報を使用した機能について

- 本機はDEPG™(Dynamic Electronic Program Guide)システムによる地上アナログ放送の番組表機能を搭載しています。これによって、デジタル放送だけでなく地上アナログ放送についても以下の機能が使えます。
  - ・ 番組表をテレビ画面に表示させて、選局や視聴予約をする(操作編 15、32)
  - ・ 裏番組リストを使う(操作編 19)
  - ・ 番組情報や番組説明を見る(操作編 21)
  - ・ ジャンルなどを指定して番組を検索する(操作編 17)
- 地上アナログ放送の番組表や裏番組リストを見るには、インターネットの常時接続・設定 27 とチャンネル設定(31 または 59)が必要です。

この取扱説明書について

- この取扱説明書に記載されているテレビ画面表示は、実際に表示される画面と文章表現などが異なる場合があります。画面表示については実際のテレビ画面でご確認ください。
- 受信画面の図などに記載されている番組名などは架空のものです。
- 記載されている機能の中には、放送サービス側がその運用をしていない場合には使用できないものがあります。
- 画面に表示されるアイコン(絵文字や絵記号)については、「アイコン一覧」(操作編 84)をご覧ください。
- この取扱説明書では、以下の略語を使用しています。

略語	意味
デジタル放送	地上デジタル放送、BSデジタル放送、および110度CSデジタル放送
地上A、地上アナログ	地上アナログ放送
地上D、地上デジタル	地上デジタル放送
BS	BSデジタル放送
110度CS、CS	110度CSデジタル放送
ビデオレコーダー(東芝RDシリーズ)、ビデオレコーダー、RDシリーズ	東芝製HDD&DVDビデオレコーダー
HDDビデオレコーダー	デジタルハイビジョンHDDレコーダー
LAN端子	LAN(10BASE-T/100BASE-TX)端子

ソフトウェアの更新について

- お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、本機内部のソフトウェア(制御プログラム)を更新する場合があります。

  本機の自動ダウンロード機能を「する」の状態に設定しておくと、放送電波で送られるソフトウェアを本機が受信し、自動的にソフトウェアを更新することができます。(お買い上げ時は、「する」の状態に設定されています)

  ソフトウェアの更新や自動ダウンロードについては、操作編 67 をご覧ください。

LAN HDDの自動登録について

- LAN HDDを本機に接続して電源を入れてから自動登録されるまで10分ほどかかります。 52 、 53

インターネットで情報を・・・

- ホームページに最新の商品情報やサービス・サポート情報、その他のお知らせなどを掲載しておりますので、ご覧ください。

■ http://www.toshiba.co.jp/product/tv/

※ 上記アドレスは予告なく変更する場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/)をご覧ください。

- 東芝総合ホームページからもさまざまな情報を提供しております。

放送、通信サービスについて

- 放送や通信サービス(インターネットを利用した地上アナログ放送の番組表、光通信回線などを利用した映像配信サービス、その他の通信サービスなど)は、お客さまへの予告なしに、放送事業者や通信事業者などによって一時的に中断したり、内容が変更されたり、サービス自体が終了されたりする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

準備（接続・設定）早わかり

● 以下は、テレビを視聴できるようになるまでの基本的な準備の流れです。
外部機器を接続して楽しむ場合の準備については、「本機に接続できる外部機器一覧」39ページをご覧ください。
4th MEDIA（フォースメディア）を楽しむ場合の設定については、83ページをご覧ください。

1 お客様登録をする

12ページ

▼

2 付属品を確認する

15ページ

▼

3 リモコンに乾電池を入れる

19ページ

▼

4 テレビの設置、接続、設定をする

20～38ページ

●テレビの設置をする …… 20～21ページ

	地上A	地上D	BS	CS	
●B-CAS（ビーキャス）カードを入れる	※1	○			21ページ
●「アンテナ線の接続と設定」をする	○				23～25、29～30ページ
●「電話回線の接続」をする	×	※2	※2、3		26ページ
●「LAN端子の接続（1）」をする	※4、6	※5、6			27ページ
●「はじめての設定」をする	○				31～38ページ

○は必要、×は不要を示します。

▼

5 B-CAS（ビーキャス）カードの登録をする

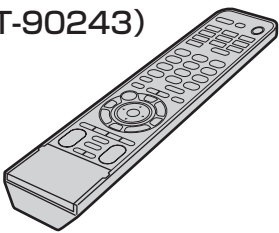
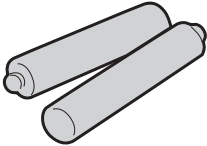
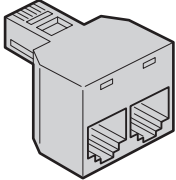
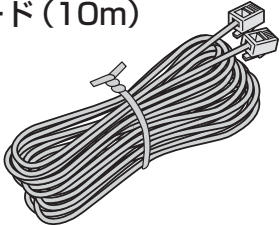
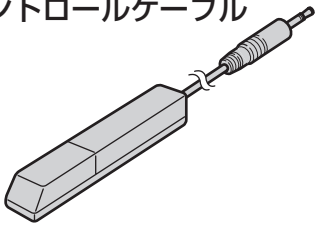
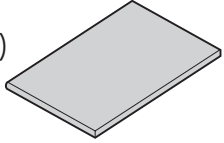
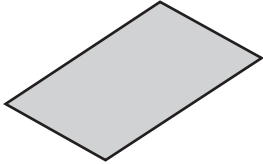
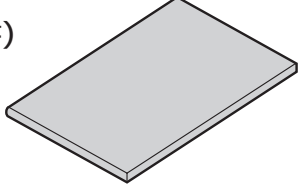
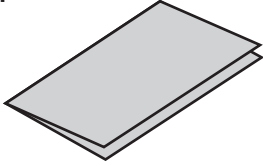
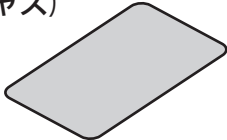
●B-CASカードに添付されている説明紙をご覧ください。

▼

6 受信契約をする

●付属のBS・110度CSデジタル放送受信契約申込書をご覧ください。

●B-CASカードの説明紙についている「加入申込書用バーコードシール」を受信契約申込書に必ず貼ってください。

※1…地上アナログ放送だけを視聴する場合はB-CASカードは不要ですが、デジタル放送を視聴する場合にそなえて本機に入れておくことをお勧めします。
※2…デジタル放送の双方向通信サービスで番組によってはダイヤルアップ通信が使われることがあります。
※3…ペイ・パー・ビュー番組（有料放送）を視聴する場合に必要です。（2005年9月現在、ペイ・パー・ビュー番組は放送されていません）
※4…地上アナログ放送の番組表を使う場合に必要です。
※5…デジタル放送の双方向通信サービスを利用する場合に必要です。
※6…インターネット機能やEメール録画予約機能などを使う場合に必要です。

付属品

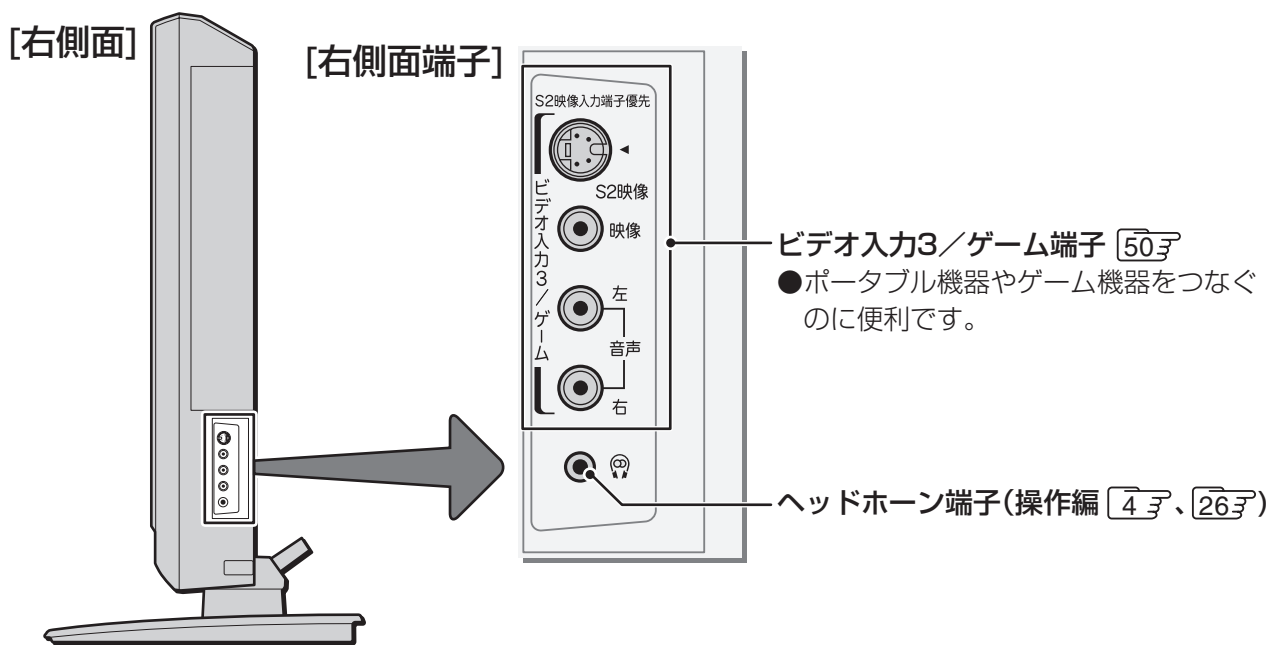
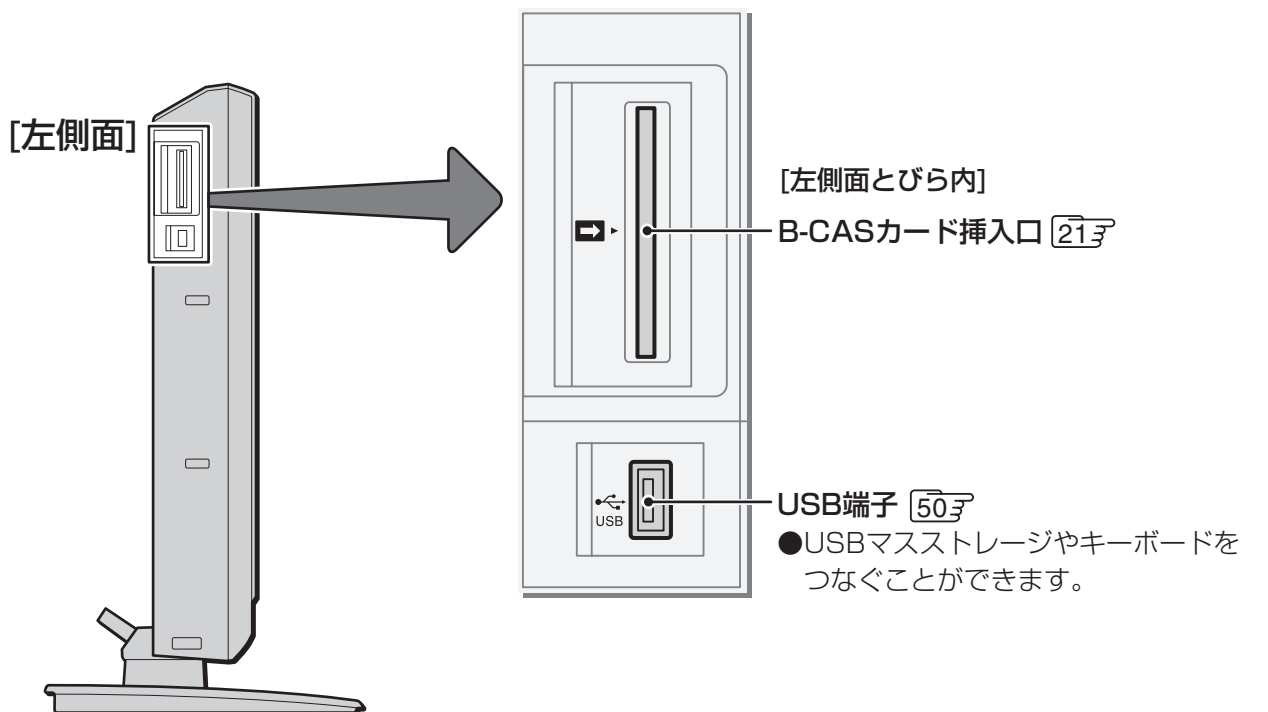
● 本機には以下の付属品があります。お確かめください。

付属品/名称	付属数
リモコン（CT-90243）	1個
単四形乾電池（R03）	2個
モジュラー分配器	1個
同軸ケーブル（1.5m） 先端のキャップははずして使います。	1本
電話機コード（10m）	1本
ビデオコントロールケーブル（3m）	1本

付属品/名称	付属数
BS・110度CSデジタル放送受信契約申込書（ファーストステップガイド） ●冊子名「ファーストステップガイド」は2005年9月現在のものです。将来は変更される可能性があります。	1式
「お客様登録のお願い」のハガキ	1枚
取扱説明書 準備編（本書） 操作編 資料編	各1部
4th MEDIA（フォースメディア）早わかりガイド	1部
B-CAS（ビーキャス）カード B-CASカードは説明紙に付いています。 ※B-CASカードは、（株）ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから供給されたものを同梱しています。	1枚

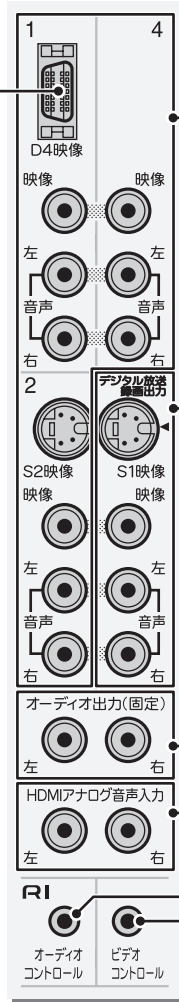
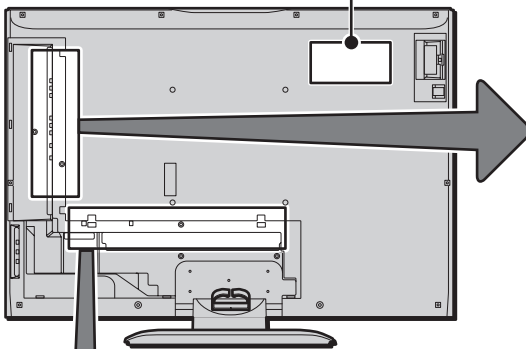
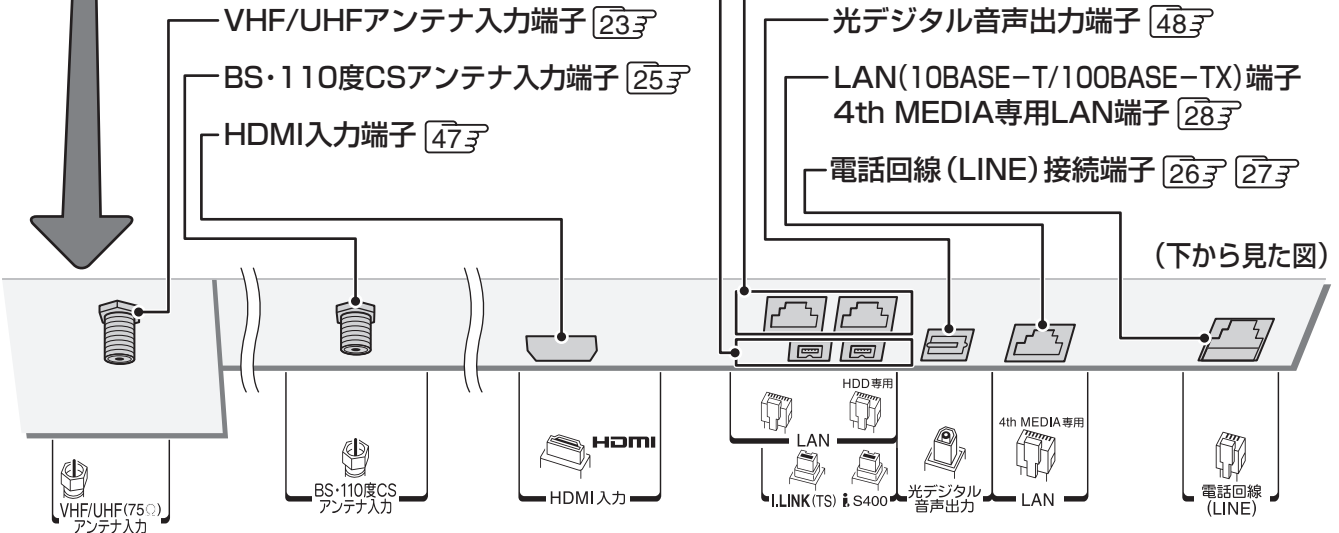
各部のなまえ

- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは☞内のページをご覧ください。(代表的なページを示しています)
- 外部機器をつなぐ場合は、「本機に接続できる外部機器一覧」39☞をご覧ください。

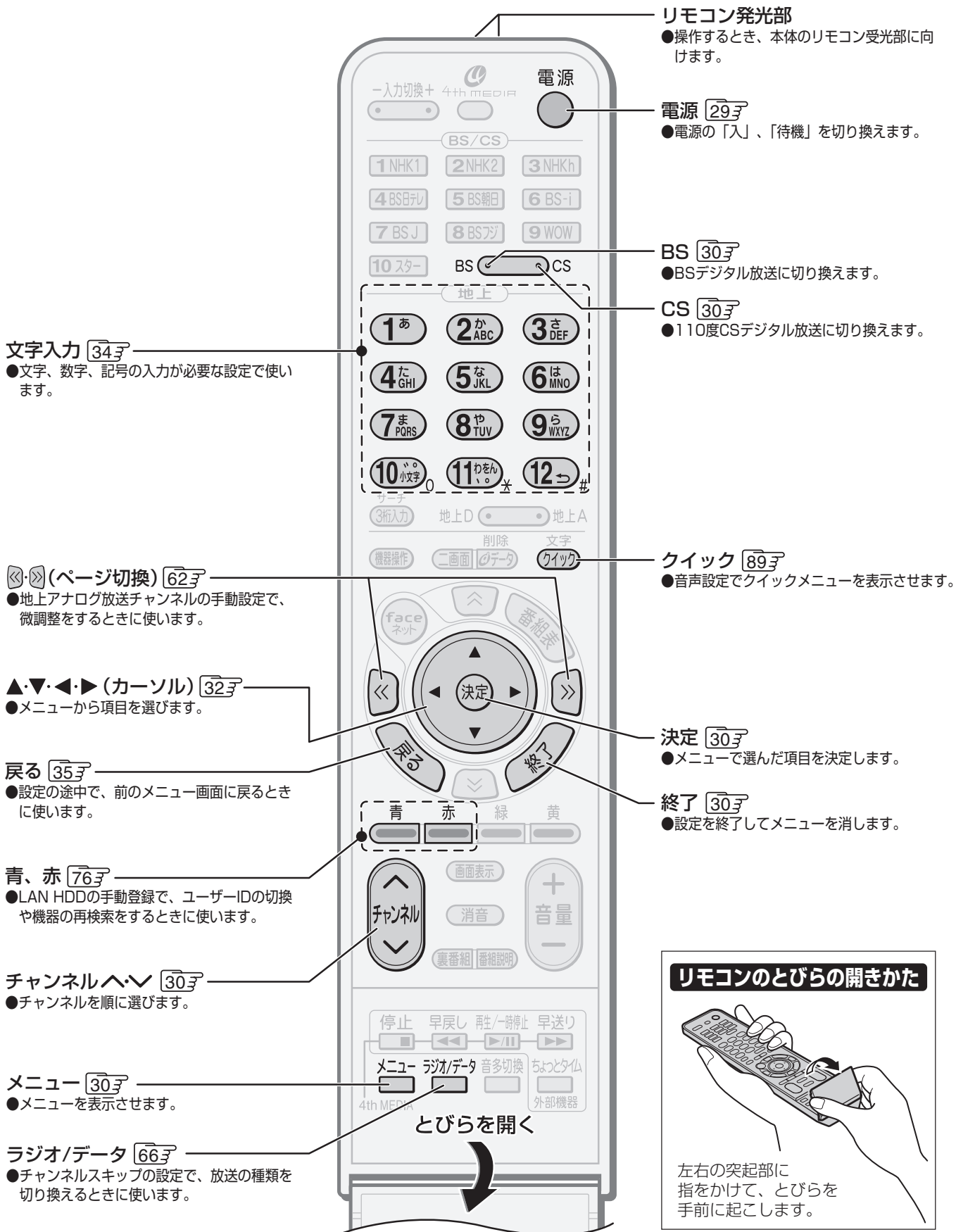
左側面／右側面

背面

D4映像入力端子 40
（ビデオ入力1）

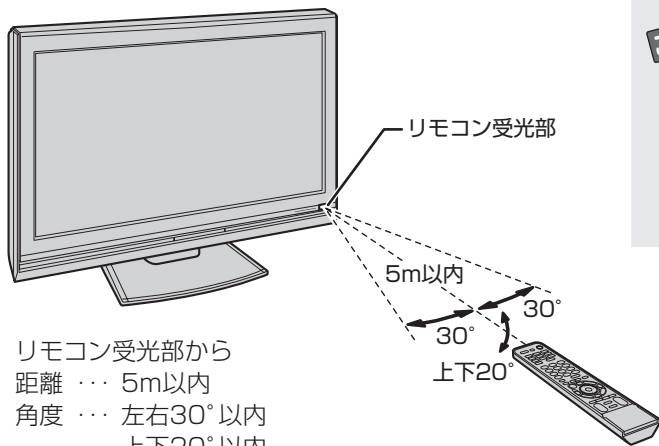
●以下はD4端子に入力できる映像信号です。

映像信号	映像の走査線数	方式
525i (480i)	525本(有効480本)	インターレース
525p(480p)	525本(有効480本)	プログレッシブ
750p(720p)	750本(有効720本)	プログレッシブ
1125i (1080i)	1125本(有効1080本)	インターレース

各部のなまえ つづき

リモコン

- 準備編で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。（ボタンによっては、通常操作時の機能と異なるものがあります）
- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは[ ]内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

リモコンの準備

リモコンの使用範囲

- リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。
- リモコン受光部に強い光を当てないでください。
  （強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります）

リモコン受光部から
距離 ・・・ 5m以内
角度 ・・・ 左右30° 以内
上下20° 以内
※ リモコン発光部は二ヵ所あり、リモコンを立てた状態でも操作できます。

ご注意

■リモコンについて
- 落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

乾電池の入れかた

注意

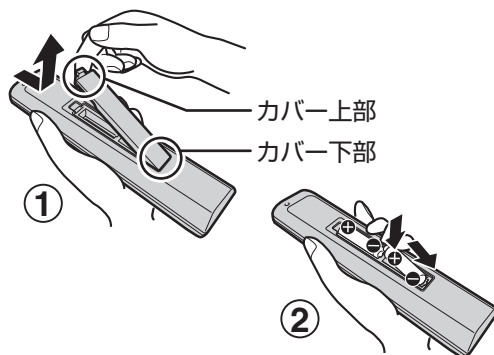
■ リモコンに使用している乾電池は、

- 指定以外の乾電池は使用しない
- 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れたりしない
- 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

- 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。

■ カバーをはずし、乾電池を入れる

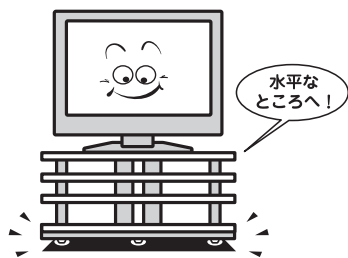
① カバーをはずすときは、カバー上部の［▽］部分を矢印方向に押しながら、すくい上げます。
② 極性表示⊕と⊖を間違えないように入れます。
③ カバーを閉めるときは、カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまで押し込みます。

■乾電池について
- 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。

テレビを設置する

● 設置の前に「安全上のご注意」4～10を必ずお読みください。

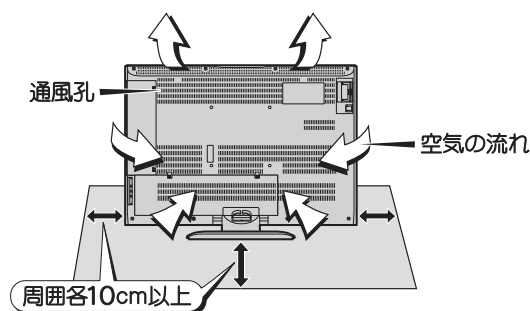
⚠警告	■本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する 万一の異常や故障のとき、または長期間ご使用にならないときなどに役立ちます。
⚠注意	■転倒防止の処置をすること 転倒防止の処置をしないと、テレビが転倒し、けがの原因となることがあります。

正しい置きかた

■ 丈夫で水平な安定した所に設置してください

■ テレビ台を使用する場合

● テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

■ 周囲からはなして置いてください

● 通風孔をふさがないように本機から10cm以上あける。

転倒防止のしかた

■ 別売のスタンドを使用するとき

● 東芝液晶テレビ用フロアスタンド（RL-F120、RL-F80）を使用する場合は、スタンドに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ 壁または柱などに固定するとき

● アンテナや他の機器などとの接続が済んでから固定してください。

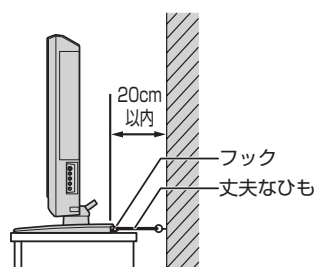
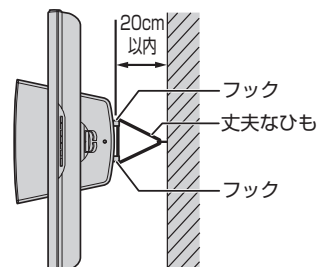
● スタンド背面のフックを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定してください。
移動するときは、ひもをはずしてください。

※ 設置後、液晶テレビを撤去したときに壁や柱に取付ネジの穴が残ります。

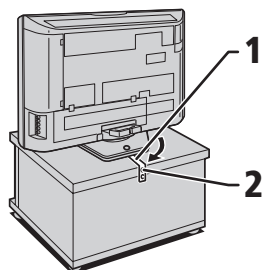
横から見た図

20cm以内
フック
丈夫なひも

上から見た図

20cm以内
フック
丈夫なひも
フック

■ 転倒防止バンドを使用して固定するとき

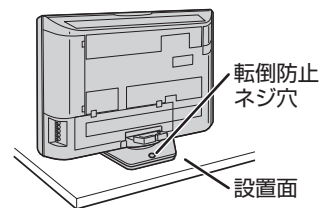
1 卓上スタンドの底面に取り付けられている転倒防止バンドを図のように回転させる

2 設置する台の、確実に支持できる背面に転倒防止バンドを木ネジ（市販品）で固定する

※後方には倒れます。固定後は台を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。

■ 転倒防止ネジ穴を使用して固定するとき

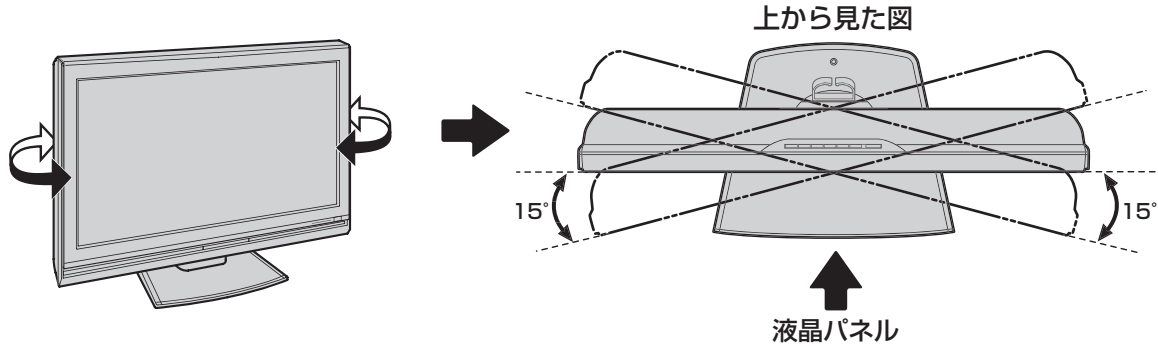
転倒防止ネジ穴を使って木ネジ（市販品）でスタンドを設置面にしっかりと固定します。
材質のしっかりした、十分に厚い場所に固定してください。

※ 設置後、液晶テレビを撤去したときに設置した面に取付ネジの穴が残ります。

※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。

■機器相互間のかんしょうについて

● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互にかんしょうしない位置に設置してください。

本機を見やすい角度に調整するとき

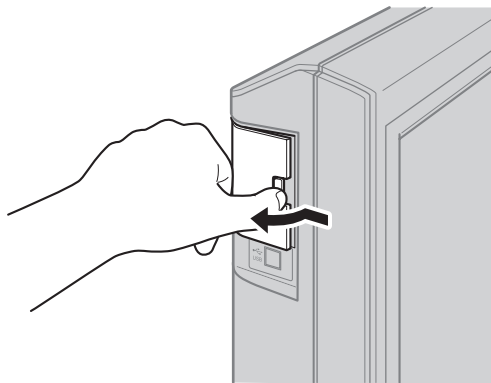
- 本体が左右方向に15°ずつ回転します。(前後方向には傾けられません)
- 見やすい角度に調整してお使いください。
  (本機がずれたり、倒れたりしないよう、スタンド部分をしっかり押さえて調整してください)

設置用別売品

品名	形名
東芝液晶テレビ壁取付金具(チルト式)	32/37/42Z1000：FPT-TA9 47Z1000：FPT-TA10
東芝液晶テレビ用フロアスタンド	RL-F80、RL-F120　(共用)

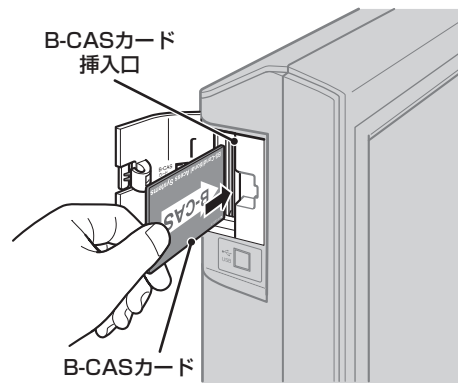
- 設置のしかたは、それぞれの商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 壁掛け工事には専門知識と技術が必要です。お買い上げの販売店に必ずご相談ください。

B-CAS (ビーキャス) カードを入れる

- **同梱のB-CAS(ビーキャス)カードは、デジタル放送の受信や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。常に本体に入れておいてください。**
- 付属のB-CAS(ビーキャス)カードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」は、受信契約をする際に付属の加入申込書に必ず貼ってください。
- 「必ずお読みください」の「同梱のB-CAS(ビーキャス)カードについて」12も必ずご覧ください。
- 説明書は、よくお読みのうえ、のちのお問い合わせ先確認などにそなえて、たいせつに保管してください。

1 本体左側面のとびらをあける

- ▼部分を矢印のほうに押しながら、とびらを手前に起こします。

※閉めるときは、カチッと音がするまでとびらを押します。

2 B-CASカードをカード差し込み口に入れる

- **B-CASカードの絵柄面を本体の前面側に向けて、奥まで差し込んでください。**
- 差し込んだら、とびらを閉めます。

※取り出すときは、B-CASカードをつかんで抜きます。

配線カバーの着脱と配線処理のしかた

●他の機器などを接続するときは、配線カバー（上）、（下）を取りはずしてください。
●接続したあとで配線カバーを取り付ければ、テレビの背面がすっきりします。

取りはずすとき（配線カバー（下）で説明）

❶配線カバー（下）の㋑部のフック2カ所を下側に押してロックをはずしながら手前に引きます。

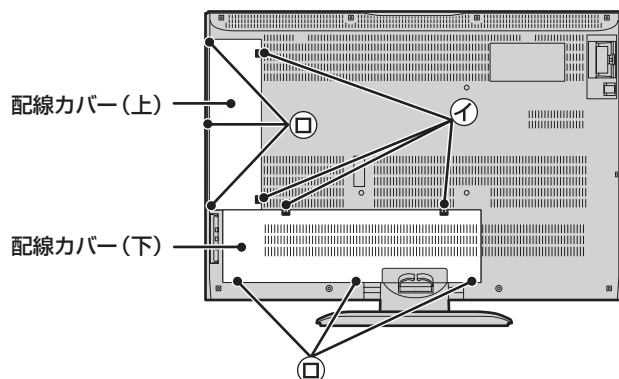
❷配線カバー（下）を上に持ち上げれば、はずせます。

（配線カバーが取り付けられている状態）

取り付けるとき（配線カバー（下）で説明）

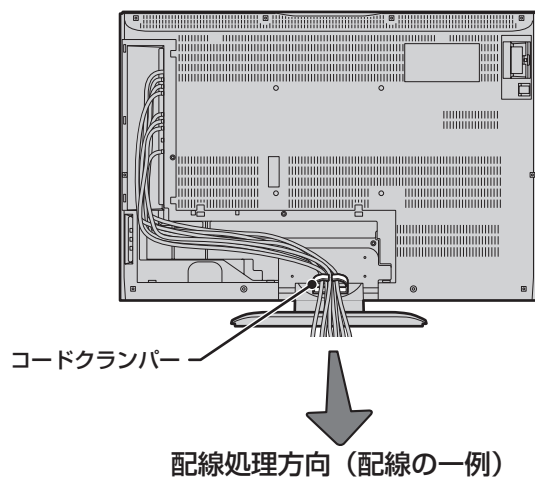
❶配線カバー（下）の㋺部の爪3カ所を、本体の穴に差し込みます。

❷配線カバー（下）の㋑部のフック2カ所を下側に押しながら本体側にたおしてゆき、「パチン」という音がするまで押し込みます。

配線処理のしかた

❶配線カバー（上）、（下）を取りはずした状態にします。

❷コードクランパーを利用し、配線を処理します。
（右図をご参照ください）

（配線カバーを取りはずした状態）

配線処理方向（配線の一例）

■コードクランパーを手かけとして使用しない

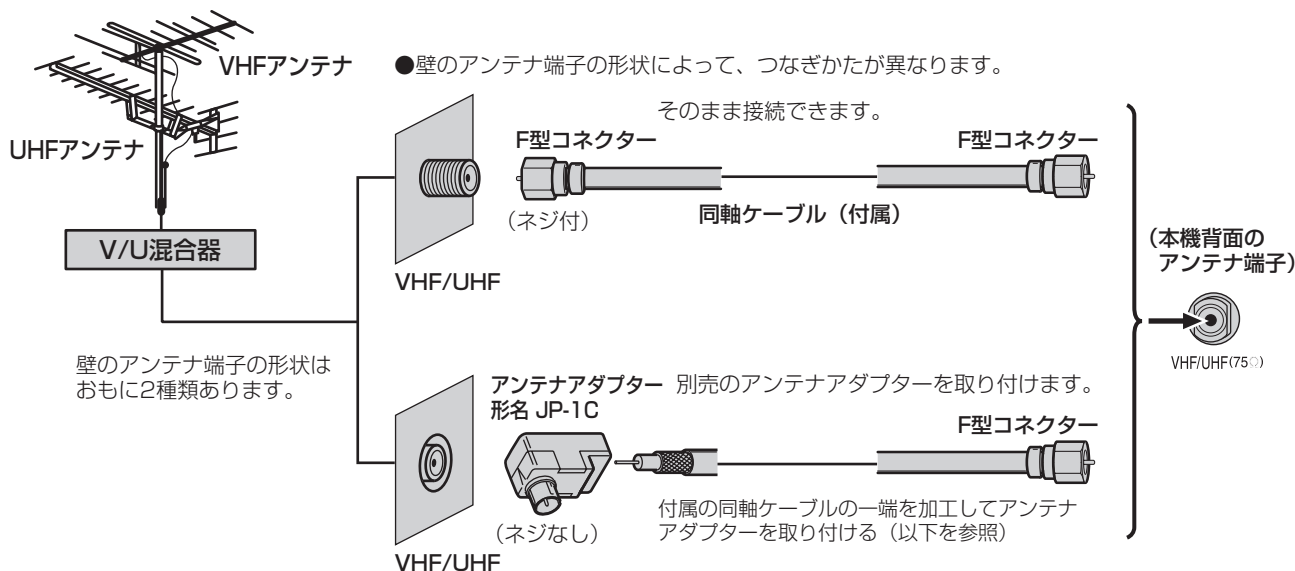
コードクランパーを、手かけとして使用すると、テレビが落下し、けがの原因となることがあります。

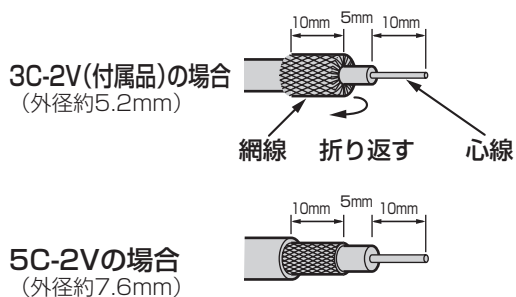
アンテナの接続

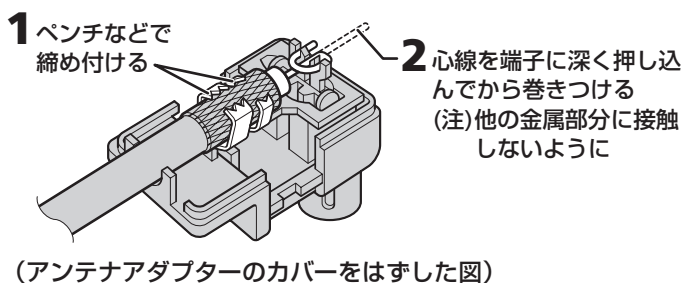
※ アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。また、アンテナの取扱説明書もよくご覧ください。

VHF/UHF アンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターやアンテナアダプターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- 地上デジタル放送はUHFアンテナで受信します。UHFアンテナが設置されている場合はそのままで受信できることもありますが、状況によってはアンテナの交換やアンテナ方向の変更などが必要になる場合があります。

アンテナ線がVHF/UHF混合の場合（またはVHFだけ、またはUHFだけの場合）

アンテナアダプターの取り付けかた

■同軸ケーブルの加工

■アンテナアダプター（別売）の取付けかた

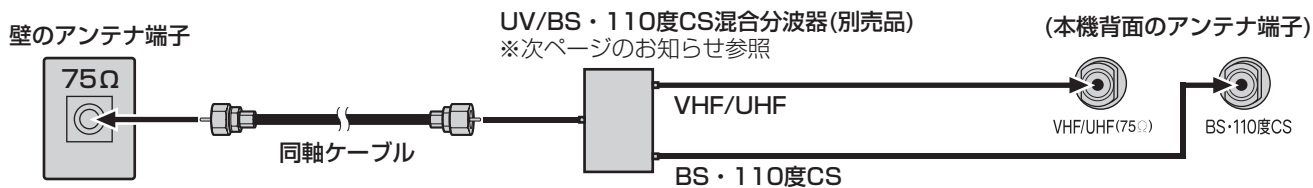
（アンテナアダプターのカバーをはずした図）

- アンテナアダプターは、いくつかのタイプがあります。（イラストは一例です）

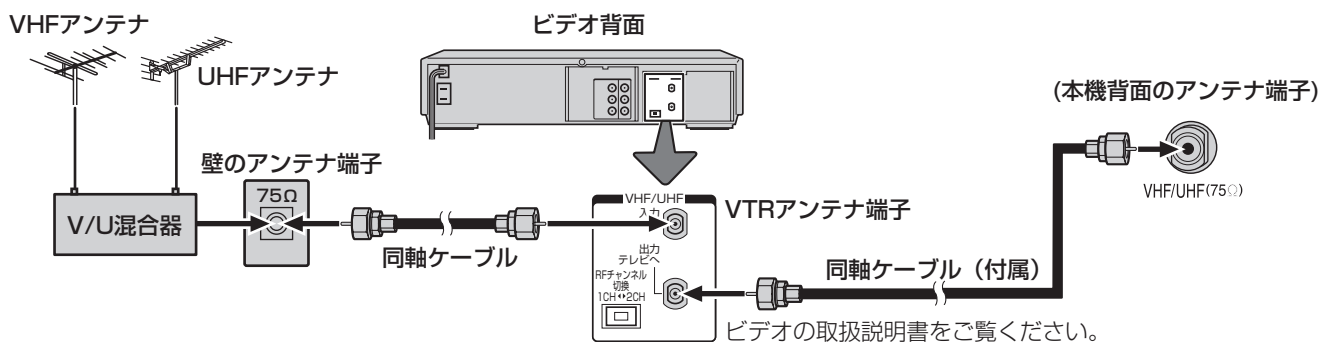
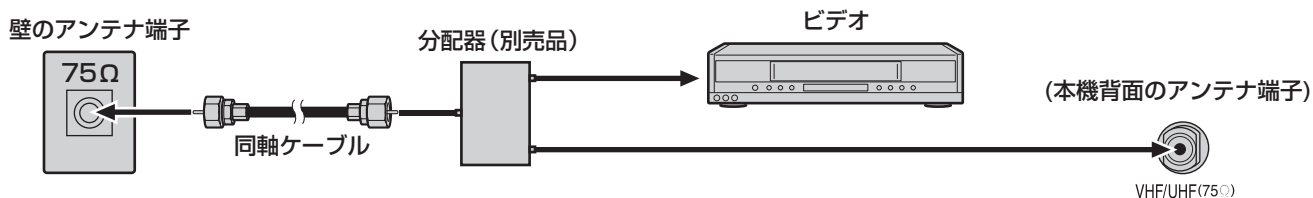
お知らせ

■地上デジタル放送を受信する場合

- 接続に使用する同軸ケーブルには、減衰量が少なく経年変化の少ないS-4C-FB以上の特性のものを、F型コネクターには、C15型をおすすめします。F型コネクターの加工法については、F型コネクター付属の説明書をご覧ください。
- 混合器、分波器、分岐器、ブースターなどを使用する場合は、地上デジタル放送の伝送チャンネルに対応したものを選び、妨害波の影響などを防ぐために空き端子には終端抵抗器（75Ω）を接続してください。
- 一般的に地上デジタル放送はUHFアンテナで受信しますが、CATV（ケーブルテレビ）で伝送される場合や共聴システム（VHF帯、またはUHF帯）で伝送される場合もあります。詳しくは、共聴システム管理者（マンション管理者や管理組合など）や、お住まいの地域のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

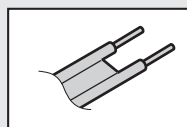
アンテナの接続 つづき

マンションなどの共聴システムのとき(VHF/UHF/BS・110度CS混合のとき)

● 「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。
詳しくは 30 をお読みください。

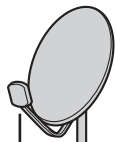
ビデオを経由したつなぎかた(壁面端子が75ΩでビデオのV・U混合のとき)

分配器を使用したつなぎかた

VHFとUHFのアンテナ線がそれぞれ別になっているとき

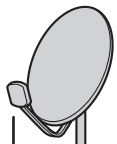
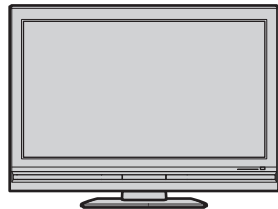
● V/U混合器、形名HMX-77など(別売品)が必要です。
● 詳しくは販売店にご相談ください。

● VHF/UHFアンテナ線は同軸ケーブルをおすすめします。
平行フィーダー線を使用すると受信状態が不安定になることがあり、妨害電波を受けやすくなります。
● やむをえず、平行フィーダー線をご使用のときは、平行フィーダー線をBS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから妨害を受けない距離まで離してください。
同軸ケーブルをご使用の場合もBS・110度CSデジタル用アンテナケーブルと離してください。(いっしょに重ねたり、束ねたりしないでください)
● アンテナ線を他のデジタル機器に近づけないでください。受信障害の原因となることがあります。
● CATV放送については、お住まいの地域のCATV会社にお問い合わせください。
● VHF、UHFアンテナは定期的な点検・交換をお勧めします。アンテナの設置場所は、屋外のため傷みやすく性能が低下します。特にばい煙の多い地域、温泉、海岸の近くでは傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げの販売店にご相談ください。
● VHFとUHFのアンテナ設置の際、本機の画面を見ながらアンテナの方向を決める場合には、GR(ゴーストリダクション)設定 67 を「オフ」にしてください。「オン」の設定では、映像が安定するまでに時間がかかります。

平行フィーダー線

BS・110度CSデジタル用アンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- BSデジタル放送だけご覧になる場合は、BSデジタル用アンテナを、110度CSデジタル放送も合わせてご覧になる場合は、BS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。(以下、これらのアンテナをBS・110度CSデジタル用アンテナと記載します)
- アンテナをつないだあとにアンテナの方向調整が必要です。30
- 本機とBS・110度CSデジタル用アンテナの接続には、BS・CSデジタル対応のケーブル(S-4C-FB相当)をご使用ください。
- BS・110度CSデジタル放送用アンテナの取扱説明書もご覧ください。

BS・110度CSデジタル用アンテナをつなぐとき

●BS・110度CSアンテナ入力端子からBS・110度CSアンテナに電源を供給します。心線とアース線がショートしないようにしてください。

BS・110度CSデジタル用アンテナ1台で、本機などBSや110度CS機器を2台以上つなぐ場合

BS・CS分配器をご使用の場合は全方向電流通過形分配器で、周波数2150MHzに対応したものをご使用ください。

- 2分配　CSG-D2Aなど(別売)
- 3分配　CSG-D3Aなど(別売)
- 4分配　CSG-D4Aなど(別売)

※ BSや110度CS機器をつなぐときは、BSや110度CS機器付属の取扱説明書をご覧ください。

※ 将来、110度CSデジタル放送でチャンネルがふえた場合、ご使用のアンテナによっては分配器は使用できないことがあります。

アンテナ電源について

- BS・110度CSデジタル用アンテナは電源を必要とします。本機にはアンテナ電源を供給する機能がありますが、マンションなどの共聴システムや他の機器などから供給されている場合は、本機から供給する必要はありません。
  お使いの条件に合わせて「BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給」30の設定をしてください。

従来のBSアンテナについて

- 従来のBSアンテナでは110度CSデジタル放送は受信できません。また、多くのものはBSデジタル放送を受信できますが、一部には安定に受信できないものもあります。その際には、BSデジタル用、またはBS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。

マンションなどの共同受信の場合

- お住まいのマンションの共同受信設備でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかについては、マンションの管理会社や管理組合にご確認ください。
  既存の設備で受信できない場合には、BS・110度CSデジタル用アンテナの設置・接続が必要です。

■ BS・110度CSデジタル用アンテナの設置について

- マンションなど共同住宅の場合は、出入口や避難設備にはアンテナを設置できません。また、避難通路や消防上必要な通路のじゃまにならない所に設置する必要があります。消防法、地方自治体の条例などに触れないように、ご注意ください。また、建物の管理者にもご相談ください。

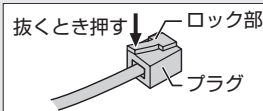
- 110度CSデジタル放送を受信する場合でブースターやBS・CS分配器をご使用になる場合は、110度CSデジタル放送(周波数2150MHz以上)に対応したものをお使いください。対応していないものを使用した場合には、110度CSデジタル放送を受信できません。
- スカイパーフェクTV!用のアンテナでは、110度CSデジタル放送を受信することはできません。

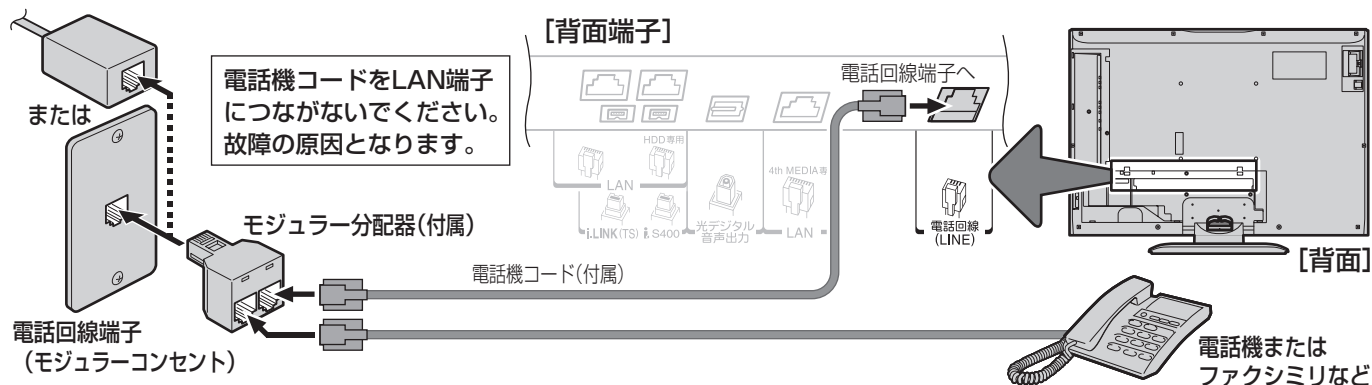
電話回線の接続

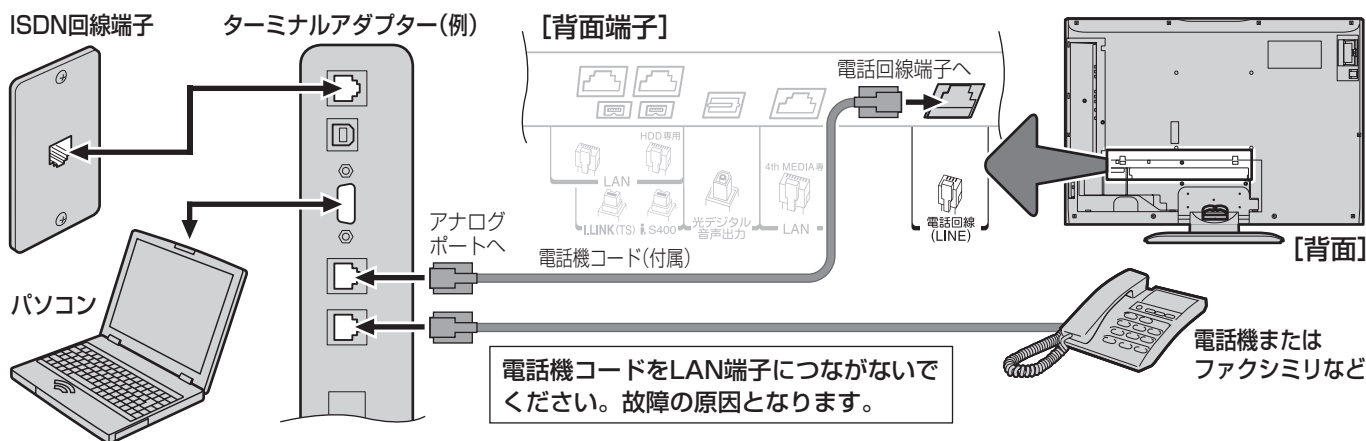
● 電話回線は、BS・110度CSデジタル放送の双方向サービス(クイズ番組への参加、通販番組での商品購入など)を利用する場合や、有料番組(ペイ・パー・ビュー番組)を購入する場合に使用します(デジタル放送では、番組によっては双方向サービスに電話回線によるダイヤルアップ通信を使用することがあります)。これらのサービスを利用しない場合は、電話回線につなぐ必要はありません。

● **電話回線につないだ場合は、「はじめての設定」の中で「電話回線設定」35をしてください。**

⚠注意	■モジュラー分配器や電話機コードの端子に触れたり、分解・改造をしたりしないこと 電話回線には直流電圧がかかっています。ダイヤル時などに強い衝撃電流が流れるため、感電の原因となります。 ■正しく接続すること 正しく接続しないと火災の原因や機器の故障の原因となることがあります。

● 電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。(右図を参照)

モジュラーコンセントの場合

● **電話回線がモジュラーコンセントでない場合や、電話機の主装置、ターミナルボックス、ドアフォンなどが壁に埋め込まれている場合は専門業者による工事が必要です。ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。**

ISDN回線の場合

●ターミナルアダプターのアナログポートに本機を接続してください。(ターミナルアダプターの取扱説明書をご覧ください)
●ご注意:ISDN回線端子に付属のモジュラー分配器を差し込まないでください。
●「電話回線設定」の「ダイヤル方式」は、「トーン」に設定してください。35

※ADSLモデムを電話回線につないでいる場合は次ページをご覧ください。

● 本機は公衆電話、共同電話、携帯電話、ビジネスホン、PHSなどのほか、「0発信」か「9発信」以外で外線に電話をかける回線には接続できません。ホームテレホンの場合は、ホームテレホンのメーカーにご相談ください。
● 本機の通信中は電話機やファクシミリは使用できません。逆に、電話機やファクシミリを使用中は、本機の通信はできません。キャッチホン契約の場合、本機の通信中に電話がかかってくると、本機の通信は終了します(キャッチホンⅡ契約の場合は終了しません)。
● 一部のダイヤル式電話機では、本機が通信をしているときに電話機の呼出音が鳴ることがあります。呼出音が鳴らないようにしたい場合は、付属のモジュラー分配器ではなく市販の電話回線切換器をご使用ください。
● 電話回線に接続の際に工事が必要な場合は有料となります。電話工事には資格が必要です。無資格の方は工事できません。
● ノイズがはいると誤動作することがあります。冷蔵庫などのモーターを使った機器の近くに電話機コードを近づけないでください。

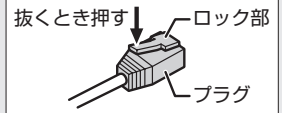
LAN端子の接続(1) ～インターネット～

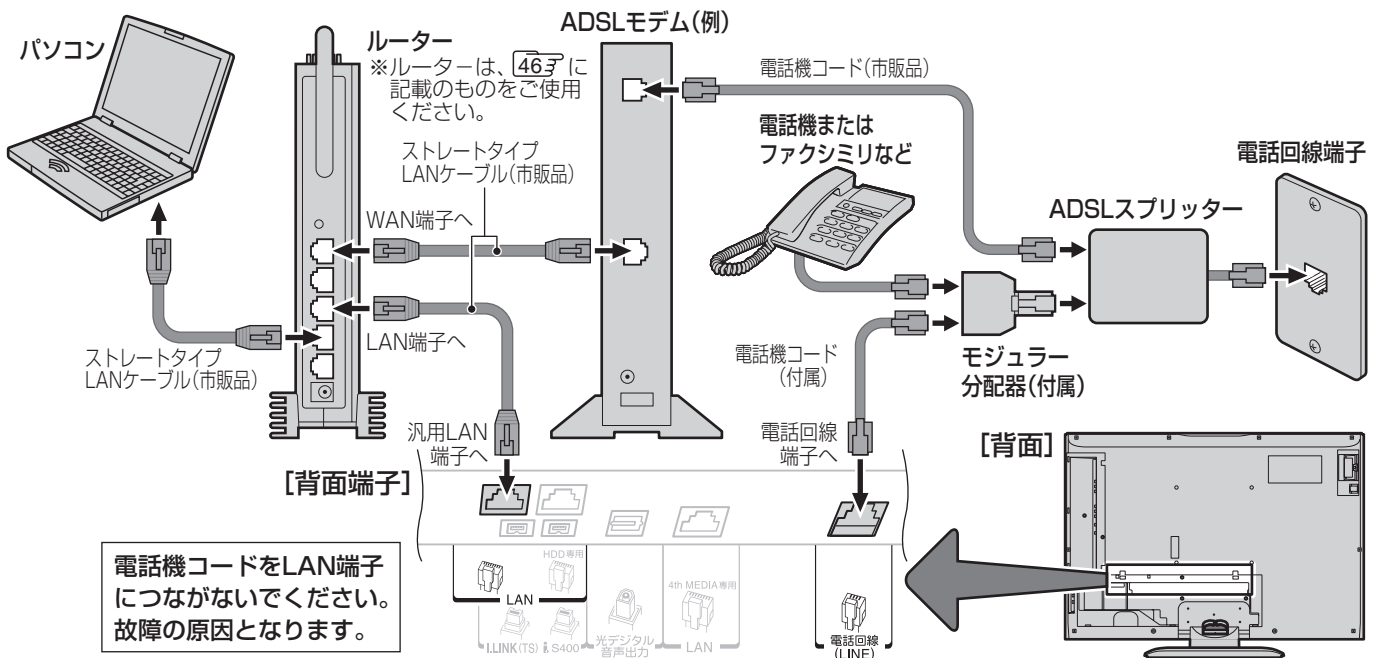
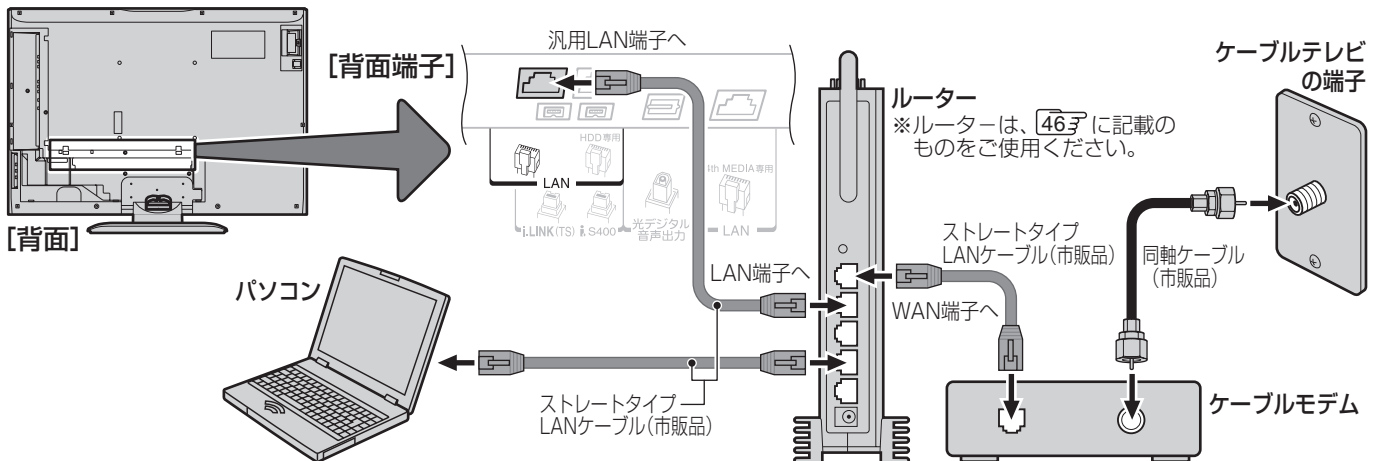
● デジタル放送の双方向通信サービスを利用する場合や、インターネット機能(操作編 44)、Eメールでの録画予約機能(操作編 34)、地上アナログ放送の番組表機能などを利用する際に、汎用LAN端子からルーターとモデムを通して電話回線などに接続します。これらのサービスや機能を利用しない場合は、接続する必要はありません。

● **LAN端子の接続についてのお問い合わせは、「テレビのネットワーク接続(LAN端子を使った接続)についてのご相談は」 92 をご覧ください。**

● **「LAN端子についてのお知らせとご注意」 46 もお読みください。**

● **LAN端子の接続をした場合は、必要に応じて「LAN端子設定」 71 ～ 72 をしてください。**

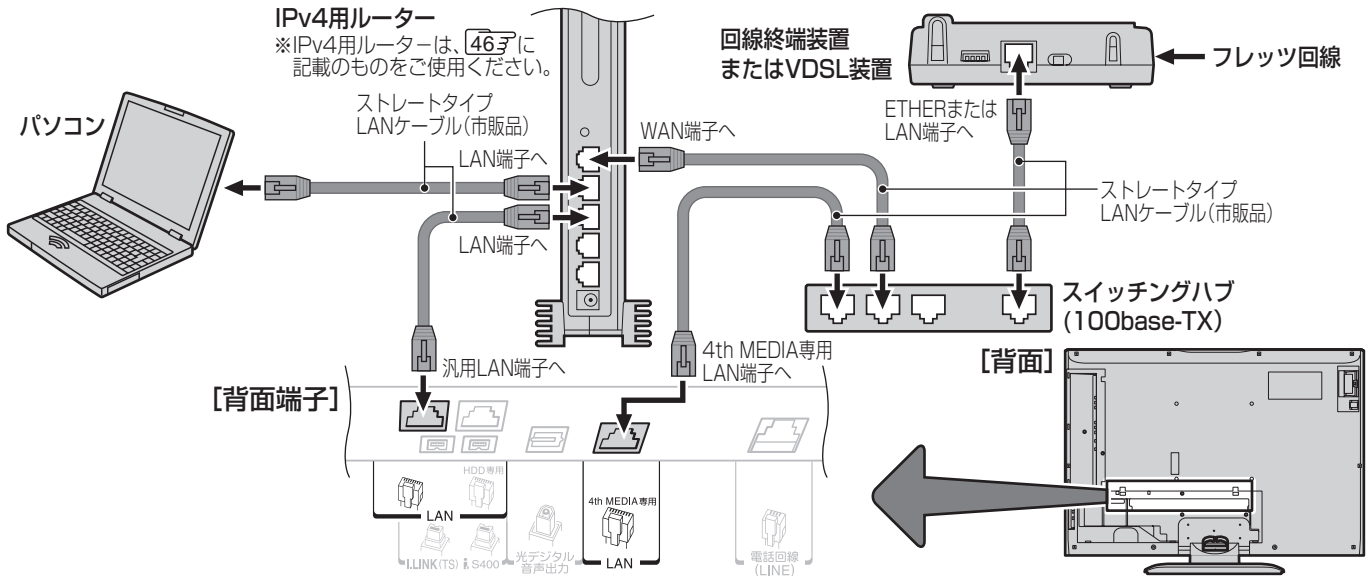
● 電話機コードやLANケーブルを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 電話機コードやLANケーブルを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードやケーブルを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。(右図を参照)

電話回線のADSLでインターネットを利用している場合

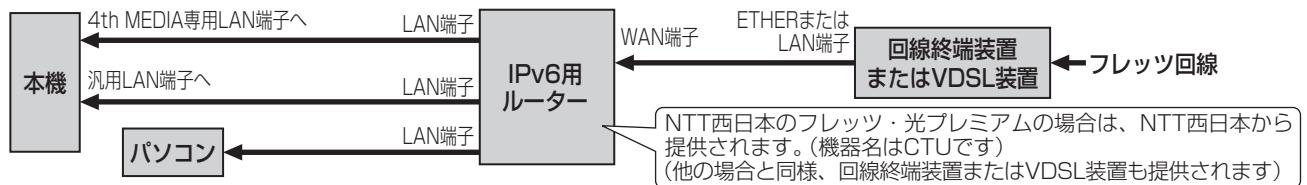
● 本機の電話回線端子への接続は、デジタル放送の双方向サービスを利用したり、ペイ・パー・ビュー番組を購入したりするためのものです。(前ページの「電話回線の接続」もお読みください。また、この接続をした場合は、「電話回線設定」 69 もしてください)
● ADSLモデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。

ケーブルテレビインターネットを利用している場合

● 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンの設定が必要な場合があります。
● インターネットやEメールの利用には、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者(プロバイダー)との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店、または接続業者などにご相談ください。
● 契約によっては、本機やパソコンなどの複数の端末機器を接続できない場合があります。ご利用の回線事業者にご確認ください。
● 本機はイーサネット通信でのみインターネットが利用できます。ダイヤルアップやISDNなどでは利用できません。

LAN端子の接続(2) ～4th MEDIA（フォースメディア）～

- 4th MEDIAについては、操作編 11 ～ 12 をご覧ください。
- フレッツ回線を利用するには、NTTおよびプロバイダーとの契約が必要です。また、4th MEDIAを視聴するには、あらかじめ申込みが必要です。(同梱の「4th MEDIA早わかりガイド」を参照の上、お申し込みください)
- 前ページ冒頭の説明およびご注意もお読みください。
- **接続が終了したら「4th MEDIA 設定」83 、84 をしてください。**

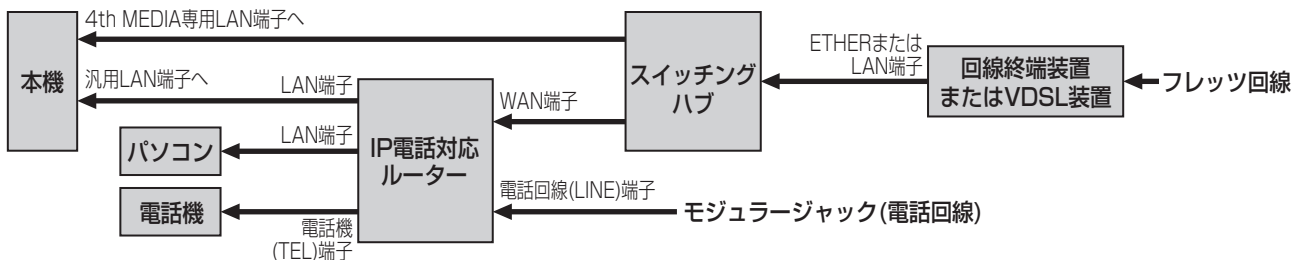
一般的な接続の例

●下図の接続の場合、パソコンではIPv6サービスは利用できません。
●IPv4用ルーターを本機の4th MEDIA専用端子につながないでください。(4th MEDIAを視聴できません)

IPv6 用ルーターを使用する場合(参考接続例)

- 下図の接続の場合、ネットワークに接続した機器の動作状況によっては、4th MEDIAを正常に視聴できない場合があります。(例:パソコンで大容量のファイルをダウロードしている場合など)

■ 動作確認済みのIPv6用ルーター(動作を保証するものではありません)

メーカー	形 名(2005年9月現在)
NTT東日本	Web Caster X310、X400V、720、800、7000
NTT西日本	Web Caster X310、X400V、720、800、V110

※左表は、当社で動作を確認できたルーターであり、参考情報として提供するものです。個々のご家庭内のすべてのネットワーク環境での正常動作を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。

プロバイダーがサービスしているIP電話を使用する場合(参考接続例)

- 集合住宅(マンションなど)でPNA装置を使用している場合は、4th MEDIAの視聴はできません。
- 本機ではルーターの設定はできません。ルーターによってはパソコンの設定が必要な場合があります。
- 以下について詳細は、NTT東日本、またはNTT西日本にお問い合わせください。
  - ・ フレッツ回線を用いて通常のインターネット接続をするには、PPPoEに関する項目をルーターに設定する必要があります。
  - ・ パソコンでIPv6サービスを使用する際の制限事項。
- 4th MEDIAを視聴中にパソコンなどでインターネットを使用すると、4th MEDIAの映像や音声が乱れることがあります。

アンテナの設定と調整

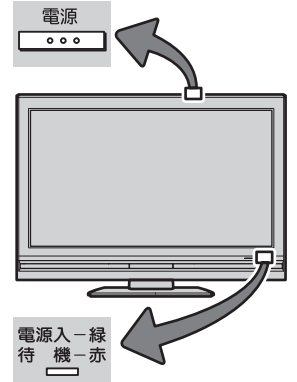
～はじめに～　電源を入れる

●アンテナなどの接続が終わったら、本機の電源を入れます。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

2 本体上面の電源ボタン 電源 を押す

- 電源がはいり、本体前面の「電源入（緑）/待機（赤）」表示が緑色に点灯します。
- 操作できるようになるまでの間、画面に「しばらくお待ちください」が表示されます。
- もう一度 電源 を押すと、電源が切れます。
- 電源「入」の状態でリモコンの 電源 を押すと、「待機（赤）」が点灯し、待機状態になります。この状態でもう一度 電源 を押すと、電源がはいります。

※ はじめて電源を入れると、「自動ダウンロードについて」の説明画面が表示されます。説明を読んだあと、決定 を押してください。自動ダウンロードについては、操作編 67 をご覧ください。

地上デジタル用アンテナの方向調整

- **アンテナの方向調整は、お買い上げの販売店にご相談ください。**
- ここではアンテナレベル表示を使って、地上デジタル放送受信用アンテナの方向を調整することができます。
  アンテナレベルの数値が最大になるように、アンテナの方向を調整してください。
  ※ 表示される数値は、受信C/Nを換算したものです。
- アンテナの取扱いについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

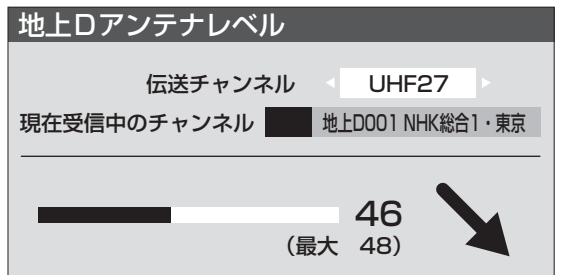
❷ ▲・▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲・▼ で「アンテナ設定」を選び、決定 を押す

2 ▲・▼ で「地上Dアンテナレベル」を選び、決定 を押す

アンテナ設定	
地上Ｄアンテナレベル	
ＢＳ・110度ＣＳアンテナレベル	
ＢＳ・110度ＣＳアンテナ電源供給	供給する
ＢＳ中継器切換	
110度ＣＳ中継器切換	

3 ◀・▶ で「伝送チャンネル」を選ぶ

- お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選んでください。
- ◀・▶ を押すたびに以下のように切り換わります。UHF13～UHF62の範囲で選びます。

4 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

- アンテナレベルが大きくなると ↗ が表示され、小さくなると ↘ が表示されます。
- 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がってないことを確認してください。

5 アンテナを固定して、決定 を押す

6 終了 を押して、メニューを消す

アンテナの設定と調整 つづき

BS・110度CSデジタル用アンテナの設定と調整

BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給設定

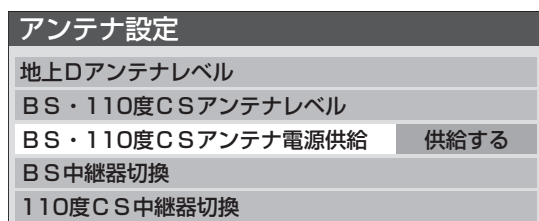
- アンテナに供給する電源をアンテナ電源といいます。
- お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。
  マンションなどで、アンテナに他の機器から電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

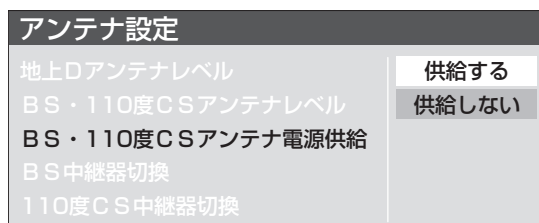
❷ ▲・▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲・▼ で「アンテナ設定」を選び、決定 を押す

2 ▲・▼ で「BS・110度CSアンテナ電源供給」を選び、決定 を押す

3 ▲・▼ で「供給する」または「供給しない」を選び、決定 を押す

- 項目を選ぶとその状態に設定されます。

アンテナ設定

地上Dアンテナレベル	供給する
ＢＳ・110度ＣＳアンテナレベル	供給しない
ＢＳ・110度ＣＳアンテナ電源供給	
ＢＳ中継器切換	
110度ＣＳ中継器切換	

4 終了 を押して、メニューを消す

BS・110度CSデジタル用アンテナの方向調整

- アンテナレベル表示を使って、BS・110度CSデジタル放送受信用アンテナの方向調整をすることができます。
  アンテナレベルの数値が最大になるように、アンテナの方向を調整してください。
  ※ 表示される数値は、受信C/Nを換算したものです。
- アンテナの調整方法や取扱いについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。（テレビが映るアンテナ方向は、VHF/UHFアンテナの場合よりも微妙です）

1 左の手順1の操作で「アンテナ設定」画面にする

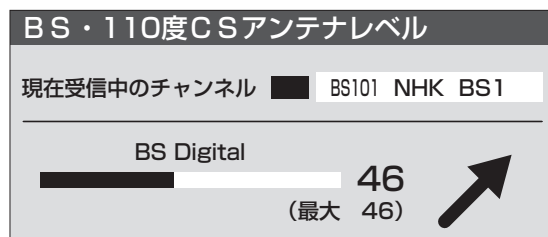
2 ▲・▼ で「BS・110度CSアンテナレベル」を選び、決定 を押す

3 BS ⦿ CS を押して、放送の種類（BSまたは110度CS）を選ぶ

4 チャンネル で契約しているチャンネル、または無料チャンネルを選ぶ

5 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

- アンテナレベルが大きくなると ↗ が表示され、小さくなると ↘ が表示されます。
- 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がってないことを確認してください。

6 アンテナを固定して、決定 を押す

7 終了 を押して、メニューを消す

- 本体の 電源 で電源を「切」にしている場合は、アンテナ電源は供給されません。
- 「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外は、アンテナ電源が供給されません。
- 本機の電源を入れないで、BS内蔵ビデオ単独で録画するときなどは、本機以外からアンテナ電源を供給する必要があります。
- アンテナ線がショートしていると、手順**5**の画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示されます。その場合は、本体の電源ボタンで電源を切り、ショートの原因を取り除いてから、もう一度電源を入れて手順**1**からやり直してください。

はじめての設定をする

はじめての設定

● 設定項目は下表のとおりです。
「はじめての設定」は何度でもできますが、やり直した場合は、それまでに設定していた下表の各項目の内容はすべて消去されますのでご注意ください。双方向通信サービスの情報（お客様が本機に記録させた住所･氏名等の個人情報、お客様のポイント数など）は消去されません。

設定項目	内容
地上A/D放送チャンネル設定	地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネル設定を同時に行います。また、地域の設定もします。
お好み番組設定	お好み番組機能を使うための設定です。
郵便番号の設定	お住まいの地域に応じたデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）や緊急警報放送を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントでご利用いただくための設定です。
電話回線設定	デジタル放送では電話回線を利用した双方向通信サービスが行われています。 それらのサービスを楽しむための設定です。 ※地上デジタル放送の場合には、ダイヤルアップ通信やイーサネット通信などの接続が必要なこともあります。
簡易確認テスト	地上D受信テスト、BS・110度CS受信テスト、B-CASカードテスト、電話回線テストをまとめて行います。

■「地上A/D放送チャンネル設定」について

● 地上アナログ放送の場合
入力された地方、地域に応じて、チャンネルがリモコンの地上ダイレクト選局ボタン（1）～（12）に自動的に設定されます。
自動設定される内容については「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（資料編 7ページ～14ページ）をご覧ください。

● 地上デジタル放送の場合
「初期スキャン」60ページをすることで、本機が地上デジタル放送の受信できるチャンネルを探し、リモコンの地上ダイレクト選局ボタン（1）～（12）に自動設定します。
自動設定は、入力された地方、地域と実際に受信できたチャンネルの情報をもとに、放送システム上の規定などに従って行われます。
初期スキャンは（VHF1～12）→（UHF13～62）→（CATV13～63）の順で行われます。

※ 自動設定された内容の確認や変更をしたい場合は「手動設定」63ページで行ってください。
※ 初期スキャンによってチャンネルが設定されても、電波が弱い場合には正常に受信できないことがあります。

■地方と地域の設定について

● チャンネルの自動設定は、32ページの手順**4**～**6**で設定された地方、地域に基づいて行われます。
34ページの郵便番号でも地域を設定しますが、それは地域に密接したデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用するための設定であり、32ページの手順**4**～**6**の設定とは別のものです。

■新たに開局したチャンネルを追加登録したいとき

● 地上デジタル放送で新たに開局したり、中継局が新設されるなどしてチャンネルがふえたなどの場合は、「自動設定」の「再スキャン」60ページをしてください。新たに受信できたチャンネルが追加設定されます。

はじめての設定をする つづき

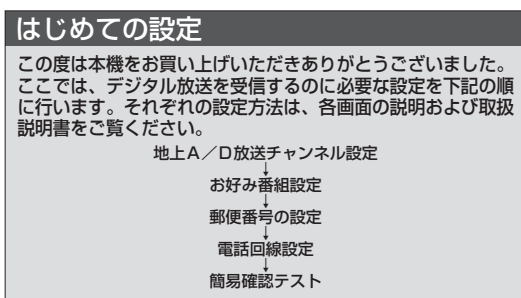
はじめての設定 つづき

地上A/D放送チャンネル設定

● 地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネルを同時に設定します。また、データ放送の地域も同時に設定します。
● 詳しい動作については前ページの「お知らせ」をご覧ください。

1 以下の操作で「はじめての設定」の説明画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「はじめての設定」を選び、決定 を押す

はじめての設定
この度は本機をお買い上げいただきありがとうございました。ここでは、デジタル放送を受信するのに必要な設定を下記の順に行います。それぞれの設定方法は、各画面の説明および取扱説明書をご覧ください。
地上A／D放送チャンネル設定
↓
お好み番組設定
↓
郵便番号の設定
↓
電話回線設定
↓
簡易確認テスト

2 画面の説明を読んで、決定 を押す

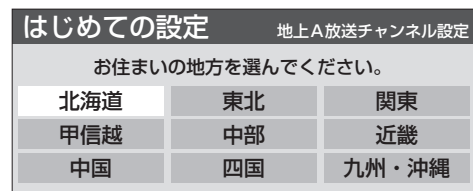
● 「地上A/D放送チャンネル設定」の説明画面が表示されます。

3 画面の説明を読んで、決定 を押す

● 地方を選ぶ画面が表示されます。

4 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの地方を選び、決定 を押す

はじめての設定　地上A放送チャンネル設定
お住まいの地方を選んでください。

北海道	東北	関東
甲信越	中部	近畿
中国	四国	九州・沖縄

5 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの都道府県を選び、決定 を押す

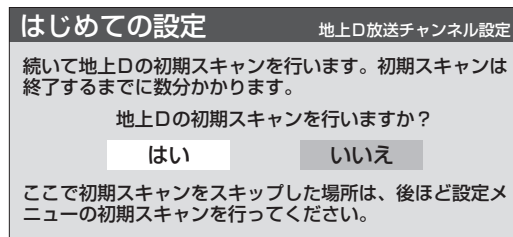
● 地域を選ぶ画面が表示されます。

6 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの地域を選び、決定 を押す

● お住まいの地域名が表示されないときは、近くの地域名を選びます。

7 表示された地上Aチャンネル一覧の内容を確認後、決定 を押す

8 画面の説明を読んで、以下をする

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定
続いて地上Dの初期スキャンを行います。初期スキャンは終了するまでに数分かかります。
地上Dの初期スキャンを行いますか？
はい　いいえ
ここで初期スキャンをスキップした場所は、後ほど設定メニューの初期スキャンを行ってください。

地上デジタル放送の初期スキャンをする場合

❶ ◀·▶ で「はい」を選び、決定 を押す

● 初期スキャンが自動的に始まります。
終了するまでしばらくお待ちください。
● 初期スキャンが終わると手順**9**の画面が表示されます。次は手順**9**に進みます。
● **下図の画面が表示された場合**
・「データ放送用メモリーの割当て」38をしてください。
・「データ放送用メモリーの割当て」が終了すると、次は手順**9**に進みます。

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定
放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑ 6	－－－	×	あり
☑ 7	テレビ東京	○	あり
☑ 8	－－－	×	あり
☑ 9	－－－	×	あり
☑10	－－－	×	あり

選択した放送局の数：12

地上デジタル放送の初期スキャンをあとでする場合

❶ ◀·▶ で「いいえ」を選び、決定 を押して「お好み番組設定」（手順**10**）に進む

● あとで「自動設定」の「初期スキャン」60をしてください。

次のページにつづく

9 下図の画面が表示されたら、以下をする

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定
初期スキャンを終了しました。
設定内容を確認しますか？
はい　いいえ

❶ ◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す
- 設定内容の確認画面（下図例）が表示されます。

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定

リモコン	チャンネル	放送局
▲ 1	テレビ	NHK総合・東京
2	テレビ	NHK教育・東京
3	―――	
4	テレビ	日本テレビ
5	テレビ	テレビ朝日
▼ 6	テレビ	TBS

❷設定内容を確認し、(決定)を押して「お好み番組設定」（手順**10**）に進む
- これで、地上デジタル放送チャンネルの自動設定が終了しました。
- チャンネルの欄が「―――」となった場合は、放送がないか、または受信できなかったことを示します。
- 設定された内容を変更したい場合は、「はじめての設定」がすべて終了したあとで、「手動設定」63 で行ってください。

お好み番組設定

- お好み番組を検索するための条件を設定します。
- お好み番組検索については、操作編 41 をご覧ください。
- ここで設定しないで、「はじめての設定」終了後にメニューから設定することもできます。85

10 画面の説明を読み、ここで設定する場合は ◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す

「お好み番組設定」をあとでする場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、(決定)を押して手順**13**に進む

11 以下の操作でお好み番組設定をする

- 「お好みA」〜「お好みD」の4種類の設定をすることができます。
- 設定する項目は、ジャンル、キーワード、チャンネルです。
- 以下は、「お好みA」に設定する場合の操作です。「お好みB〜D」も同様に設定してください。

1 ▲·▼·◀·▶ で設定する場所を選び、(決定)を押す

はじめての設定をする つづき

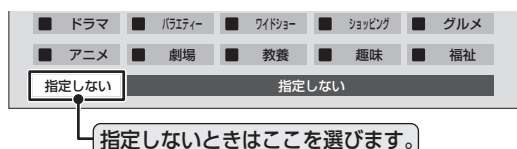
はじめての設定 つづき

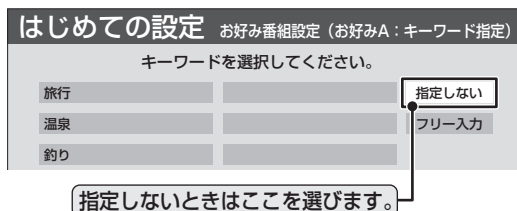
お好み番組設定 つづき

2 以下の操作で設定する

● ジャンル、キーワードは、どちらかを必ず設定してください。

ジャンルを設定する場合

❶ ▲·▼·◀·▶ でジャンル一覧から設定したいジャンルを選び、決定 を押す

キーワードを設定する場合

❶ ▲·▼·◀·▶ でキーワード一覧から設定したいキーワードを選び、決定 を押す

■キーワードを自分で入力する場合

① ▲·▼·◀·▶ でキーワード一覧から「フリー入力」を選び、決定 を押す

②キーワードを入力する

文字入力のしかたは、操作編 28 をご覧ください。

③ 決定 を押す

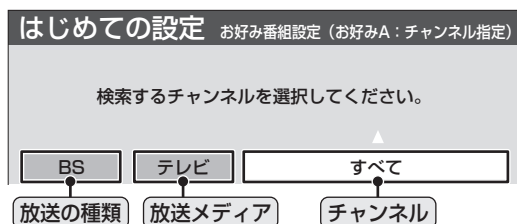
チャンネルを設定する場合

❶ ◀·▶ で設定項目を選ぶ

● 放送の種類：BS/CS/地上D/地上A/すべて

※ 受信できない放送は表示されません。

● 放送メディア：テレビ／ラジオ（BS、CSのみ）／データ／すべて

● チャンネル（「すべて」もあります）

❷ ▲·▼ で設定する内容を選ぶ

● 放送の種類で「すべて」を選んだ場合は、すべての放送が指定されるため、放送メディア、チャンネルを指定することはできません。

● 放送メディアで「すべて」を選んだ場合は、放送メディアにかかわらず、すべてのチャンネルが指定されるため、チャンネルを指定することができません。

❸全部の設定が終わったら、決定 を押す

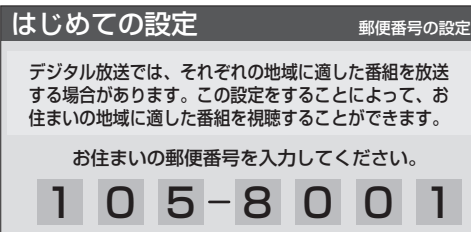
3 手順1、2を繰り返して「お好みB」～「お好みD」も、同様に設定する

12 お好み番組設定がすべて終わったら、▲·▼·◀·▶で「次へ進む」を選び、決定 を押す

郵便番号の設定

● お住まいの地域に応じたデータ放送（天気予報・選挙速報）の視聴や、電話回線を通しての双方向通信サービスを、もよりのアクセスポイント（接続中継点）で利用するための設定です。郵便番号を設定することで、地域が指定されます。

13 1 ～ 10 0（0）でお住まいの地域の郵便番号を入力し、決定 を押す

● 間違えて入力したときは、◀ でカーソルを戻してからもう一度入力します。

次のページにつづく

● キーワード一覧は変更することもできます。85
● データ放送の視聴中に郵便番号の設定を変更した場合、設定を有効にするには設定終了後にデータ放送を選局し直してください。
● 郵便番号入力で、上3ケタを入力して 決定 を押すと残りの4ケタは自動的に「0」が入力されます。

電話回線設定

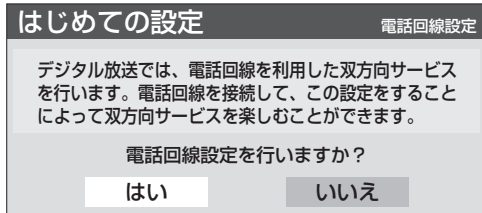
- 「電話回線の接続」26、27をした場合は、以下の手順で電話回線の設定をします。

14 画面の説明を読んで、◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

はじめての設定　電話回線設定

デジタル放送では、電話回線を利用した双方向サービスを行います。電話回線を接続して、この設定をすることによって双方向サービスを楽しむことができます。

電話回線設定を行いますか？

はい　いいえ

電話回線の設定をしない場合

❶ ◀・▶で「いいえ」を選び、決定を押して手順**19**に進む

15 外線発信番号の有無によって以下をする

- ご家庭内に電話交換機がある場合、外部に電話をかける際に、電話番号の前に0や#などを押すことがあります。これを外線発信番号といいます。

外線発信番号が必要な場合

❶ ◀・▶で「はい」を選び、決定を押して手順**16**に進む

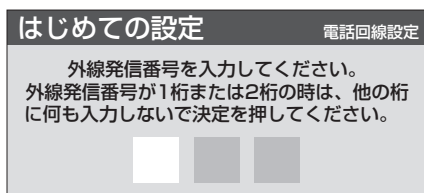
外線発信番号が不要な場合

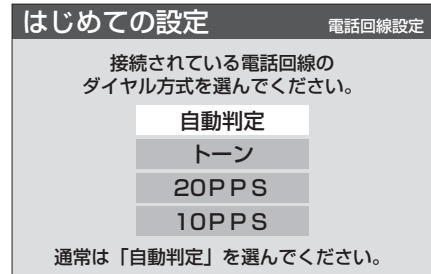
❶ ◀・▶で「いいえ」を選び、決定を押して手順**17**に進む

16 外線発信番号を入力して、決定を押す

- 1～10 0（0）、12 #（#）、11 ＊（＊）で入力します。（左詰めで入力してください）
- 最大3ケタまでの設定ができます。
- 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、入力し直します。
- 1ケタ、または2ケタの設定をする場合は、左詰めで入力し、ほかのケタには何も入力しないで決定を押します。
  ※「110」や「118」、「119」を入力した場合は、自動的に取り消されます。

はじめての設定　電話回線設定

外線発信番号を入力してください。
外線発信番号が1桁または2桁の時は、他の桁に何も入力しないで決定を押してください。

17 ▲・▼で電話回線のダイヤル方式を選び、決定を押す

- 通常は「自動判定」を選びます。自動判定以外を選んだ場合は、手順**19**に進みます。

「自動判定」を選んだ場合

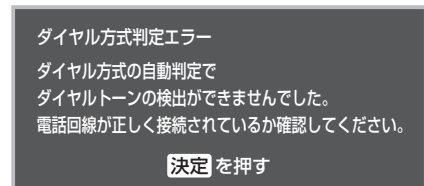
- 「判定中」の画面が表示されます。
- 最初に「ダイヤルトーン検出」(電話回線が正しく接続されていることのチェック)が行われ、続いて「ダイヤル方式」の自動判定が行われます。
- 自動判定が終了すると判定結果が表示されます。次は手順**18**に進みます。

自動判定中に「ダイヤル方式判定エラー」が表示された場合

- 下図のメッセージの場合は、電話回線の接続26、27を確認してから、もう一度手順**17**を行ってください。

ダイヤル方式判定エラー

ダイヤル方式の自動判定で
ダイヤルトーンの検出ができませんでした。
電話回線が正しく接続されているか確認してください。

決定を押す

- 電話回線の種類などによっては、自動判定ができない場合があります。自動判定できない場合は、決定を押して手順**17**の画面にもどり、使用している電話回線のダイヤル方式（トーン、20PPS、10PPS）を選んで決定を押し、手順**19**に進みます。
- ダイヤル方式が不明の場合は、ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。26、27

自動判定が終了しない場合

- 3分以上たっても終了しない場合は、戻るを押して自動判定を中止し、電話回線と正しく接続されているか確認してください。26

設置と基本の接続・設定

はじめての設定をする つづき

はじめての設定 つづき

電話回線設定 つづき

18 判定結果を確認して、決定を押す

19 設定内容を確認する

● 設定内容を変更する場合は 戻る を押してください。戻る を押すたびに、「はじめての設定」の各項目の最初の画面に戻ります。

はじめての設定

設定を完了しました。

地方／地域　：関東／東京都
郵便番号　　：105−8001
ダイヤル方式：トーン
外線発信番号：なし

続けて簡易確認テストを行いますか？

はい　　いいえ

設定内容によって表示は異なります。

■ 簡易確認テストをする場合

● 手順**20**に進みます。

■ 簡易確認テストをしない場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、決定を押す

❷ 終了 を押して、メニューを消す

● これで「はじめての設定」は終了です。

簡易確認テスト

20 ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 簡易確認テストが始まります。
● 受信テストは、BS→110度CS→地上Dの順に行われます。

■ 「地上D受信テスト」の伝送チャンネルを切り換えるには

❶ ◀·▶で伝送チャンネルを選ぶ

● 受信テストが始まり、結果が表示されます。

❷ 他の伝送チャンネルをテストする場合は、手順❶と同じ操作をする

※ お住まいの地域の地上デジタル放送で使用されている伝送チャンネルが分からない場合は、「地上D受信テスト」を省略して、実際の放送が視聴できるか確認してください。

● 戻る を押すと、テストを中止して前の画面に戻ることができます。
● **テスト結果については、次ページをご覧ください。**

21 簡易確認テストが終了したら、決定を押す

● これで「はじめての設定」は終了です。
● 終了 を押して、メニューを消します。

次のページにつづく

簡易確認テスト結果について

テスト項目	テスト結果の表示	内容または対処のしかた
地上D受信テスト ［地上デジタル放送が受信できることをテストします。］	「正常に受信できています。」	――――
	「正しく受信できません。」	●アンテナの接続 23ページ と方向調整 29ページ を確認してください。
BS・110度CS受信テスト ［BSデジタル放送と110度CSデジタル放送が受信できることをテストします。］	「正常に受信できています。」	――――
	「正しく受信できません。」または「BS(110度CS)は受信できますが110度CS(BS)が受信できません。」	●アンテナの接続 25ページ と設定・調整 30ページ を確認してください。
カードテスト ［本機で使えるB-CASカードかどうかテストします。］	「正常に受信できています。」	――――
	「B-CASカードを正しく挿入してください。」	●B-CASカードを正しい向きで挿入後、もう一度簡易確認テストをしてください。
	「このICカードはご使用になれません。正しいB-CASカードを挿入してください。」	
	「このB-CASカードはご使用になれません。」	●B-CASカードを確かめてください。 ●B-CASカードを交換してください。 ●カードに記載のB-CASカスタマーセンターにお問い合わせください。
	「B-CASカードが故障しています。」	
電話回線テスト ［電話回線が正しくつながることをテストします。］	「電話回線の接続を確認しました。」	――――
	「ダイヤルトーンの検出ができませんでした。」	●電話回線が正しく接続されているか確認し、電話回線設定 69ページ、70ページ で設定状態を再確認してください。
	「電話回線の接続を確認できませんでした。」	●ダイヤル方式の設定が正しくないことが考えられます。なお、ターミナルアダプターを使用している場合は、電話回線テストはできません。
	「外線発信番号の設定により電話回線テストができませんでした。」	●外線発信後の待ち時間 70ページ を数値で設定している場合は、電話回線テストはできません。この場合に電話回線の確認をするには、「電話回線テスト」の「センター接続テスト」 70ページ をしてください。

「はじめての設定」や「地上A自動設定」59ページ をしても地上アナログ放送を正しく受信できない場合

- アンテナの種類(チャンネル1 ～12 はVHF 、13 ～62 はUHF)や向きが、設定した地域･都市名の条件に合っていることを確認してください。
- 複数の地域･都市名が隣接する地域にお住まいの場合は、地域･都市名を変えて設定すれば受信状態が改善されることがあります。

  例: お使いになる地域が「横浜みなと」の場合は「横浜･川崎」または「平塚･茅ケ崎」など。

  このような場合は、次のようにして設定します。

  ❶ **近隣の別の地域･都市にアンテナの種類や向きを合わせる**
  - お買い上げの販売店にご相談ください。

  ❷ **「地上A 自動設定」59ページ～60ページ の手順1～4を行う**

  ❸ **手順5で、アンテナを向けた地域･都市名を選び、決定 を押す**

左記をしても地上アナログ放送の一部のチャンネルが正しく受信できない場合

❶ **「手動設定」62ページ の手順1～3を行う**

❷ **手順4で、該当する「リモコンボタン」を選び、ほかに受信できる「チャンネル」を選んで、決定 を押す**

例: 地域･都市名を「横浜･川崎」に設定した場合で、リモコンボタン7 に割り当てられている「テレビ神奈川」「42CH」だけが正しく受信できないときは、隣接地域の「48CH」(横浜みなと)や「46CH」(小田原)などに変えてみて、正しく受信できるところを探します。

手動設定	地上A
リモコンボタン	7
チャンネル	◂ 48 ▸
表示	42
放送局	TVKテレビ
受信地域	―――

はじめての設定をする つづき

はじめての設定 つづき

データ放送用メモリーの割当て

● 32 の手順8や、「初期スキャン」60 の手順4などで、データ放送用メモリーの割当て画面が表示されたときには、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

● 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があり、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。
通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。
その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当画面（下の手順1の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。
メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

1 ▲・▼ でメモリーを割り当てる放送局を選び、決定 を押す

● 選んだ放送局にチェックマーク「✔」がつきます。
もう一度 決定 を押すと、指定が取り消されます。

● リモコンの 1 ～ 12 に設定されている放送局（放送局名表示の左側に1～12の数字が表示されています）については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。

● **このあと、手順2～4の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。**
消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

初期スキャン

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
▲☑11	テレビ埼玉	○	あり
☑12	テレビ東京	○	あり
□--	―――	○	あり
□--	―――	○	あり
▼□--	―――	○	あり

選択した放送局の数：12

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

● 1 ～ 12 については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

● 手順4の画面になります。（確認メッセージが表示されます）

● 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
決定 を押したあと、手順1～2の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀・▶で「はい」を選び、決定 を押す

● 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、このページの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。

初期スキャン

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
▲ 5	MXテレビ	○	あり
6	TBS	○	あり
▼ 7	TVKテレビ	○	あり

メモリーを割り当てる放送局は上記でよろしいですか？

はい　いいえ

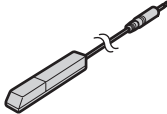
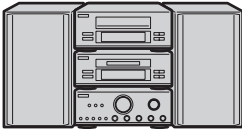
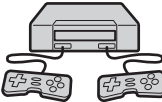
メモリーを割り当てなかった放送局に関するデータはすべて消去されます。消去されたデータは元に戻すことができませんのでご注意ください。

5 このページの設定をする前の操作を続ける

● 「はじめての設定」の中の「初期スキャン」の場合
33 の手順9へ

● 「初期スキャン」の場合
60 の右側手順5へ

● 「再スキャン」の場合
60 の右側手順2または 61 の左側手順3へ

お知らせ

● 個人の情報を消去するには、「すべての初期化」をしてください。90

本機に接続できる外部機器一覧

● 本機に接続できるおもな外部機器は以下のとおりです。接続や設定のしかたはそれぞれの参照ページをご覧ください。

テレビ（本機）

接続できる外部機器	参照ページ
ビデオ ビデオコントロールケーブル	接続 40 設定 41
DVDプレーヤー	接続 40
ステレオ	接続 48～49 設定 89
テレビゲーム機	接続 50
USBマスストレージ	接続 50
USBキーボード	接続 50
ビデオレコーダー（東芝RDシリーズ）	接続 43、45 設定 44、46
LAN HDD	接続 51～55 設定 76～79
HDMI端子付き機器	接続 47 設定 88
i.LINK端子付き機器 ・D-VHSビデオ ・HDDビデオレコーダー	接続 57～58 設定 75
デジタルメディアサーバー ・DLNAガイドライン対応のDVDレコーダーやパソコン	接続 53 確認 56

ご注意

● 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
● 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 録画または録音したものは個人的に楽しむほかは、著作権法によって権利者に無断で使用することはできません。

● 本機のビデオ入力1のD4映像入力端子と映像入力端子に同時に接続したときは、D4映像入力端子を優先します。
● 本機のビデオ入力2、ビデオ入力3のS2映像入力端子と映像入力端子に同時に接続したときは、S2映像入力端子を優先します。
● 接続機器の音声出力がモノラルのときは、別売のステレオ／モノラル変換コード（TSC-AX05など）をご使用ください。
● DVDプレーヤーやデジタルチューナーなど、コピー制御のかかった映像を出力する機器は、本機に直接つないでください。（ビデオやAVアンプなどを経由すると映像が乱れる場合があります）

他の機器をつなぐ（1）

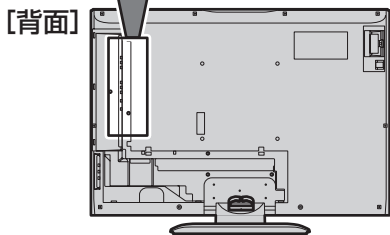
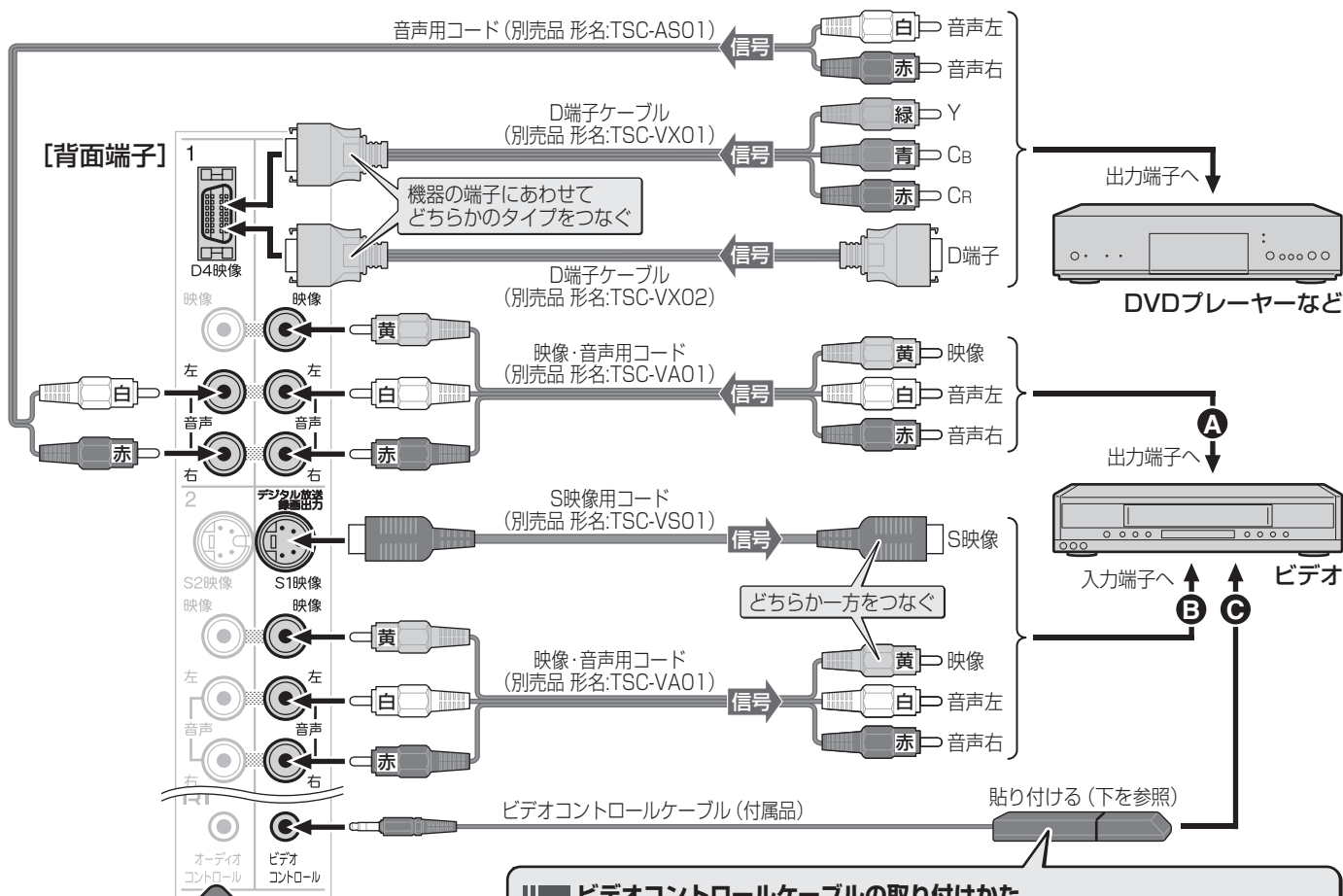
DVDプレーヤーやビデオをつなぐ

DVDプレーヤーをつなぐ

● DVDプレーヤーやビデオなどで、D端子やコンポーネント映像(Y、C_B、C_R)出力端子のある機器は、下図のようにD端子ケーブルと音声コードで本機の「ビデオ入力1」につなぎます。
● D端子やコンポーネント映像出力端子がない場合は、映像・音声コードでつなぎます。S映像出力端子がある場合は、S映像コードと音声コードで「ビデオ入力2」につなぐこともできます。

ビデオをつなぐ

● ビデオの再生映像を本機で見るには、Ⓐの接続をします。下図の例では、映像・音声コードで本機の「ビデオ入力4」につないでいますが、S映像コードと音声コードで「ビデオ入力2」につなぐこともできます。
● 本機で受信したデジタル放送をビデオで録画するには、Ⓑの接続もします。より高画質で録画するには、S映像コードでつなぎます。
● 本機でビデオをコントロールして予約録画などをするときは、付属のビデオコントロールケーブルⒸをつなぎます。

音声用コード（別売品 形名:TSC-AS01）
信号
白 音声左
赤 音声右
D端子ケーブル
（別売品 形名:TSC-VX01）
緑 Y
青 C_B
赤 C_R
出力端子へ
［背面端子］
1
機器の端子にあわせて
どちらかのタイプをつなぐ
D端子
D4映像
D端子ケーブル
（別売品 形名:TSC-VX02）
DVDプレーヤーなど
映像
黄
映像・音声用コード
（別売品 形名:TSC-VA01）
黄 映像
白 音声左
赤 音声右
左
音声
右
Ⓐ
出力端子へ
2
デジタル放送録画出力
S映像用コード
（別売品 形名:TSC-VS01）
S映像
S2映像
S1映像
入力端子へ
ビデオ
どちらか一方をつなぐ
Ⓑ Ⓒ
映像・音声用コード
（別売品 形名:TSC-VA01）
黄 映像
白 音声左
赤 音声右
ビデオコントロールケーブル（付属品）
貼り付ける（下を参照）
オーディオコントロール
ビデオコントロール
［背面］

ビデオコントロールケーブルの取り付けかた

※使用できない場合がありますので、次ページの手順で動作確認をしてから貼り付けてください。

●ビデオコントロールケーブルが固定できる範囲内で、なるべく前に出してください。
●透明な面を下にして、見切り線（先端から約25mm）を目安にして貼り付けてください。
（両面接着テープの保護テープをはがして貼り付けます。）

セロハンテープなどで止める
コード
見切り線
約25mm以上
ビデオコントロールケーブル発光部
両面接着テープ
ビデオのリモコン受光部
ビデオ側面
ビデオ前面

● D4映像端子は、コンポーネント映像信号の525i、525p、750p、1125iに対応しています。DVDプレーヤーやビデオなどのほかに、これらのフォーマットの映像信号を出力する機器をつなぐことができます。
● ビデオの機種によっては付属のビデオコントロールケーブルで本機からコントロールできない場合があります。41～42
● ビデオコントロールケーブルの接続後、接続したビデオの設定が必要です。41～42
● 外部機器の接続端子やリモコン受光部などの位置については、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

ビデオ録画方式設定をする

● 本機でビデオをコントロールして、クイックメニューからの録画や予約での録画（操作編 30）をする場合には、あらかじめこの設定をしておくことが必要です。

1 以下の操作で「ビデオ録画方式設定」画面にする

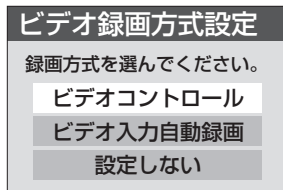
❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲·▼ で「録画機器設定」を選び、決定 を押す

❹ ▲·▼ で「ビデオ録画方式設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で接続したビデオに合った項目を選び、決定 を押す

ビデオ録画方式設定
録画方式を選んでください。
ビデオコントロール
ビデオ入力自動録画
設定しない

● 付属のビデオコントロールケーブルを使って連動録画をする場合は、「ビデオコントロール」に設定して手順**3**に進みます。
● 映像信号の入力を検出して自動録画をする機能のあるビデオを本機の「デジタル放送録画出力」端子に接続して、連動録画をする場合は、「ビデオ入力自動録画」に設定して、終了 を押します。
● 連動録画に対応していないビデオの場合には、「設定しない」に設定して、終了 を押します。

3 画面の説明に従って、ビデオの準備をする

❶ビデオのリモコンで、ビデオの電源が入/切（待機）できることを確認する

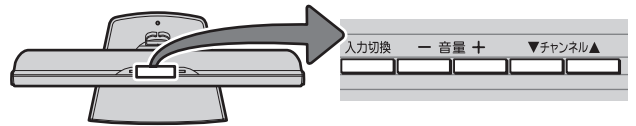
❷消去してもよいビデオテープをビデオに入れる

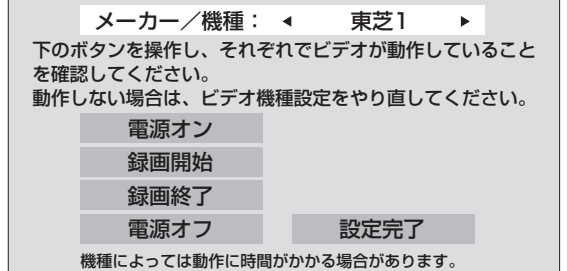
❸ビデオの電源を切（待機）にする

❹以上が終わったら、決定 を押す

4 ▲·▼·◀·▶ でビデオのメーカーを選び、決定 を押す

■該当するメーカーがないとき
●該当するメーカーがない場合は、ビデオコントロールケーブルの機能を使用することはできません。
● 戻る を押して手順**2**の画面に戻り、「設定しない」に設定して 終了 を押して終了します。

※ 次の手順**5**の操作では、本体上面の操作ボタンを使います。
リモコンで操作するとビデオが正しく動作しない場合があります。

5 以下の確認をする

❶ ▼チャンネル▲ で「メーカー／機種」の欄を選び、− 音量 + でリモコンモード（東芝1、東芝2など）を選ぶ

❷ ▼チャンネル▲ で「電源オン」を選び、入力切換 を押す
●ビデオの電源が「入」になることを確認します。
※動作するまでに最長で1分間ほどの時間がかかる場合があります。（次ページの❸も同様）

■「入」にならないとき
● 手順❶で別のリモコンモードを選び、もう一度手順❷の操作をしてください。

次のページにつづく

● 手順**2**で「ビデオ入力自動録画」に設定した場合、本機からの録画をしているときだけ、本機の「デジタル放送録画出力」端子から信号が出力されます。本機の電源が「待機」のときも録画時には同様に出力されます。
● 手順**2**の設定にかかわらず、本機の電源を「切」にした場合は、「デジタル放送録画出力」端子から信号は出力されません。
● ビデオコントロールケーブルの発光部をビデオに貼り付けるときは、多少動かしても確実に動作する位置を選んでください。
● この設定で選択するリモコンモードの番号は、ビデオのメーカーが決めているリモコンモードの番号とは関係ありません。
● 「設定しない」を選んだ場合は、以前にビデオの機種を設定していた場合も、その設定内容は削除されます。
● ビデオ機種設定の終了後はビデオ側でリモコンモードを変えないでください。

他の機器をつなぐ（1）つづき

ビデオ録画方式設定をする つづき

● ビデオ側でリモコンのモードを切り換えられる場合は、それも試してください。

● どのリモコンモードでも「入」にならない場合は、付属のビデオコントロールケーブルの機能は利用できません。終了を押して終了してください。

❸同様にして「録画開始」「録画終了」「電源オフ」が動作することを確認する

●「録画開始」
ビデオの録画が開始することを確認します。

●「録画終了」
ビデオの録画が終了することを確認します。

●「電源オフ」
ビデオの電源が「切(待機)」になることを確認します。

●「録画開始」、「録画終了」、「電源オフ」のすべてが動作する場合でないと、付属のビデオコントロールケーブルの機能は利用できません。終了を押して終了してください。

❹▼チャンネル▲または－ 音量 ＋で「設定完了」を選び、入力切換を押す

6 終了を押して、メニューを消す

本機でコントロールできないビデオの場合

（手順**2**で「ビデオ入力自動録画」に設定したビデオを除きます）

● 付属のビデオコントロールケーブルを使った連動録画機能を利用できません。

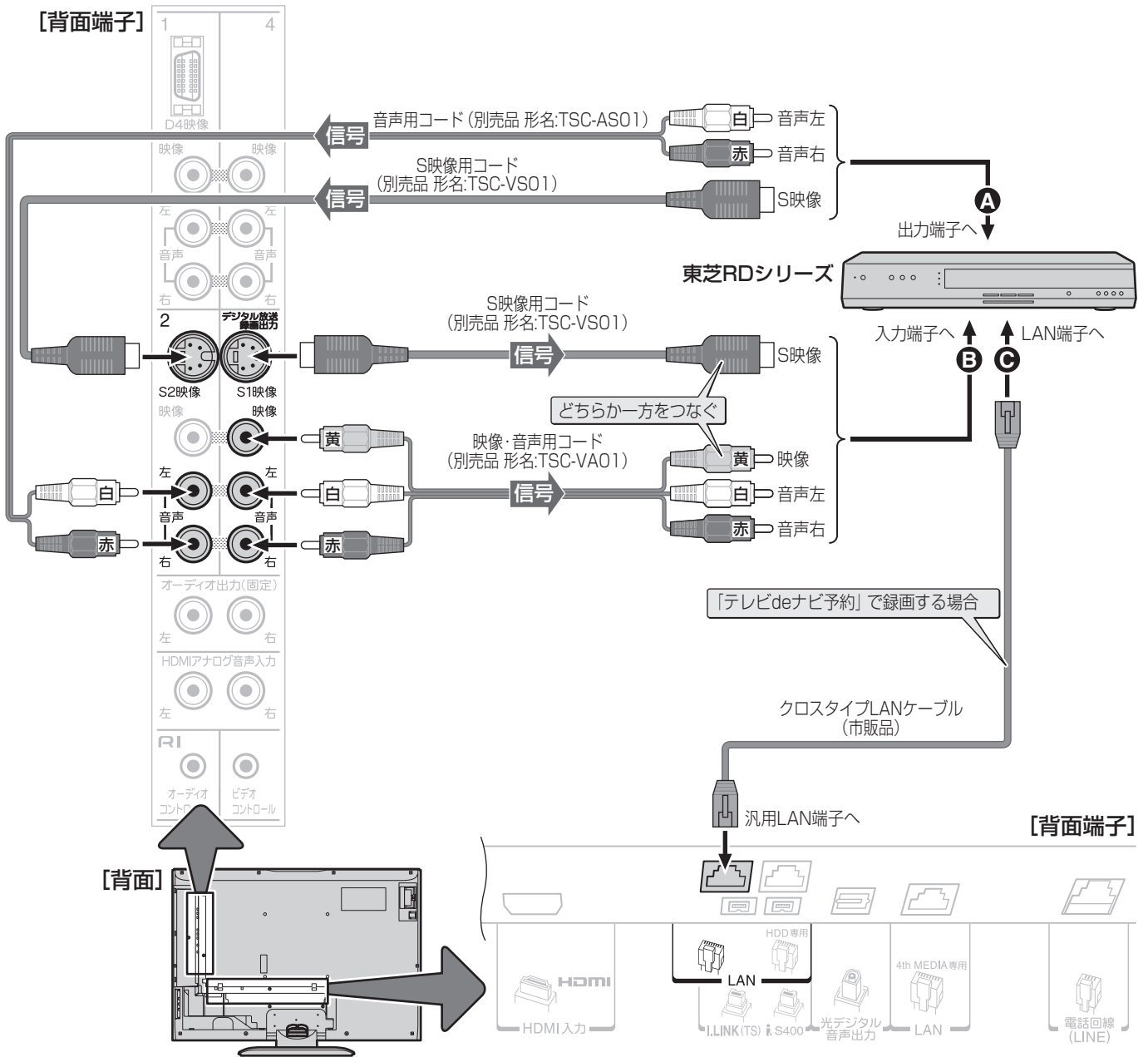
● クイックメニューからの録画(操作編 31)の場合は、本機の操作に合わせてビデオ側でも録画の操作をしてください。

● 本機で録画予約(操作編 32 、 33)をする場合は、ビデオ側でも録画の予約をしてからタイマー待機にしてください。

東芝製HDD&DVDビデオレコーダー(東芝RDシリーズ)をつなぐ(1) ～直接つなぐ場合～

※「LAN端子の接続(1)」27 をしていない場合(本機と東芝RDシリーズのLAN端子を直接つなぐ場合)

- 再生映像を本機で見るには、Ⓐの接続をします。下図の例では、S映像コードと音声コードで本機の「ビデオ入力2」につないでいますが、D端子付きの機種では、D端子ケーブルと音声コードで「ビデオ入力1」につなぐこともできます。
- 本機で受信したデジタル放送を録画するには、Ⓑの接続をします。
- LANケーブルⒸの接続をすれば、本機の「録画・予約をする」(操作編 30)での予約内容がRDシリーズに設定されます。(本書や別冊「操作編」では、この機能を「テレビdeナビ予約」と記載しています)

- LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。本機と東芝RDシリーズを直接つなぐ場合には、クロスケーブルをご使用ください。
- 「LAN端子の接続(1)」27 の「ご注意」もお読みください。

他の機器をつなぐ

- 本機の「テレビdeナビ」で録画予約ができるビデオレコーダー(東芝RDシリーズ) —2005年8月現在—
  形名: RD-XS40、RD-X3、RD-XS24、RD-XS31、RD-XS34、RD-XS36、RD-XS41、RD-XS43、RD-XS46、RD-XS53、RD-X4EX、RD-X4、RD-X5、RD-XV34、RD-XV44

他の機器をつなぐ（1）つづき

RDシリーズと本機を設定する(1) ～直接つなぐ場合～

● 前ページの接続をした場合の設定です。本機とRDシリーズを直接LANケーブルで接続して、「テレビdeナビ予約」の機能を使うための設定をします。RDシリーズと本機の電源を入れて、以下の設定をしてください。

RDシリーズの「ネットワーク設定」をする

● この手順は、RDシリーズ側の設定です。RDシリーズの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

1 「ネットワーク設定」の画面にする

2 以下を設定して保存する

● 確認、メモした内容は、右の「テレビdeナビ設定」で使います。

項目	設定内容
本体名	設定内容を確認し、メモする
本体セキュリティ	
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使わない
IPアドレス	192. 168. 1. 15
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1
DNSサーバー	192. 168. 1. 1

3 本体の 電源 を押して電源を切ってから、電源を入れ直す

●設定した内容が有効になります。

本機の「LAN端子設定」をする

1 「LAN端子設定」71～72を以下のように設定する

● 「IPアドレス設定」

項目	設定内容
IPアドレス自動取得	しない
IPアドレス	192. 168. 1. 20
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1

● 「DNS設定」

項目	設定内容
DNSアドレス自動取得	しない
DNSアドレス(プライマリ)	192. 168. 1. 1

※ DNSアドレス(セカンダリ)の入力は不要です。

● 「プロキシ設定」:「使用しない」に設定

2 終了 を押して、メニューを消す

本機の「テレビdeナビ設定」をする

1 以下の操作で「録画機器設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲·▼ で「録画機器設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「テレビdeナビ設定」を選び、決定 を押す

テレビｄｅナビ設定	
ＲＤ本体名	
ユーザー名	
パスワード	未設定
ポート設定	80
連動ライン入力番号	ライン入力3

3 ▲·▼ で「RD本体名」を選び、決定 を押す

● 文字入力画面になります。操作編28の文字入力のしかたを参照して、左上の手順**2**でメモした本体名を入力してください。

4 同様にして以下を設定する

❶ ▲·▼ で「ユーザー名」を選び、RDシリーズの本体ユーザー名を入力する

❷ ▲·▼ で「パスワード」を選び、RDシリーズの本体パスワードを入力する

❸ ▲·▼ で「ポート番号」を選び、RDシリーズの本体ポート番号を入力する

5 ▲·▼ で「連動ライン入力番号」を選び、◀·▶ で本機を接続したRDシリーズのライン入力を選ぶ

6 終了 を押して、メニューを消す

7 本体の 電源 を押して電源を切ってから、電源を入れ直す

● 設定した内容が有効になります。

お知らせ

● インターネット常時接続環境につなぐ場合は、上記と異なる設定をします。46

東芝製HDD&DVDビデオレコーダー(東芝RDシリーズ)をつなぐ(2) ～ルーターでつなぐ場合～

※「LAN端子の接続(1)」27ページをしている場合のつなぎかたです。

- 再生映像を本機で見るには、Ⓐの接続をします。
- 本機で受信したデジタル放送を録画するには、Ⓑの接続をします。
- 「LAN端子の接続(1)」で接続したルーターに、LANケーブルⒸをつなげば、本機の「録画・予約をする」30ページでの予約内容がRDシリーズに設定されます。(本書や別冊「操作編」では、この機能を「テレビdeナビ予約」と記載しています)

- LAN端子の接続(1)」27ページの「ご注意」と、46ページの「LAN端子についてのお知らせとご注意」もお読みください。

[背面端子]

音声用コード(別売品 形名:TSC-AS01)
信号
白 音声左
赤 音声右
S映像用コード
(別売品 形名:TSC-VS01)
信号
S映像
Ⓐ
出力端子へ
東芝RDシリーズ
S映像用コード
(別売品 形名:TSC-VS01)
信号
S映像
入力端子へ
LAN端子へ
Ⓑ Ⓒ
どちらか一方をつなぐ
映像・音声用コード
(別売品 形名:TSC-VA01)
信号
黄 映像
白 音声左
赤 音声右
ストレートタイプ
LANケーブル
(市販品)
ルーター
※ルーターは、46ページに記載のものをご使用ください。
モデムへ
WAN端子へ
LAN端子へ
ストレートタイプ
LANケーブル(市販品)
LAN端子へ
「テレビdeナビ予約」で録画する場合
こちらのLAN端子につないでください。
汎用LAN
端子へ
[背面端子]
[背面]

1 4 D4映像 映像 映像 左 左 音声 音声 右 右 2 デジタル放送録画出力 S2映像 S1映像 映像 映像 左 左 音声 音声 右 右 オーディオ出力(固定) 左 右 HDMIアナログ音声入力 左 右 RI オーディオコントロール ビデオコントロール

HDMI HDMI入力 HDD専用 LAN i.LINK(TS) i.S400 光デジタル音声出力 4th MEDIA専用 LAN 電話回線(LINE)

他の機器をつなぐ（1）つづき

RDシリーズと本機を設定する(2) ～ルーターでつなぐ場合～

● 前ページの接続をした場合の設定です。本機とRDシリーズをインターネット常時接続環境に接続して、「テレビdeナビ予約」の機能を使うための設定をします。最初にルーターの電源を入れ、続いて他の機器の電源を入れて、以下の設定をしてください。

ルーターのDHCP機能を確認する

● DHCP機能が「有効」になっていることを確認してください。出荷時点で「有効」の状態に設定されているのが一般的ですが、詳しくはルーターの取扱説明書をご覧ください。

RDシリーズの「ネットワーク設定」をする

● この手順は、RDシリーズ側の設定です。RDシリーズの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

1 「ネットワーク設定」の画面にする

2 以下を設定して、保存する

● 確認、メモした内容は、「テレビdeナビ設定」で使います。

項目	設定内容
本体名	設定内容を確認し、メモする
本体セキュリティ	
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使う

本機の「LAN端子設定」をする

1 「LAN端子設定」71ﾍﾟ～72ﾍﾟを以下のように設定する

● 「IPアドレス設定」

項目	設定内容
IPアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

● 「DNS設定」

項目	設定内容
DNSアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

2 [終了]を押して、メニューを消す

3 本体の[電源]を押して電源を切ってから、電源を入れ直す

●設定した内容が有効になります。

本機の「テレビdeナビ設定」をする

● 手順の内容は44ﾍﾟと同じです。

LAN端子についてのお知らせとご注意

● 「LAN端子の接続(1)」27ﾍﾟ、「LAN端子の接続(2)」28ﾍﾟ、「東芝製HDD&DVDビデオレコーダー(東芝RDシリーズ)をつなぐ(2)」45ﾍﾟをする場合には、以下をお読みください。

本機が接続できるルーターについて

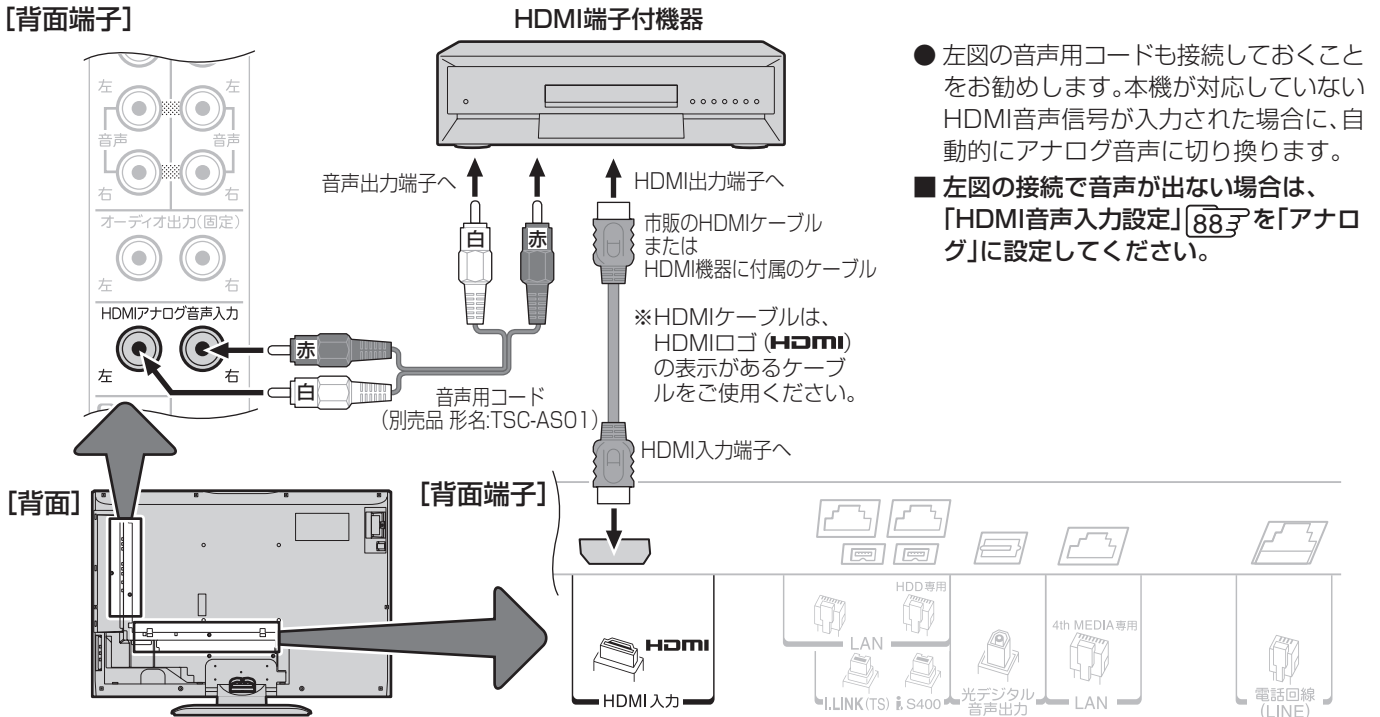
● 以下の製品での有線接続で正常動作を確認済です。無線接続の場合や、ほかの製品では本機が正常に動作しない場合があります。

メーカー名： プラネックスコミュニケーションズ(株)
形　　名： BLW-04FMG

ご注意

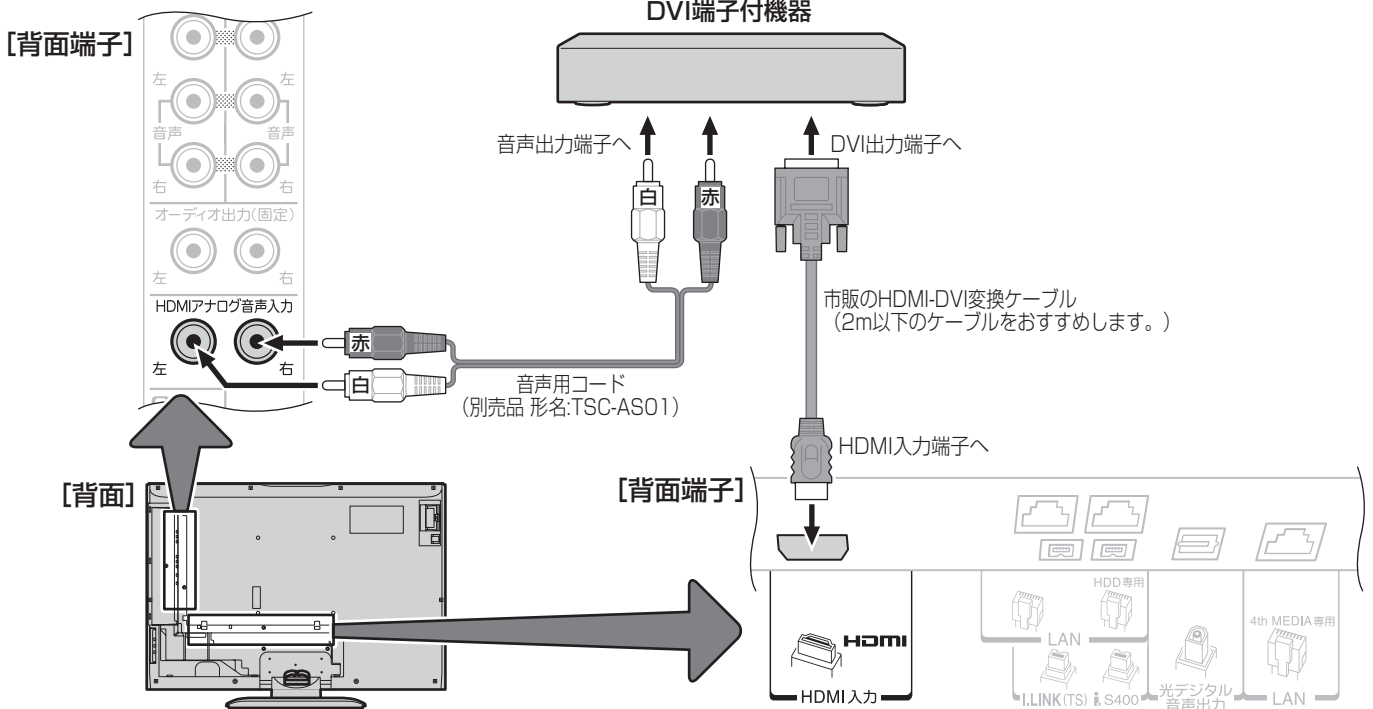
● イーサネット通信機能は、本機が動作状態のときにだけ使用できます。
● プロバイダー(インターネット接続事業者、以下同じ)側の設定や制限によっては、LAN機能の一部が使用できない場合があります。電話通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および通信に使用される通信費用は、お客様ご自身でお支払いください。
● ADSLでご利用いただくには、ADSLモデムが必要です。通信事業者やプロバイダーが採用している接続・契約借款等によって、本製品をご利用いただけない場合や同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。(契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります)
● 基本的には、カテゴリ５（ＣＡＴ５）と表示された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブルをご使用ください。ただし、接続機器がすべて10BASE-Tの場合は、カテゴリ3のケーブルも使用できます。
● 以下の場合やご不明な点は、ご契約のADSL回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーにお問い合わせください。
・ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
・一部のインターネット接続サービスでは、本機をご利用できないことがあります。
・プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
・ADSL回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
・ADSLモデムやケーブルモデムについてご不明な点など。
● ご使用のモデムなどによっては、正常に通信できない場合があります。
● 27ﾍﾟ、28ﾍﾟ、45ﾍﾟで図示した以外の機器が接続されているときは、正常に通信できない場合があります。

HDMI端子付の機器をつなぐ

- HDMI端子とは、テレビと接続機器をデジタル信号でつなぐことができるインターフェイス（接続システム）です。
- HDMI端子付きの機器とテレビ間を一本のケーブルで接続すると、デジタル映像／音声信号を高品質のまま伝送することができます。

- 左図の音声用コードも接続しておくことをお勧めします。本機が対応していないHDMI音声信号が入力された場合に、自動的にアナログ音声に切り換ります。

■ **左図の接続で音声が出ない場合は、「HDMI音声入力設定」88 を「アナログ」に設定してください。**

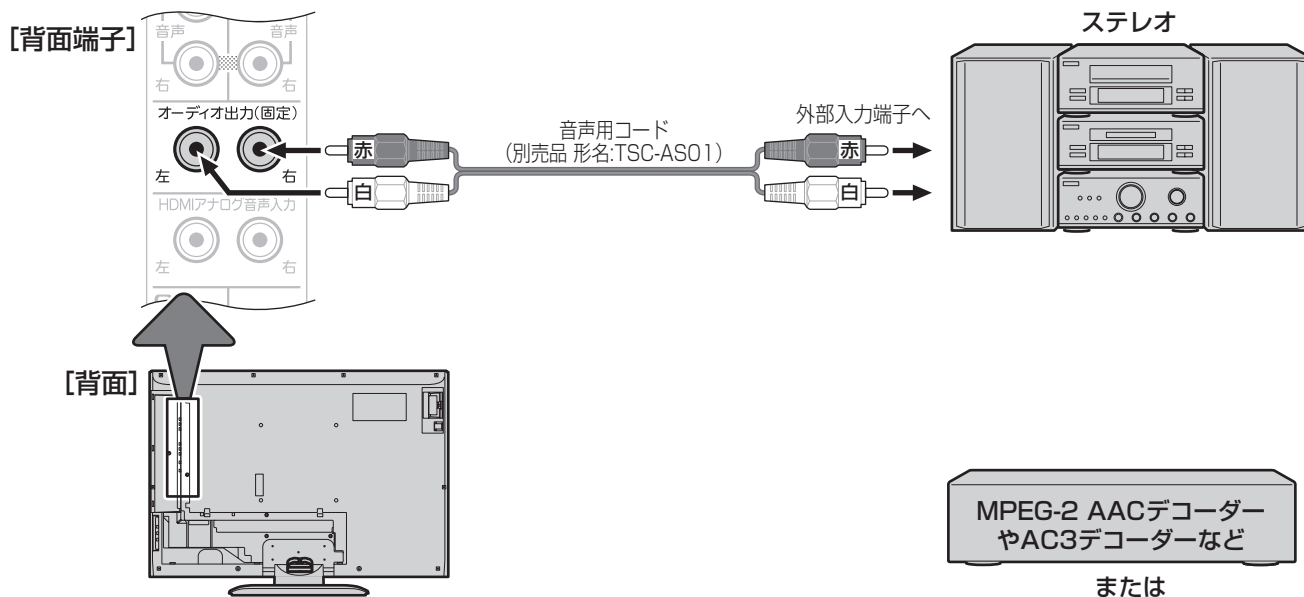
DVI端子付の機器とつなぐ場合

- DVI-HDMI変換ケーブルを使えば、DVI端子付の機器もつなげます。ただし、パソコンのDVI端子との接続には対応していません。また、DVI端子からは音声が出力されないので、下図のように音声コードでつなぐ必要があります。

お知らせ
- 本機にはHDMIおよびDVI機器を接続できますが、接続する機器によっては映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- 本機のHDMI端子が対応している映像信号：525i（480i）、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）
  ※1125p（1080p）には対応していません。
- 本機のHDMI端子が対応している音声信号
  種類：リニアPCM、 サンプリング周波数：48kHz／44.1kHz／32kHz

他の機器をつなぐ（1）つづき

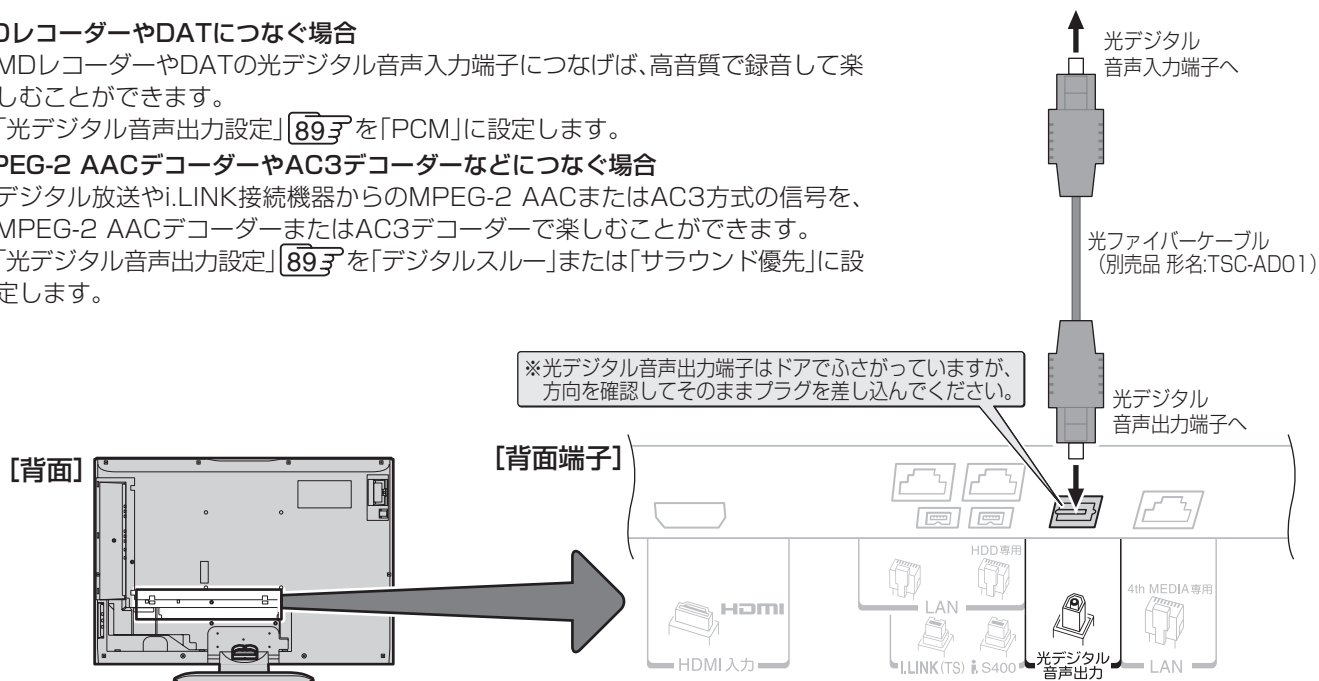
ステレオにつなぐ

オーディオ出力(固定)端子を使って接続する場合

［背面端子］
オーディオ出力(固定)
左 右
赤 白
音声用コード
（別売品 形名:TSC-AS01）
外部入力端子へ
ステレオ
［背面］

光デジタル音声出力端子を使って接続する場合

■ MDレコーダーやDATにつなぐ場合
● MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子につなげば、高音質で録音して楽しむことができます。
● 「光デジタル音声出力設定」89☞を「PCM」に設定します。

■ MPEG-2 AACデコーダーやAC3デコーダーなどにつなぐ場合
● デジタル放送やi.LINK接続機器からのMPEG-2 AACまたはAC3方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーまたはAC3デコーダーで楽しむことができます。
● 「光デジタル音声出力設定」89☞を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

MPEG-2 AACデコーダーやAC3デコーダーなど
または
サンプリングレートコンバーターを内蔵したMDレコーダーやDATなど
光デジタル音声入力端子へ
光ファイバーケーブル
（別売品 形名:TSC-AD01）
光デジタル音声出力端子へ
※光デジタル音声出力端子はドアでふさがっていますが、方向を確認してそのままプラグを差し込んでください。
［背面］
［背面端子］
HDMI入力
LAN
HDD専用
i.LINK(TS) S400
光デジタル音声出力
4th MEDIA専用
LAN

使いかた

● 本機の音量をゼロにして、ステレオ機器側で音量を調整します。

次のページにつづく

■光デジタル音声出力端子について
● 本機が出力する光デジタル音声出力のサンプリング周波数は、PCMの場合、48kHzまたは32kHzです。
● サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
● 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、データ放送の一部の音声（効果音など）が、光デジタル音声出力端子から出力されないことがあります。
● MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダーやAC3デコーダー側で切り換えてください。
● HDMI入力の選択時に光デジタル音声出力端子から出力される信号を、他の機器に録音することはできません。

RI端子(RI EX対応品)付オンキヨー製AVアンプを使用する場合

［背面端子］
オーディオ出力(固定)
左 右
HDMIアナログ音声入力
RI
オーディオコントロール
ビデオコントロール

音声用コード
（別売品 形名:TSC-AS01）
赤
白
オーディオ入力端子へ
RI端子(RI EX対応品)付オンキヨー製AVアンプ
モノラル音声用コード
（別売品 形名:TSC-AX01……1.5m
別売品 形名:TSC-AX02……3.0m）
RI端子へ
※必ず両方ともつないでください。
光デジタル音声入力端子へ
光ファイバーケーブル
（別売品 形名:TSC-AD01）
※光デジタル音声出力端子はドアでふさがっていますが、方向を確認してそのままプラグを差し込んでください。
光デジタル音声出力端子へ
［背面］
［背面端子］
HDMI入力
LAN
HDD専用
i.LINK(TS) S400
光デジタル音声出力
4th MEDIA専用
LAN

こんなことができます

● 本機のリモコンの 電源 で、本機とAVアンプの電源を同時に「入」⇔「待機」にできます（あらかじめ、本機とAVアンプを「待機」にしておきます）。同時に、AVアンプは本機からの入力を自動的に選択します。本機の電源とAVアンプの電源を連動しないようにすることもできます。詳しい設定方法は、89ページをご覧ください。

● 本機のリモコンの 音量 や 消音 で、AVアンプの音量調整や消音の操作ができます。本機単独動作時とは異なる表示が画面に出ます。

連動動作についてのご注意

● 連動動作ができるのは、オンキヨー製RI端子付きAVアンプ（RI EX対応品）に限ります。詳しくはオンキヨー製AVアンプの取扱説明書やカタログなどでご確認ください。

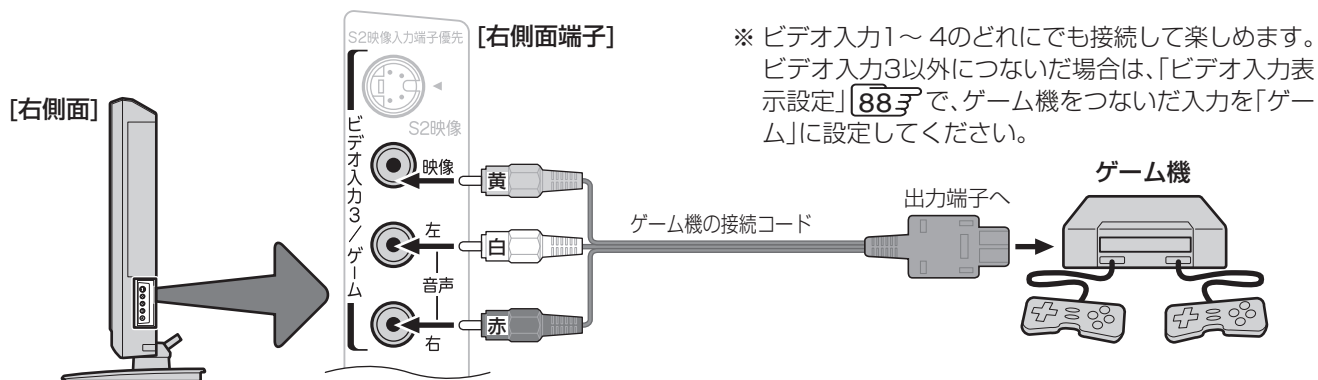
● オンキヨー製AVアンプが本機からの入力を選択しているときだけ連動動作します。連動動作中にAVアンプが本機以外の入力（たとえばCDプレーヤーなど）を選択すると、連動動作が解除されます。再度、本機からの入力を選択すれば連動動作をします。詳しくは、オンキヨー製AVアンプの取扱説明書をご覧ください。

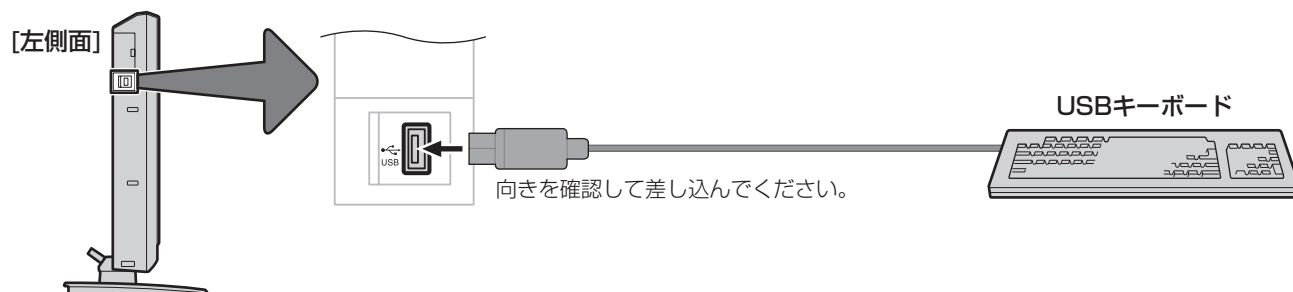
● RI EXはオンキヨー株式会社の商標です。
● 連動動作中は本機のスピーカーから音は出ません。ヘッドホーンは、副画面モードまたは親切モード（操作編26ページ）であれば音が出ます。
● 本機の光デジタル音声出力設定を「サラウンド優先」に設定することをお勧めします。ただし、MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、データ放送の一部の音声（効果音など）が、光デジタル音声出力端子から出力されないことがあります。
● MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、主音声･副音声の切換は本機では行われません。AVアンプ側で切り換えてください。

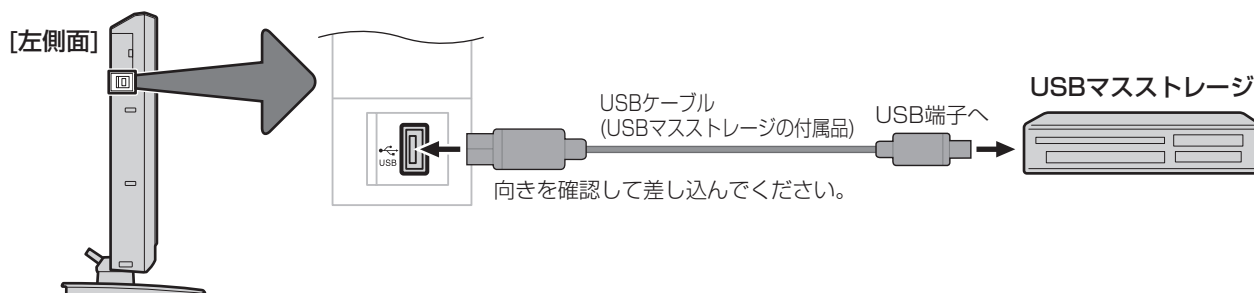
他の機器をつなぐ（1）つづき

ゲーム機をつなぐ

- ゲーム機は、本機右側面のビデオ入力3/ゲーム端子につなぎます。
- 入力切換（操作編 13）で「ビデオ入力3/ゲーム」を選択すれば、ゲームに適した画質と画面サイズになります。
- 一時的にDVビデオカメラなどをつないで使うときは、入力切換で「ビデオ入力3/ゲーム」を選んでから 終了 を押します。
- 常にゲーム機以外の機器をつなぐ場合は、「ビデオ入力表示設定」88 で「ゲーム」以外に設定してください。

※ テレビ画面に向けて光線銃などを使うゲームは本機では使用できません。（原理上、正しく動作しません）

USBキーボードをつなぐ

- USBキーボードをつなげば、インターネット機能（操作編 44）などで文字入力をするときなどに便利です。

USBマスストレージをつなぐ

- USBマスストレージクラスに対応しているメモリーカードリーダー（ライター）やデジタルカメラなどをつないで、静止画（JPEGファイル）をテレビ画面で見ることができます。（操作編 42）

- USBケーブルの抜き差しや、メモリーカードリーダー（ライター）にメモリーカードの抜き差しするときは、必ず本体の 電源 で本機の電源を「切」にしてください。「入」や「待機」の状態で抜き差しすると、メモリーカードなどに記録されているデータが破壊されるおそれがあります。
- 動作中に本機の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。データが破壊されるおそれがあります。
- USBマスストレージ機器の動作や取扱いなどについては、機器の取扱説明書もよくお読みください。

■USB機器について

- 本機で使用できるUSBキーボードやUSBマスストレージについては操作編 87 をご覧ください。
- USBハブを使って本機のUSB端子に接続した場合に認識できる機器数は最大8です。スロットを複数持つメモリーカードリーダー（ライター）などの場合は、1スロットで1台とみなします。なお、USBハブを使った場合は、操作編 87 に記載の機器でも正常に動作しなくなることがあります。

他の機器をつなぐ (2)

LAN HDD、パソコン、デジタルメディアサーバーをつなぐ

LAN HDDを本機につないで使用する際は、必ず以下をお読みください!

※ 以下にLAN HDDの注意事項を記載しますが、パソコンの場合も同様です。

本機に接続できるLAN HDD

● 右記の機種は、本機に接続して録画･再生などができることを確認済です。
ただし、すべての動作を保証するものではなく、機種によってはいくつかの機能が正常に動作しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

● 右記以外の機種と本機の組み合わせでは、正しく動作しない場合があります。

メーカー	形名	容量(公称値)
アイ・オー・データ機器	HDL-300U	300GB
	HDL-250U	250GB
	HDL-160U	160GB
	HDL-120U	120GB

● 接続できる機器については、ホームページで順次公開する予定です。(ホームページについては、13ﾍﾟをご覧ください)

● 本機の汎用LAN端子に接続するときは、必ずルーターを通してください。

LAN HDDの本機への登録について

● 本機のLAN HDD専用端子につないだ場合は、本機に自動的に登録されます。(登録には時間がかかる場合があります)

※ 汎用LAN端子につないだ場合は、手動操作での登録が必要です。(詳しくは76ﾍﾟをご覧ください)

本機のDHCPサーバー機能(IPアドレスの自動割当機能)について

● LAN HDD専用端子につないだ機器には、本機のDHCPサーバー機能でIPアドレスを自動的に割り当てます。

● 汎用LAN端子につないだ機器は、ルーターのDHCPサーバー機能でIPアドレスが割り当てられます。

LAN HDDやパソコンを本機につないで使用する際のご注意

● LAN HDDやパソコンには、データ放送は録画できません。

● LAN HDDやパソコンでは、追っかけ再生(録画中の番組の再生)はできません。

● 放送電波の状態やネットワークの接続状況などによって、録画･再生ができない場合がありますので、ご了承ください。

● LAN HDDやパソコンに録画した放送番組などは、USB経由やi.LINK経由で他の機器に出力(コピーなど)することはできません。

● 録画中に録画済みの番組を再生することはできません。

● LAN HDD、パソコンのHDDの中には、フォルダを作って、その中に番組、写真等のファイルを保存できます。このフォルダ内のファイルは、番組を再生するためにすべて必要なものです。パソコン等で削除しないでください。削除すると、番組の再生ができなくなりますので、ご注意ください。

● 本機で録画したもの以外の正常な再生は保証できません。

● ネットワークに無線を使った場合は、番組の録画･再生ができないことがあります。

● パソコンのHDDのファイルシステムがFAT32の場合、1回に録画できるのはファイルサイズで最大4GBまでです。

複数のLAN HDDを使用する場合のご注意とお願い

● 本機に最初に登録されたLAN HDDにメインシステムフォルダが作成されます。メインシステムフォルダには、本機に登録されたLAN HDDすべてのシステム情報が保存されます。この情報は、どのLAN HDDで録画･再生する際にも必ず必要です。したがって、LAN HDDで録画･再生するときには、対象のLAN HDDのほかにメインシステムフォルダが保存されているLAN HDDの電源を必ず入れてください。
どのLAN HDDにメインシステムフォルダがあるかは、機器の登録画面76ﾍﾟで確認できます。

● LAN HDDと同じネットワーク内にあるパソコンなどで、システムフォルダを削除したり変更したりしないでください。削除･変更すると、それまでに録画した番組が再生できなくなります。
システムフォルダは、「.toshibaXXXXXXXXXXXX 」というフォルダ名で作成されています。

※ メインシステムフォルダの保存先の変更、一括更新、削除などの操作や、保存したLAN HDDが故障した場合の対応などについては、78ﾍﾟをご覧ください。

● 同じ名称の複数のLAN HDDを本機に登録することはできませんので、LAN HDDの名前をそれぞれ異なる名前に変更してください。(たとえば、LANDISK1、LANDISK2、LANDISK3 など)LAN HDDの名前の変更方法はLAN HDDの取扱説明書をご覧ください。

他の機器をつなぐ（2）つづき

LAN HDD、パソコン、デジタルメディアサーバーをつなぐ つづき

基本的なつなぎかた（LAN HDD専用端子につなぐ）

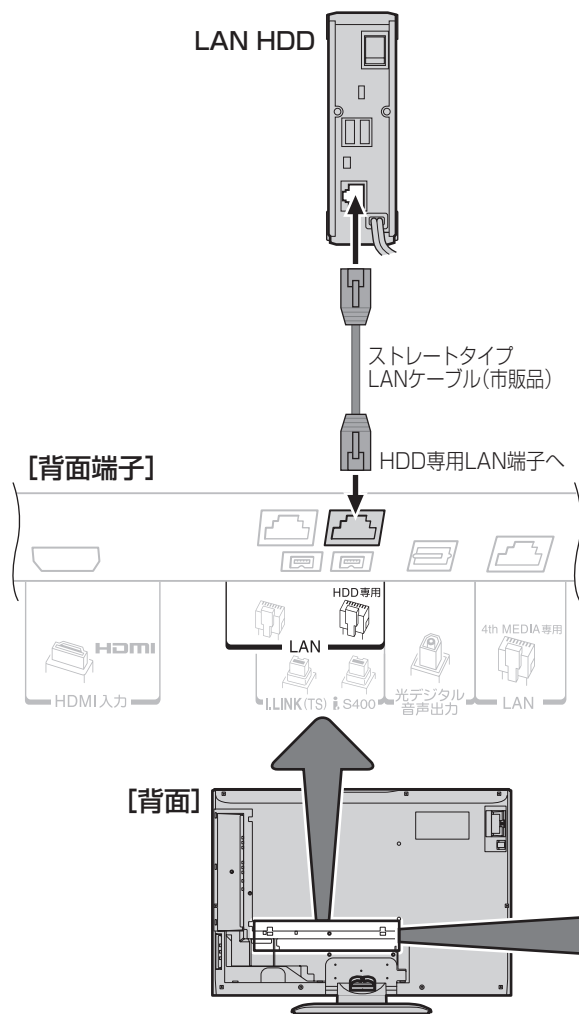
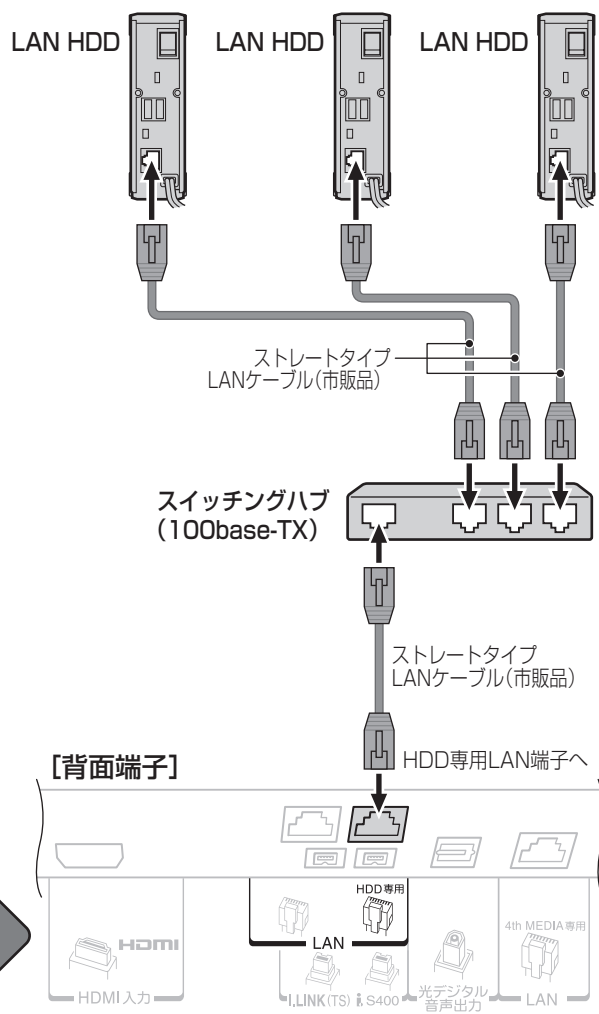
● LAN HDDにデジタルハイビジョン放送などのデジタル放送をそのままの画質で録画できます。

● LANケーブルを抜き差しするときは、必ず本機と接続機器の電源を「切」にしてください。
● 動作中に、本機や接続されている機器の電源を切ったり、電源プラグを抜いたりしないでください。記録されているデータが破壊されるおそれがあります。

1台だけつなぐとき

LAN HDD
ストレートタイプ
LANケーブル（市販品）
［背面端子］
HDD専用LAN端子へ
HDD専用
LAN
4th MEDIA専用
HDMI入力
i.LINK(TS)
S400
光デジタル音声出力
LAN
［背面］

複数台つなぐとき

LAN HDD
LAN HDD
LAN HDD
ストレートタイプ
LANケーブル（市販品）
スイッチングハブ
（100base-TX）
ストレートタイプ
LANケーブル（市販品）
［背面端子］
HDD専用LAN端子へ
HDD専用
LAN
4th MEDIA専用
HDMI入力
i.LINK(TS)
S400
光デジタル音声出力
LAN

複数のLAN HDDを本機につなぐ場合

● 同じ名称の複数のLAN HDDを本機に登録することはできませんので、LAN HDDの名前をそれぞれ異なる名前に変更してください（たとえば、LANDISK1、LANDISK2、LANDISK3 など）。LAN HDDの名前の変更方法はLAN HDDの取扱説明書をご覧ください。
● 高性能スイッチングハブ（100base-TX対応品）が必要です。

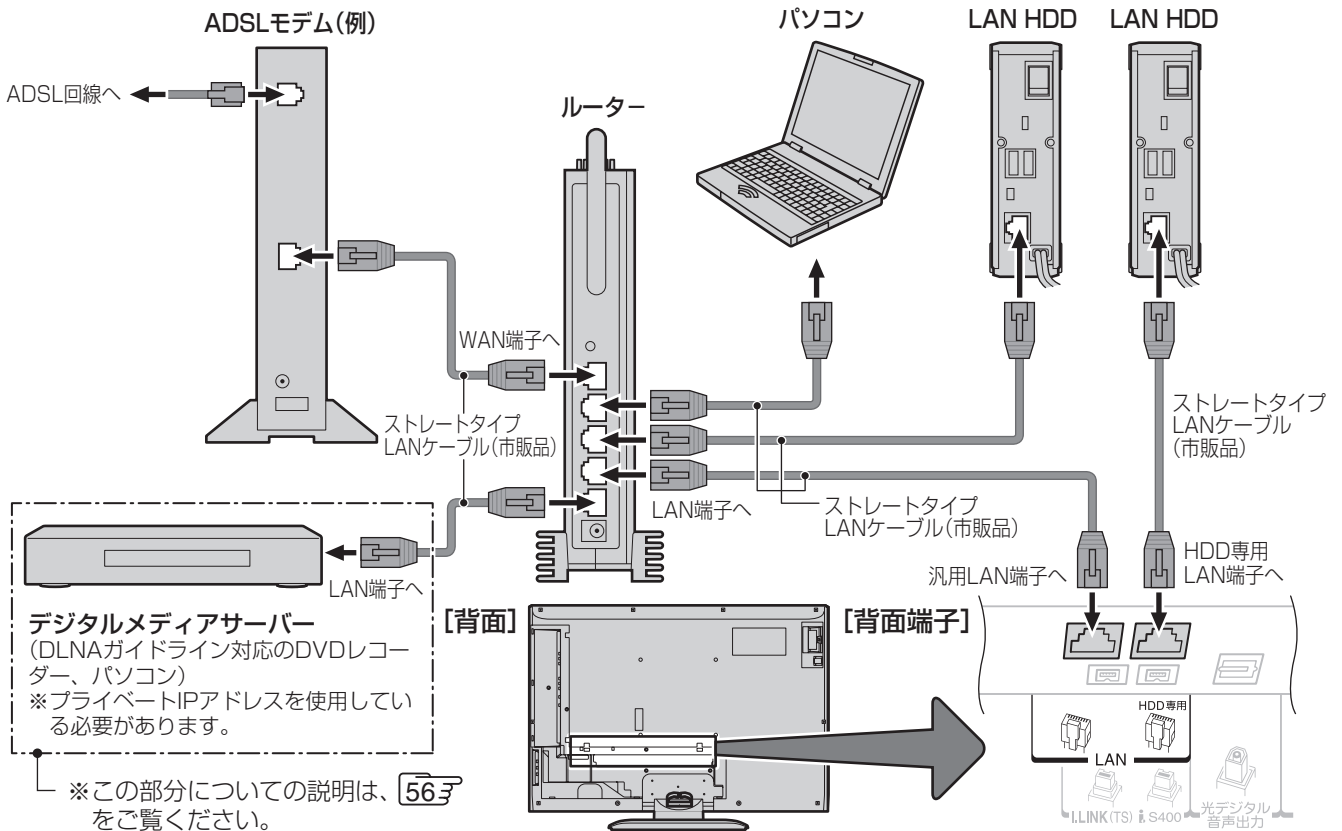
本機へのLAN HDDの登録

● 本機、LAN HDDの順に電源を入れ、そのまま10分間ほど待つと本機に自動登録されます。（8台まで登録できます）
● 登録されたLAN HDDは、（機器操作）を押して表示される機器一覧（操作編51）で確認することができます。

使いかた

● LAN HDDに本機で受信したデジタル放送を録画するには、「録画・予約をする」（操作編30）をご覧ください。
● 録画した番組を見るには、「faceネットを使う」（操作編40）および「LAN HDDやi.LINK機器を使う」（操作編51）をご覧ください。

応用的なつなぎかた（汎用LAN端子も使う）

● 本機をインターネット常時接続環境に接続している場合27ﾖには、外出先から携帯電話やパソコンのEメールを使って録画予約をすることができます(操作編 34ﾖ)。
● ルーターにつないだLAN HDDやパソコンにも本機からデジタル放送を録画できます。
　・ パソコンには標準画質の番組(SD放送など)が録画できます。ハイビジョン番組は録画できません。
　・ 録画した番組は本機でだけ視聴できます。(パソコンでは視聴できません)
● パソコンが独自に録画した番組を、本機でも視聴することができます。本機で再生できるフォーマットは次のとおりです。
映像：MPEG2 Video（VRフォーマット準拠）、音声：MPEG1 Audio Layer 2

設定の手順

● 汎用LAN端子を使ってつないだLAN HDDやパソコンは、手動で登録する必要があります。

❶ルーター、LAN HDD、本機の順に電源を入れる
上の図のようにLAN HDD専用LAN端子にもLAN HDDを接続した場合で、初めて電源を入れた場合には、これが自動登録されるまで10分間ほど待ってください。

❷「LAN端子設定」71ﾖで、IPアドレスが「192.168.XXX.XXX」(XXXは数字)になっていることを確認する
「IPアドレス設定」「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。

❸「LAN HDDの登録・解除」76ﾖでLAN HDDやパソコンを登録する
LAN HDDを先に登録することをお勧めします。パソコンを先に登録すると、メインシステムフォルダがパソコンのHDDに作成され、録画・再生のたびにパソコンを起動する必要があります。
（LAN HDD専用端子にもLAN HDDをつないでいる場合は、それが先に自動登録されるので、汎用LAN端子側につないだ機器の登録順は任意でかまいません）

次のページにつづく

● 前ページの「ご注意」と「使いかた」もお読みください。
● ルーターにつないだLAN HDDやパソコンへの録画・再生は、ネットワークのトラフィック(ネットワーク上の情報量)などによっては安定にできない場合があります。
● パソコンが独自に録画した番組は、番組録画時のエンコード方法やレート、パソコンの性能や他のソフトの動作状況、ネットワークのトラフィックなどによっては、本機で視聴できない場合があります。

他の機器をつなぐ (2) つづき

LAN HDD、パソコン、デジタルメディアサーバーをつなぐ つづき

パソコンの設定(概要)

- 対応しているOSは、Windows XP、Windows NT、Windows 2000、Windows Me、Windows 98SEです。MAC OSには対応していません。
- 各OSによって、パソコン側の設定は異なります。
以下に各OSでの設定の概要を記載しますが、詳しくは、ご使用のパソコンやOSの説明書をご覧ください。
OSのバージョンアップなどの変更によって、設定の手順が以下とは変わっている場合があります。

- 以下の操作でパソコンでフォルダを共有に設定した場合は、セキュリティを高めるためにフォルダにパスワードなどを設定することをお勧めします。

※ **パスワードなどを設定してセキュリティを高めておかないと、悪意の第三者からの不正アクセスによって書込み・消去などをされるおそれがありえます。また、ウイルスソフトがはいる原因にもなりますので、ご注意ください。**

- Windows XP Home Editionの場合はパスワード設定はありませんが、ファイルとプリンタの共有ができる機器のIPアドレスを制限することによって、セキュリティを高めておくことをお勧めします。(次ページの「Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定」をご覧ください)

Windows XPの場合

(1)コンピュータ名、ワークグループの設定

① マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く

② コンピュータ名タブをクリックする

③ 変更(C)...ボタンをクリックする

④ 以下の設定をする

- コンピュータ名
他の機器と重ならないように名前を設定する
- ワークグループ名
本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

※Windows XP Home Editionの場合は、ワークグループ名を「WORKGROUP」にしてください。

(2)ネットワーク設定

① 以下のように進む
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット接続」(ない場合は次へ)→「ネットワーク接続」→「ローカルエリア接続」→「プロパティ」

② 全般タブをクリックし、以下の設定をする

- Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
- インターネットプロトコル(TCP/IP) にチェックを入れる

(3)共有フォルダ設定

① 共有したいフォルダを右クリックして、「共有とセキュリティ(H)...」をクリックする

② 共有タブの「ネットワーク上での共有とセキュリティ」で、以下の設定をする

- 「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」にチェックを入れる
- 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- 「ネットワークユーザによるファイルの変更を許可する」にチェックを入れる

- 「ローカルでの共有とセキュリティ」の「このフォルダをプライベートにする(M)」にチェックがあるフォルダの下ではネットワークでの共有はできません。
- SP2で、Windowsファイアウォールを有効にしている場合は、以下の操作でファイルとプリンタ共有を例外に指定してください。

① 以下のように進む
「コントロールパネル」→「セキュリティセンター」→「Windows ファイアウォール」

② 全般タブで「例外を許可しない(D)」のチェックをはずす

③ 例外タブで「ファイルとプリンタの共有」にチェックを入れる

Windows NTの場合

(1)コンピュータ名、ワークグループの設定

① 「ネットワークコンピュータ」を右クリックして、「共有(H)...」をクリックする

② 識別タブをクリックする

③ 変更(C)ボタンをクリックする

④ 以下の設定をする

- コンピュータ名
他の機器と重ならないように名前を設定する
- ワークグループ
本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

(2)共有フォルダ設定

① 共有したいフォルダを右クリックして、「共有(H)...」をクリックする

② 以下の設定をする

- 「共有する」をONにする
- 共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- アクセス権(P)ボタンをクリックする
- Everyoneにフルコントロールのアクセス権があることを確認する。ない場合は追加する

次のページにつづく

Windows 2000 の場合

(1)ネットワーク設定

① 以下のように進む
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→
「ネットワークとダイアルアップ接続」→
「ローカルエリア接続」→「プロパティ」

② 全般タブをクリックし、以下の設定をする
- ●Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタの共有にチェックを入れる
- ●インターネットプロトコル(TCP/IP) にチェックを入れる

(2)コンピュータ名、ワークグループの設定

① マイコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックしてシステムのプロパティを開く

② ネットワークIDタブをクリックする

③ プロパティ(R)ボタンをクリックする

④ 以下の設定をする
- ●コンピュータ名
  他の機器と重ならないように名前を設定する
- ●ワークグループ名
  ワークグループ(W)を選択し、ワークグループ名を入力する
  本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

(3)共有フォルダ設定

① 共有したいフォルダを右クリックして、「共有(H)...」をクリックする

② 共有タブをクリックし、以下の設定をする
- ●「このフォルダを共有する」にチェックを入れる
- ●共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- ●「ユーザ制限」を「無限大」にする
- ●「アクセス許可」のフルコントロールを許可にする

Windows Me とWindows 98SEの場合

(1)ネットワーク設定

① 以下のように進む
「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→
「ネットワーク」

② 以下の設定をする

■ ネットワーク設定タブ
- ● 現在のネットワークコンポーネントの中に「Microsoft ネットワーク共有サービス」が必要です。なければインストール(追加)する必要があります。
- ● 「ファイルとプリンタの共有(F)...」で「ファイルを共有できるようにする(F) 」にチェックを入れる

■ 識別情報タブ
- ● コンピュータ名
  他の機器と重ならない名前を設定する
- ● ワークグループ
  本機に接続するすべての機器で同じワークグループ名にする

■ アクセスの制御タブ
- ● 共有リソースへのアクセス制御で「共有レベルでアクセスを制御する(S) 」にチェックを入れる

(2)共有フォルダ設定

① 共有したいフォルダを右クリックして、「共有(H)...」をクリックする

② 共有タブをクリックし、以下の設定をする
- ●「共有する」にチェックを入れる
- ●共有名を12文字以内(日本語不可)で設定する
- ●「アクセスの種類」をフルアクセスにする

Windows XP Home Editionの場合のセキュリティを高める設定

※ 以降の手順は、次の状態であることが前提の説明になっています。
- ●Windows XPの「Service Pack 2」が導入済みで、ファイアウォールが有効になっている
  ・「Service Pack 2」の導入については注意事項があります。導入のしかたも含めて、詳しくはMicrosoftのホームページをご覧ください。
- ●前ページの「ご注意」に従って、ファイルとプリンタを共有にしている

(1)以下の操作で、本機のIPアドレスを確認する

① 「メニュー」→「初期設定」→「通信設定」→「通信接続設定」→「LAN端子設定」→「IPアドレス設定」と進む

② 「IPアドレス」と「サブネットマスク」を確認し、メモする
(例) IPアドレス:192.168.1.13、
サブネットマスク:255.255.255.0

(2)Windowsファイアウォールの例外タブでチェックした「ファイルとプリンタの共有」を選択し、「編集(E)...」ボタンをクリックする

(3)「TCP 139」、「TCP 445」、「UDP 137」、「UDP 138」の各項目について、以下のように設定を変更する

① 「スコープの変更(C)...」ボタンをクリックする

② 「カスタムの一覧(C)」を選択し、入力欄に、手順(1)でメモしたIPアドレス、またはIPアドレスとサブネットマスクを入力する
- ●本機のIPアドレスが固定の場合の例(IPアドレスのみ)
  192.168.1.13
- ●本機のIPアドレスが自動取得の場合の例(IPアドレスとサブネットマスク)
  192.168.1.13 (IPアドレス)
  255.255.255.0 (サブネットマスク)

③ 「OK」ボタンをクリックして「スコープの変更」を完了させる

④ 各項目について、同様に設定する

(4)「OK」ボタンをクリックして「サービスの編集」を完了させる

(5)「OK」ボタンをクリックする
これで設定完了です。

※ 外出時などセキュリティの弱い場所でネットワーク接続するときには、Windowsファイアウォールの全般タブで、「例外を許可しない(D)」にチェックを入れておくことをお勧めします。

● Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

他の機器をつなぐ（2）つづき

LAN HDD、パソコン、デジタルメディアサーバーをつなぐ つづき

DLNAガイドライン対応予定について

DLNAとは

- DLNA（Digital Living Network Alliance）とは、デジタル時代の相互接続性を実現させるための標準化活動を推進している団体です。
- DLNAガイドライン対応機器には、コンテンツを送り出すサーバー機器（デジタルメディアサーバー）と、コンテンツを再生するプレーヤー機器（デジタルメディアプレーヤー）があります。
  本機は、相互接続性を実現するためにDLNAが制定した「Home Networked Device Interoperability Guidelines v1.0」のデジタルメディアプレーヤーの認証を取得予定です。（2005年9月現在）

本機でできること

- デジタルメディアサーバーが公開しているコンテンツを本機で視聴することができます。（接続のしかたは53）
  ※ 早送り/早戻し再生などの特殊再生は、接続する機器によってはできない場合があります。
- 本機に接続したデジタルメディアサーバーは「機器一覧」に表示され、操作編51（映像）や42（静止画）の操作でコンテンツを視聴することができます。
- 本機で視聴できるコンテンツのフォーマットは以下のとおりです。
  - 映像：　MPEG2（VRフォーマット）
  - 映像に附随する音声：　リニアPCM、AC3、MPEG1レイヤ2
  - 静止画：　JPEG（ただし、ファイルサイズが4MB以上の場合には、デジタルメディアサーバー側で4MB以下にリサイズしてから公開している場合のみ表示できます）

設定の手順

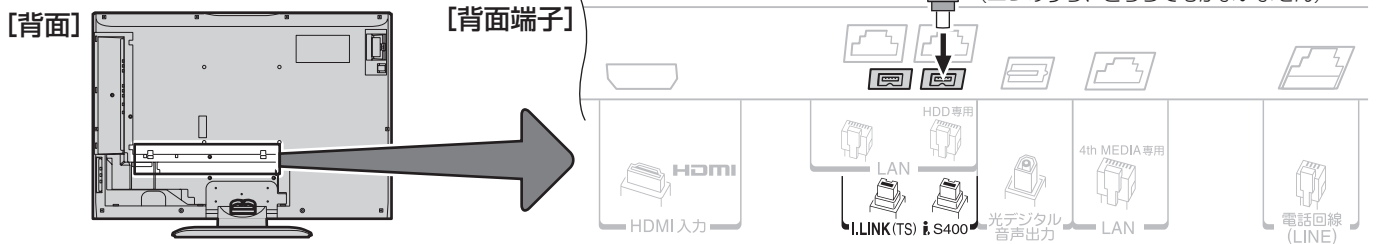
- 「IPアドレス設定」、「DNS設定」ともに「自動取得」で使用する前提です。本機でデジタルメディアサーバーの設定はできませんので、あらかじめルーターやデジタルメディアサーバー側で設定してください。（デジタルメディアサーバーやルーターの取扱説明書をご覧ください）
- 一般のデジタルメディアサーバーはMACアドレスによるアクセス制限をかけています。本機のMACアドレスは、「通信接続設定」72のメニューで確認できます。

❶ ルーター、デジタルメディアサーバー、本機の順に電源を入れる

❷「LAN端子設定」71で、IP アドレスが「192.168.XXX.XXX」、「172.16.XXX.XXX～172.31.XXX.XXX」または「10.XXX.XXX.XXX」（XXXは数字）になっていることを確認する

- 視聴する際は、デジタルメディアサーバーの電源を入れてください。（本機からの操作で電源を入れることはできません）
- デジタルメディアサーバーの場合、一世代のみ録画が許された録画済みコンテンツを本機で再生（視聴）することはできません。
- オーディオコンテンツ（MP3、WAVなど）を再生することはできません。
- 本機で受信した番組をデジタルメディアサーバーに記録（録画・録音など）することはできません。
- 複数のデジタルメディアサーバーを接続した場合、2台目以降の機器がfaceネットの「機器一覧」（操作編51）に表示されるまでに15分程度の時間がかかることがあります。

i.LINK機器をつなぐ

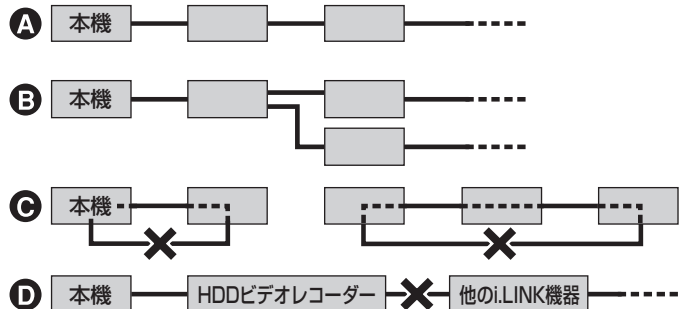
● D-VHSビデオやHDDビデオレコーダーとi.LINK接続することで、次の機能を使うことができます。
①テレビ画面にD-VHSビデオやHDDビデオレコーダーの操作パネルを表示させて、操作をする（操作編 54）
②デジタル放送をデジタル録画する（操作編 30）

本機で使用できるi.LINK機器について

● 下表の製品については当社が独自に動作確認をしていますが、動作を保証するものではありません。
● 下表以外の製品では、本機との組合せで正しく動作しない場合や、i.LINK機器の登録ができない場合があります。

製品	メーカー	形名（HS/STDモード対応）
D-VHSビデオ	東芝	A-HD2000
	日本ビクター	HM-DH20000、HM-DH30000、HM-DH35000、HM-DHX1
	松下電器産業	NV-DH1、NV-DH2、NV-DHE10、NV-DHE20
HDDビデオレコーダー（デジタルハイビジョンHDDレコーダー）	東芝	THD-16A1（ディスクモード）
	アイ·オー·データ機器	HVR-HD120S（モード1）、HVR-HD160M（ディスクモード）、HVR-HD250M（ディスクモード）

i.LINK接続のしかた

● i.LINK接続では、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を通してつないだ機器も操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の仕様によっては、操作のしかたが異なったり、操作やデータのやりとりができなかったりする場合があります。

Ⓐ i.LINK機器は、i.LINKケーブルを使用して右図Ⓐのようにデイジーチェーン（直列つなぎ）でつなぎます。
Ⓑ i.LINK端子が三つ以上ある機器の場合は、右図Ⓑのように分岐してつなぐこともできます。
Ⓒ 右図Ⓒのようなループ状(環状)にはつながないでください。
Ⓓ HDDビデオレコーダーに録画をするときは、他のi.LINK機器をつながないでください。他のi.LINK機器をつなぐと、正常に動作しないことがあります。（右図Ⓓ参照）

● i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間でデジタル映像信号やデジタル音声信号、データ信号を双方向で通信できるシリアルインターフェースで、i.LINKケーブル１本で接続することができます。
● DVビデオカメラなどのDV機器は、やりとりする信号の種類が異なるため、つないで使用することはできません。

他の機器をつなぐ（2）つづき

i.LINK機器をつなぐ つづき

接続できる機器の数について

● 本機を含めて16台までデイジーチェーン（直列つなぎ）でつなげます。分岐して接続した場合は、最大63台まで接続できます。ただし、本機に登録できるのは8台までです。8台までは接続時に自動的に登録されますが、これよりも多くつないだ機器を本機で使いたい場合は、手動操作で登録済みの機器を解除してから使いたい機器を登録してください。詳しくは75をご覧ください。

通信速度について

● i.LINK機器にはその機器が対応している最大データ転送速度が、i.LINK端子の近くに表示されています。データ転送速度には、S100(100Mbps)、S200(200Mbps)、S400(400Mbps)の3種類が定められています。最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様によっては、実際の転送速度が遅くなることがあります。

接続についてのご注意

● 接続の際は、必ず「S400」対応のi.LINK専用ケーブル（4ピン、市販品）をご使用ください。「S400」対応以外のi.LINKケーブルを使うと信号が不安定になり、正しく動作しないことがあります。
● 一部の機器では、電源が切られていると信号を中継しない場合があります。このような機器をまたいで信号のやりとりをするときは、その機器の電源も入れてください。本機の場合、「外部機器からの制御」79を「なし」に設定していると、電源が「切」のときには信号を中継できません。また、ダウンロード（操作編 67）が実行されるときにも、信号を中継できません。本機の二つのi.LINK端子に機器をつないで、その機器間で信号のやりとりをする場合はご注意ください。

i.LINKでの再生について

● 本機で扱うことのできるデジタル信号は、地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送のみです。これらの放送以外の信号（DVカメラの信号など）については、まったく再生できないか、または正常に再生できません。

i.LINK機能をご使用の際のご注意

● i.LINK機能の使用中は、使用していない他のi.LINK機器のケーブルの抜き差しや、新しいi.LINK機器の追加、電源の入/切はしないでください。
● 正しく制御できなくなったときは、各機器のケーブルの抜き差し（リセット動作）で復帰することがあります。
● 登録機器名が正しく表示されないときは、一度ケーブルを抜き、機器を解除75したあとで再度機器をつないでください。
● 複数の機器から同時にHDDビデオレコーダーを制御しないでください。意図しない動作をして、録画済みの番組が消えたりするおそれがあります。
● 複数の機器を接続していて動作が不安定な場合、使用していない機器をはずしたり、接続の順番を変更したりすると安定することがあります。
● HDDビデオレコーダーの機種によっては、動作モード（D-VHSモードとハードディスクレコーダーモード）を切り換えられるものがあります。動作モードを切り換えたときには、必ず一度ケーブルを抜き、機器を解除したあとで再度機器をつないでください。本機での登録時のモードと異なっていると、正しく動作しません。
● HDDビデオレコーダーの機種によっては、追っかけ再生、録画中の別番組の再生、録画中の録画リスト表示などの機能を操作できないことがあります。（アイ･オー･データ機器製HVRHD240Sはこれらの機能を利用できません）

他の機器から本機をi.LINK制御する際のご注意

● 「外部機器からの制御」79を「あり」に設定すると、他の機器から本機を制御できます。ただし、本機の電源を「入」または「待機」にしておく必要があります。「待機」で制御する場合は、「番組情報取得設定」（操作編66）を「取得する」に設定してください。（「取得しない」に設定すると、制御できません）

● 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー･プロテクション技術が採用されています。この技術は、DTLA (The Digital Transmission Licensing Administrator)というデジタル伝送での著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。このDTLAのコピー･プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像、音声、データでは、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。また、DTLAのコピー･プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、映像、音声、データのやりとりができない場合があります。

アンテナ設定

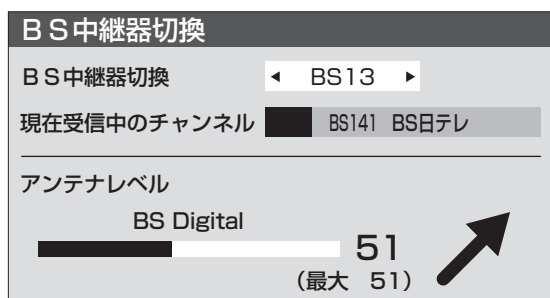
● アンテナ電源供給とアンテナレベルについては 30 をご覧ください。

BS中継器切換／110度CS中継器切換

● 衛星の中継器が故障してすべての放送が受信できなくなってしまったときに、他の中継器に切り換えると、故障した中継器以外の放送が受信できます。通常は切換えの必要はありません。
● そのほかにも、外部機器からの電波の妨害などで一部の中継器が受信できない場合も同様です。

1 以下の操作で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「アンテナ設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」を選び、決定 を押す

2 ◀·▶ で中継器を切り換え、放送が受信できたことを確認したら、決定 を押す

(例)BS 中継器切換の場合

● 選択できる中継器は
・ BSデジタル放送の場合：
BS01、BS03、BS05、BS07、BS09、BS11、BS13、BS15

・ 110度CSデジタル放送の場合：
ND02、ND04、ND06、ND08、ND10、ND12、ND14、ND16、ND18、ND20、ND22、ND24

※中継器は2005年9月現在の状態です。

3 終了 を押して、メニューを消す

チャンネル設定

● 「はじめての設定」 31 が済んでいて、特に変更の必要がない場合は「チャンネル設定」をする必要はありません。
● チャンネル設定には、「自動設定」と「手動設定」 62 があります。

自動設定

● 「自動設定」では、地上アナログ放送と地上デジタル放送が設定できます。
● BSデジタルチャンネルと、110度CSデジタルチャンネルについては、お買い上げ時に設定されています。(操作編 9 のお知らせを参照)

地上アナログ放送の場合

● テレビをご覧になる地域で放送されているチャンネル(VHF/UHF)を自動で設定することができます。
● お買い上げ時は、リモコンのダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 にはVHFの1～12チャンネルが番号と同じに設定されています。
● 地上A自動設定は、「地上アナログ放送の自動設定一覧表」(資料編 7 ～ 14)の内容で設定されますが、チャンネルが変更になり受信できなくなることがあります。受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」 62 で設定してください。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「地上A自動設定」を選び、決定 を押す

3 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの地方を選び、決定 を押す

次のページにつづく

■地上アナログ放送の場合について
● お使いの地域・都市名で地上A自動設定をしても正しく受信できない場合は、 37 をご覧ください。
● ダウンロード(操作編 67)によって、本機内に設定している「地上アナログ放送の自動設定一覧表」(資料編 7 ～ 14)の内容が変わる場合があります。その結果、選択の手順**3**～**5**の項目が変わる場合もあります。
● 設定したチャンネルを一覧表示して確認する場合や、受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」で設定してください。
● 地上アナログ放送の番組表を使用する場合で、上の手順**3**、**4**で設定した地域以外のチャンネルを受信する場合は、必要に応じて「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」で、該当するチャンネルの「受信地域」を変更してください。

チャンネル設定

自動設定 つづき

地上アナログ放送の場合 つづき

4 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの都道府県を選び、決定 を押す

5 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの地域·都市を選び、決定 を押す

- お住まいの地域や都市名が記載されていない場合は、アンテナが向いている近くの地域名を選びます。
- 自動で設定されるチャンネルは一覧表(資料編 7 ～ 14)をご覧ください。
  設定された内容を変更したい場合は「手動設定」 62 をしてください。

6 終了 を押して、メニューを消す

地上デジタル放送の場合

- 地上デジタル放送の自動設定には、引越しなどで受信地域が変わったときにする「初期スキャン」と、放送チャンネルに変更があったときにする「再スキャン」があります。
  また、電源待機時に自動的に行う「自動スキャン」もあります。

初期スキャン

- 受信可能なチャンネルを自動的に探して、リモコンの 1 ～ 12 に放送の運用規定に基づいて設定します。
- 「初期スキャン」をするとこれまでに選局設定した内容は、すべて消去されて、設定し直されますのでご注意ください。ただし、各放送局ごとにお客様が本機に記録させた住所·氏名等の個人情報、お客様のポイント数などは消去されません。
- 「はじめての設定」終了後、新たに開局した地上デジタル放送チャンネルを登録する場合や中継局が新設、変更された場合は、右の「再スキャン」をしてください。
- 自動設定される内容は「地上デジタル放送の放送(予定)一覧表」(資料編 15 ～ 16)が目安となります。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「地上D自動設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「初期スキャン」を選び、決定 を押す

3 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの地方を選び、決定 を押す

4 ▲·▼·◀·▶ でお住まいの都道府県または地域を選び、決定 を押す

- データ放送用のメモリー割当て画面が表示された場合は 38 をご覧ください。

5 初期スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下をする

設定された内容を確認する場合

❶ ◀·▶ で「はい」を選び、決定 を押す
❷ 設定内容を確認したら 決定 を押す
- 設定された内容を変更したい場合は「初期スキャン」終了後「手動設定」 63 をしてください。

設定された内容を確認しない場合

❶ ◀·▶ で「いいえ」を選び、決定 を押す

6 終了 を押して、メニューを消す

再スキャン

- 新たに放送局が開局したりしてチャンネルがふえた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすることによって、チャンネルを追加設定することができます。
- 「初期スキャン」をしていないと「再スキャン」はできません。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「地上D自動設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「再スキャン」を選び、決定 を押す

- データ放送用のメモリー割当て画面が表示された場合は 38 をご覧ください。
- 再スキャンの結果、放送に変更があった場合は、 1 ～ 12 への設定方法を選ぶ画面が表示されます。
  ▲·▼ でどちらかを選び、決定 を押します。
  - **すべて設定し直す**……地上デジタル放送のすべての設定をし直します。
  - **現在の設定に追加する**… 1 ～ 12 未設定のボタンだけを新たに設定します。

- 「はじめての設定」 34 と「初期スキャン」では、地方·都道府県·地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では、地上アナログと地上デジタルの設定を同時にまとめて行っているためです。

3 再スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下をする

設定された内容を確認する場合

❶ ◀･▶ で「はい」を選び、決定 を押す

❷ 設定内容を確認したら 決定 を押す

● 設定された内容を変更したい場合は「再スキャン」終了後「手動設定」63ページをしてください。

設定された内容を確認しない場合

❶ ◀･▶ で「いいえ」を選び、決定 を押す

4 終了 を押して、メニューを消す

自動スキャン

● 「自動スキャン」は電源待機時に行われます。

● **「初期スキャン」32ページ、60ページが行われていないと、自動スキャンは実行されません。**

● 自動スキャンで放送局の変更が見つかった場合は、本機のチャンネル設定の内容を自動で変更し、「本機に関するお知らせ」（操作編27ページ）でお知らせします。

● 変更後の受信できるチャンネルについては「放送局名リスト」（操作編19ページ）でご確認ください。（枝番（操作編9ページ）だけが変更されている場合もあります）

● 図1の「お知らせ」が届いた場合は、データ放送用メモリーの割り当てを変更してください（「データ放送用のメモリーの割り当て」は再スキャンの最後に設定しますので、「再スキャン」をしてください）。この場合は選局時などに再スキャンアイコンを表示してお知らせします。

放送局の変更がありました。

放送局の変更（追加・削除など）がありました。放送局の変更によりデータ放送用のメモリーが割り当てられていない放送局がありますので、設定メニューの「再スキャン」を行ってください。

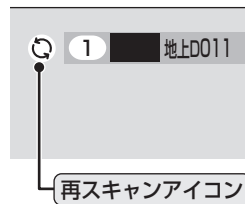



図1

● お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定した内容を自動で変更させたくない場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

● 自動スキャンは電源待機時に不定期に行われます。このため、「自動スキャンする」に設定していても、本機のチャンネル設定が最新になっていない場合があります。特に録画予約の際にはご注意ください。

※ 放送局の変更があった場合（もよりの放送局などから、そのような情報を得た場合）は、再スキャンをすることをお勧めします。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲･▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す

❹ ▲･▼ で「地上D自動設定」を選び、決定 を押す

2 ▲･▼ で「自動スキャン」を選び、決定 を押す

3 ▲･▼ で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、決定 を押す

● 「自動スキャンしない」を選ぶと、「再スキャン」をしないかぎり、新しいチャンネルや変更になったチャンネルが受信できません。

4 終了 を押して、メニューを消す

■再スキャンの動作について

● 前ページの「初期スキャン」の場合は、すでに地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に設定されている放送局をすべて消去して、新たに放送局を設定し直します。
再スキャンでは次のようになります。

・ すでに放送局が登録されている地上ダイレクト選局ボタンについて、再スキャンによって放送システム上の規定で設定すべき放送局が新たに見つかった場合、すでに登録されている放送局をそのまま残すのか、新たな放送局に設定し直すのかの選択ができます（手順**2**の操作）。
（すべてのボタンについてまとめて選択します。個別の選択はできません。個別に設定を変えたい場合は、再スキャン終了後に「手動設定」63ページで行ってください）

・ 新たな放送局が見つからなかった地上ダイレクト選局ボタンについては、そのまま設定が残ります。

● 再スキャン後の各チャンネルの構成については、「放送局名」リストで確認できます。（操作編19ページ）

● 再スキャンをしても、枝番（操作編9ページ）については、通常は変更されません。

● 電波が弱い場合には、再スキャンした結果、チャンネルの設定がされても、正常には受信できないことがあります。

チャンネル設定 つづき

手動設定

● リモコンのボタンに設定されている内容を変更したいときに行います。

地上アナログ放送(VHF／UHF／CATV C13〜C38)の場合

● 以下の場合にも手動設定をしてください。
・自動設定で正しく受信できないとき
・設定されたチャンネル表示を変えたいとき
・地上アナログ放送用の番組表の地域設定を変更するとき
・CATVのチャンネルを(1あ)〜(12)に設定したいとき

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上A」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン((1あ)〜(12))の番号1〜12を「リモコン」の欄から▲·▼で選び、決定を押す

手動設定　地上A

リモコン	チャンネル	表示	放送局
1	1	1	NHK総合
2	2	2	
3	3	3	NHK教育
4	4	4	日本テレビ
5	16	16	放送大学
6	6	6	TBS

4 次の❶〜❹の手順で、それぞれの項目を設定する

手動設定　地上A

	項目	設定
	リモコンボタン	5
❶	チャンネル	◂ 14 ▸
❷	表示	5
❸	放送局	MXテレビ
❹	受信地域	23区

❶ ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上アナログ放送のチャンネルを選ぶ
● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。

地上アナログ放送(1〜62) ⟷ CATV(C13〜C38)

● 色が消えたり映像が不安定になったときに、«·»で微調整するとよくなる場合があります。
※調整前の状態に戻すには◀·▶でチャンネルを選び直してください。

❷ ▲·▼で「表示」を選び、画面に表示させるチャンネル番号を◀·▶で選ぶ
● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。

地上アナログ放送(1〜62) ⟷ CATV(C13〜C38)
BSアナログ放送(BS1、BS3、…BS15)(CATVで放送されている場合)

❸ ▲·▼で「放送局」を選び、◀·▶で放送局名を選ぶ
● 「表示しない」を選ぶこともできます。

❹ ▲·▼で「受信地域」を選び、◀·▶でアンテナの向いている放送局の地域を選ぶ
※ これは地上アナログ放送の番組表を使うための設定です。

5 決定を押す

※ ほかのボタンの設定も変更する場合は、手順**3**〜**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

● 手順**4**の❶で設定する際、◀·▶を押し続けると、設定するチャンネルの選局を早く行うことができます。
● 「チャンネル設定」をした地上アナログチャンネルは、チャンネルスキップ設定が自動的に「受信」に設定されます。

■CATV(ケーブルテレビ)について
● CATVの受信は、サービスの行われている地域でだけ可能で、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。さらに、スクランブルのかかった有料放送の視聴、録画には、ホームターミナル(アダプター)が必要になります。詳しくは、CATV会社にご相談ください。

地上デジタル放送の場合

● はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、「初期スキャン」60をしてください。「初期スキャン」が行われていない状態では、「手動設定」はできません。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上D」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1あ～12っ)の番号1～12を「リモコン」の欄から▲·▼で選び、決定を押す

手動設定　地上D

リモコン	チャンネル	放送局
1	テレビ	NHK総合・東京
2	テレビ	NHK教育・東京
3	―――	
4	テレビ	日本テレビ
5	テレビ	テレビ朝日
6	テレビ	TBS

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上デジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。

「テレビ」または「データ」を選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

(例) 手順**3**で「6」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で6はを押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次選局できます。

地上デジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだ地上デジタルのチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順**3**で「6」を選び、ここで「地上D071」を選ぶと、視聴時の操作で6はを押したときに071チャンネルだけが選局できます。

5 決定を押す

※ ほかのボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

●手順**4**の操作で、◀·▶を押し続けると設定するチャンネルを早く切り換えることができます。
●「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

チャンネル設定 つづき

手動設定 つづき

BSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲·▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す

❹ ▲·▼ で「手動設定」を選び、決定 を押す

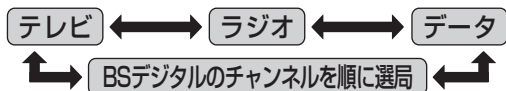
2 ▲·▼ で「BS」を選び、決定 を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1 NHK1 ～ 10 スター)の番号1～10を「リモコン」の欄から▲·▼ で選び、決定 を押す

手動設定 BS

リモコン	チャンネル	放送局
1	BS101	NHK BS1
2	BS102	NHK BS2
3	BS103	NHK h
4	テレビ	BS日テレ
5	テレビ	ビーエス朝日
6	テレビ	BS－i

4 ▲·▼ で「チャンネル」を選び、◀·▶ でBSデジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶ を押すと次のように切り換わります。

「テレビ」、「データ」、または「ラジオ」を選んだ場合

● 一つのボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネル、または複数データ放送のチャンネル、または複数のラジオ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼ で「放送局」を選ぶ

❷ ◀·▶ で設定したい放送局名を選ぶ

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押すたびに、「BS日テレ」のテレビ放送チャンネルが順次選局できます。

BSデジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだBSデジタル放送のチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「BS141」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押したときに141チャンネルだけが選局できます。

5 決定 を押す

※ ほかのボタンの設定も変更する場合は、手順**3**～**5**を繰り返します。

6 終了 を押して、メニューを消す

110度CSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲･▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲･▼ で「手動設定」を選び、決定 を押す

2 ▲･▼ で「110度CS」を選び、決定 を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1 NHK1 ～ 10 スター)の番号1～10を「リモコン」の欄から▲･▼ で選び、決定 を押す

手動設定　110度ＣＳ

リモコン	チャンネル	放送局
1	CS001	スカパー110メイト
2	CS100	スカパー110プロモ
3	―――	
4	―――	
5	―――	
6	―――	

4 ▲･▼ で「チャンネル」を選び、◀･▶ で110度CSデジタルのチャンネルを選んで、決定 を押す

- ◀･▶ を押すとすべてのチャンネルが番組順に切り換わります。
- 放送メディアを指定することはできません。
- リモコンの 1 NHK1 ～ 10 スター を押したときに、ここで選んだチャンネルが選局されます。
- 「放送局」の欄には、選んだチャンネルの放送局名が表示されます。
（放送局名を変えることはできません）

※ **ほかのボタンの設定も変更する場合は、手順3、4を繰り返します。**

5 終了 を押して、メニューを消す

チャンネル設定の内容を削除する

- デジタル放送のチャンネル設定の内容を削除できます。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲･▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲･▼ で「手動設定」を選び、決定 を押す

2 ▲･▼ で「地上D」、「BS」、「110度CS」のどれかを選び、決定 を押す

3 設定内容を削除したい「リモコン」の番号を▲･▼ で選び、決定 を押す

4 ▲･▼ で「設定を削除する」を選び、決定 を押す

手動設定　地上D

リモコンボタン	1
チャンネル	テレビ
放送局	NHK総合・東京
設定を削除する	

※ ほかのボタンの設定も変更する場合は、手順**3**、**4**を繰り返します。

5 終了 を押して、メニューを消す

■110度CSデジタル放送の手動チャンネル設定について
- 手順**4**の操作で、◀･▶ を押し続けると設定するチャンネルを早く切り換えることができます。
- 「チャンネル」の欄に「－－－」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

チャンネル設定 つづき

チャンネルスキップ設定

● チャンネル で選局するときに、不要なチャンネルを飛び越して選局することができます。
● CATVチャンネルは、お買い上げ時は「スキップ」になっています。受信するには以下の手順で「受信」に設定してください。

1 以下の操作で「チャンネルスキップ設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「チャンネル設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「チャンネルスキップ設定」を選び、決定 を押す

2 設定したい放送の種類を ▲·▼ で選び、決定 を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを ▲·▼ で選び、決定 を押す

地上Aチャンネルスキップ設定

リモコン	チャンネル	放送局	スキップ
1	1	NHK総合	受信
2	2		スキップ
3	3	NHK教育	受信
4	4	日本テレビ	受信
5	16	放送大学	受信
6	6	TBS	受信

(例)手順**2**で「地上Ａ」を選んだ場合

● 決定 を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。
● デジタル放送の放送メディアを変えるときは ラジオ/データ (リモコンとびら内)を押します。
● 1 ～ 12 に割り当てたCATVチャンネル(C13～C38)は、「リモコン」欄が1～12よりも下のリストで「設定済み」として表示されます。

※ **ほかのチャンネルの設定をする場合は、手順3を繰り返します。**
(違う放送のチャンネルを設定する場合は、戻る を押し、手順**2**の操作から行ってください)

4 終了 を押して、メニューを消す

受信・スキップの設定ができるチャンネル

● 地上アナログ放送: 1 ～ 12 に割り当てられた地上アナログ放送とCATVチャンネル、その他のCATVチャンネル
● デジタル放送:受信可能なチャンネル

自動設定をしたあとのチャンネルスキップ設定

● 地上アナログ放送: 1 ～ 12 にチャンネルが割り当てられているボタンは「受信」、チャンネルが割り当てられていないボタンは「スキップ」に設定されています。
● 地上デジタル放送:スキップ設定はありません。
● CATV/BS·110度CSデジタル放送:自動設定前と同じです。

● 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。
● 一つの放送局が同じ番組を複数のチャンネルで放送しているときは、その中の一つのチャンネルをスキップに設定すると、その放送局をスキップします。

GR(ゴーストリダクション)設定

● 画面にゴースト(2重、3重の映像)があるとき、「GR設定」を「モード1」または「モード2」に設定すると、ゴーストを軽減した映像でご覧になれます。(受信状況によっては効果が小さい場合があります)
● GR機能は「ゴースト除去基準信号(GCR信号)」が含まれた地上アナログ放送を受信したときに働きます。(デジタル放送や外部入力の信号には働きません)
● GR設定できるチャンネルは、1〜12に割り当てた地上アナログ放送とCATVチャンネル(C13〜C38)です。

1 以下の操作で「GR設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「GR設定」を選び、決定を押す

2 GR設定したいチャンネルを▲·▼で選び、◀·▶で「モード1」「モード2」「オフ」のどれかを選ぶ

● お買い上げ時は、すべてのチャンネルが「モード1」に設定されています。
● 設定項目の詳しい内容は、下の「お知らせ」をご覧ください。
● 1〜12に割り当てたCATVチャンネル(C13〜C38)は、「リモコン」欄が1〜12よりも下のリストで「設定済み」として表示されます。

※ **ほかのチャンネルの設定をする場合は、手順2を繰り返します。**

3 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定を最初の状態に戻す

● チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻します。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す

3 ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■GR(ゴーストリダクション)設定について
● お買い上げ時は、すべてのチャンネルが「モード1」に設定されています。
● 自動チャンネル設定をすると、1〜12に設定したチャンネルは「モード1」に設定されます。
● 「モード1」または「モード2」に設定したときおよび、設定してあるチャンネルを選局したとき、数秒してから働き、時間がたつにつれて徐々にゴーストを軽減します。
● 電波が弱い場合など、ゴースト軽減中に新たなゴーストが出ることがありますが徐々に軽減します。このような場合は「モード2」に設定することをお勧めします。
● 「モード2」は「モード1」に比べて、ゴースト軽減を開始するまでにより時間がかかりますが、開始後に新たなゴーストが見える場合が少なくなります。
● 次の場合は「GR設定」を「オフ」でご使用ください。
· ゴーストが軽減できなくて見づらい場合(過大なゴーストや多数のゴーストがあるとき、電波が弱いとき、飛行機など動くものによるゴーストのときなど)
· アンテナの設定·調整が適切でないとき(室内アンテナなど)
· 本機の映像を見ながらアンテナの設置·調整をするとき

■チャンネル設定を最初の状態に戻す場合について
● チャンネル設定をお買い上げ時に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。「初期スキャン」60をしてください。
(「データ放送用メモリーの割当て」38や、お客様が本機に記録させた住所·氏名等の個人情報、お客様のポイント数などはそのままです)

データ放送設定

郵便番号と地域の設定

- 「はじめての設定」が済んでいる場合は、この設定は不要です。
- お住まいの地域に応じたデータ放送、緊急警報放送などの視聴や、ダイヤルアップ通信をする際に、もよりのアクセスポイントをご利用いただくための設定で、地域は「初期スキャン」60とは別に設定できます。

1 以下の操作で「郵便番号と地域の設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲・▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲・▼ で「データ放送設定」を選び、決定 を押す

❹ ▲・▼ で「郵便番号と地域の設定」を選び、決定 を押す

2 1あ ～ 10 0 でお住まいの地域の郵便番号を入力し、決定 を押す

- 上3ケタを入力して 決定 を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。

郵便番号と地域の設定

お住まいの郵便番号を入力してください。

1 0 5－8 0 0 1

3 ▲・▼・◀・▶ で該当する地方を選び、決定 を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、手順**5**に進みます。

4 ▲・▼・◀・▶ で該当する地域を選び、決定 を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

5 終了 を押して、メニューを消す

文字スーパー表示の設定

- デジタル放送の一部の番組では、文字スーパーを表示するサービスがあります。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、本機で表示する言語を選択することができます。お買い上げ時は日本語優先になっています。

1 以下の操作で「文字スーパー表示設定」画面にする

❶ 左の手順**1**の❶～❸をする

❷ ▲・▼ で「文字スーパー表示設定」を選び、決定 を押す

2 ▲・▼ で「表示する」または「表示しない」を選び、決定 を押す

- 「表示しない」を選んだ場合は、手順**4**に進みます。

3 ▲・▼・◀・▶ で言語を選び、決定 を押す

- 日本語／英語／ドイツ語／フランス語／イタリア語／ロシア語／中国語／韓国語／スペイン語から選ぶことができます。

4 終了 を押して、メニューを消す

ルート証明書番号を確認する

- ルート証明書は、地上デジタル放送の双方向通信サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されます。これによって、双方向通信の安全性を高めることができます。
- ルート証明書は地上デジタル放送によって、放送局から送られます。本機内に記録された証明書番号を以下の手順で確認することができます。

1 以下の操作で「ルート証明書番号」画面にする

❶ 左の手順**1**の❶～❸をする

❷ ▲・▼ で「ルート証明書番号」を選び、決定 を押す

2 ルート証明書番号を確認し、決定 を押す

3 終了 を押して、メニューを消す

■郵便番号と地域の設定について

- 「はじめての設定」34とここでの設定では、地方、都道府県、地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では「地上A/D放送チャンネル設定」と同時にまとめて設定しているためです。
- データ放送を受信している状態で設定をした場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を受信し直してください。

■文字スーパー表示の設定について

- 「表示する」に設定した場合、設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示します。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。

■ルート証明書番号の確認について

- ルート証明書の詳しい情報は、東芝家電ご相談センター（裏表紙参照）にルート証明書番号を伝えてお問い合わせください。

通信設定

電話回線設定

● 電話回線設定は、デジタル放送で双方向サービスを利用する、番組購入情報の送信をするなどの場合に必要です。

1 以下の操作で「電話回線設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲·▼ で「通信設定」を選び、決定 を押す

❹ ▲·▼ で「電話回線設定」を選び、決定 を押す

電話回線設定	
ダイヤル方式	トーン
外線発信番号	設定あり
電話会社の設定	設定なし
電話番号通知設定	設定なし
電話回線テスト	
待ち時間の設定	

2 設定したい項目を ▲·▼ で選んで 決定 を押し、下表(次ページまで)の手順に従って設定する

3 終了 を押して、メニューを消す

設定項目	説明および操作手順
ダイヤル方式	●「はじめての設定」の「電話回線設定」 35 の手順**17**、**18**をご覧ください。 (「はじめての設定」の「電話回線設定」が終わっている場合は、ここでの設定は不要です)
外線発信番号	●電話をかけるときに、電話番号の前に「0」や「#」などの外線発信番号を付ける必要があるときに設定してください。 ❶ ▲·▼で「外線発信番号あり」を選び、決定 を押す ❷「はじめての設定」の「電話回線設定」 35 の手順**16**の操作で外線発信番号を入力する ❸外線発信後の待ち時間を設定する (通常は「自動設定する」に設定してください) ▲·▼で 「自動設定する」を選び、決定 を押す ※「自動設定する」の設定で、次ページの「電話回線テスト」が失敗となる場合は、▲·▼ で「時間を指定する」を選び、◀·▶で時間を選択して、決定 を押します。 ・設定範囲は2秒～9秒 (秒単位) です。
電話会社の設定	●本機からの発信時に、マイラインやマイラインプラスを使いたい場合や、通常使用する電話会社以外の電話会社を使いたいときに設定します。 ❶ ▲·▼で「電話会社を設定する」を選び、決定 を押す ❷ ▲·▼でマイラインプラス (優先接続サービス) に「加入していない」または「加入している」を選び、決定 を押す ❸ 1 ～ 10/0 で電話会社を入力し、決定 を押す ・最大8ケタまで設定できます。 ・間違って入力した場合は、◀ で前のケタに戻り、もう一度入力してください。
電話番号通知設定	●本機から電話の発信をしたときに、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 ❶ ▲·▼でお好みの設定を選び、決定 を押す ・**通知しない**…本機は電話番号の最初に「184」をつけてダイヤルします。 ・**通知する**　…本機は電話番号の最初に「186」をつけてダイヤルします。 ・**設定しない**…本機は何もつけずにダイヤルします。この場合は、NTTとの「ナンバーディスプレイ」の契約のとおりとなります。

■外線発信番号の設定について

● 手順❸で「時間を指定する」に設定した場合には、ダイヤルトーン検出をしません。
ダイヤルトーンのレベルが低い場合は、「時間を指定する」に設定してください。その場合、以下の自動判定やテストでは回線の接続と設定の確認はできません。次ページの「電話回線テスト」の「センター接続テスト」で確認してください。
・「ダイヤル方式の設定」の自動判定(35)
・「電話回線テスト」(次ページ)
・「簡易確認テスト」(36、84)での電話回線テスト

■電話会社の設定について(マイラインプラスに加入している場合)

● 手順❷で「加入している」に設定してください。手順❸で設定した電話会社での回線発信ができます。
● 手順❷で「加入していない」に設定すると、手順❸で電話会社を設定しても回線発信ができなくなります。
● 手順❸で電話会社番号が未入力の場合は、手順❶の「電話会社を設定しない」に自動的に設定されます。

通信設定 つづき

電話回線設定 つづき

設定項目	説明および操作手順
電話回線テスト	●電話回線の接続と設定が正しく行われているかを確認します。 ❶▲·▼で「電話回線テスト」または「センター接続テスト」を選ぶ ・**電話回線テスト**………本機と電話回線の接続・設定が正しく行われているか確認します。テストの結果については 37 をご覧ください。 ・**センター接続テスト**…本機とセンターの電話回線の接続が正しく行われているか確認します。テストの結果については下のお知らせをご覧ください。 **（このテストは電話料金がかかります）** ❷電話回線の接続状態を確認して、決定を押す ❸テストが終了したら、決定を押す
待ち時間の設定	●本機から電話の発信をしたいときに、「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」、「電話会社指定番号」のあとにダイヤルまでの待ち時間が必要な場合に設定してください。 ❶▲·▼で「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」または「電話会社指定番号」の設定したいどれかを選び、決定を押す ❷◀·▶でダイヤル待ち時間を選択し、決定を押す ・設定できる内容は、「設定しない」、「1秒」～「9秒」です。

■**待ち時間の設定について**

● 表示が「－－」になっている項目に対してダイヤルまでの待ち時間は設定できません。
各項目で「－－」表示になる場合は以下のとおりです。
- 電話番号通知設定で「設定しない」に設定した場合
- マイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」に設定した場合
- 電話会社の設定で「電話会社を設定しない」に設定した場合

■**センター接続テストの結果**

センター接続テスト結果のメッセージ表示	内容または対処のしかた
「センターと電話回線が正常に接続されたことを確認しました。」	●正しく接続されています。
「センターと通信できませんでした。」	●「電話回線の接続」 26 と、「電話回線設定」を確認してください。
「ただいまセンターがこみあっているため、センターと通信できません。」	●しばらくしてから、もう一度センター接続テストをしてください。
「ただいまセンターと通信できません。」	

通信接続設定

● 「通信環境設定」は、「LAN端子の接続(1)」27ページをした場合および、デジタル放送のダイヤルアップ通信による双方向通信サービスを利用する場合に設定します(ダイヤルアップ通信には、「電話回線の接続」26ページと「電話回線設定」69ページ、70ページが必要です)。
● 「LAN端子設定」は、「LAN端子の接続(1)」をした場合に設定します。ご契約のプロバイダーから設定内容の指定がある場合は、それをもとに設定します。(ダイヤルアップでのインターネット通信の設定はしないでください)
● 「LAN HDD端子設定」では、LAN HDDを使用するための設定をします。

1 **以下の操作で「通信接続設定」画面にする**

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「通信接続設定」を選び、決定を押す

通信接続設定	
通信環境設定	イーサネット優先
ＬＡＮ端子設定	
ＬＡＮ　ＨＤＤ端子設定	

2 **設定したい項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表(73ページまで)の手順に従って設定する**

3 **設定を有効にするには、本体の電源で電源を切り、もう一度電源を入れる**

設定項目		説明および操作手順
通信環境設定		●番組(コンテンツ)によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を行うようにするか、しないかを設定します。 ❶▲·▼で「イーサネット」または「イーサネット優先」を選び、決定を押す ・イーサネット………ダイヤルアップ通信を使用しない場合に選びます。 ・イーサネット優先…イーサネット通信を優先して接続しますが、データ放送でダイヤルアップ通信が指定された場合はダイヤルアップ通信に切り換わります。通常はこちらを選びます。
LAN端子設定（汎用LAN端子）	IPアドレス設定	●インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。 ※以下の手順で「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶▲·▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷IPアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ **IPアドレスを自動取得できないネットワーク環境の場合** ①◀·▶で「しない」を選ぶ ②▲·▼で「IPアドレス」を選び、1～10/0で入力する ③▲·▼で「サブネットマスク」を選び、1～10/0で入力する ④▲·▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、1～10/0で入力する ・最大3ケタの数字(「0」～「255」。ただし、左端の欄には「0」は入力できません)を一組として、4箇所の欄に入力します。 ・次の組(欄)に移動するには、▶を押します。間違って入力した場合は◀を押して、もう一度入力します。 ❸決定を押す

個別に設定をするとき

■通信環境設定について
● 「イーサネット優先」に設定した場合、何らかの原因(たとえばADSLモデムの故障等)でイーサネット通信ができないときには、ダイヤルアップ通信もできなくなる場合があります。
● 実際に接続·設定している環境と異なる項目を選ぶと正常に働きません。

■IPアドレス設定について
● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
● ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定してください。
● 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスの右端の欄の数値が重複しないように設定してください。また、設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
● 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスの左端の欄～3番目の欄までの数値がそれぞれ同じであることを確認してください。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

通信設定 つづき

通信接続設定 つづき

	設定項目	説明および操作手順
LAN端子設定（汎用LAN端子）	DNS設定	●ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。 ※「IPアドレス設定」で「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶▲･▼で「DNS設定」を選び、決定を押す ❷DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀･▶で「する」を選ぶ ■ DNSアドレスを自動的に割り当てられないネットワーク環境の場合 ①◀･▶で「しない」を選ぶ ②▲･▼で「DNSアドレス（プライマリ）」を選び、1～10 0で入力する ③▲･▼で「DNSアドレス（セカンダリ）」を選び、1～10 0で入力する ・最大3ケタの数字（「0」～「255」。ただし、左端の欄には「0」は入力できません）を一組として、4箇所に入力します。 ・次の組（欄）に移動するには▶を押します。 ❸決定を押す
	プロキシ設定	●インターネットとの接続時にプロキシ（代理）サーバーを経由する場合に設定します。 ●ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定してください。 ●ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。 ❶▲･▼で「プロキシ設定」を選び、決定を押す ❷▲･▼で「使用する」を選び、決定を押す ❸▲･▼で「サーバー名」を選び、決定を押す ❹1～10 0でサーバー名を入力する ・文字入力のしかたは操作編 28 をご覧ください。 ・入力できる文字は半角英字／半角数字で、記号は半角の!"#%&()*+,-.:;<=>@[¥]^{|}~?_/です。 ❺▲･▼で「ポート番号」を選び、1～10 0でポート番号を入力する ❻▲･▼･◀･▶で「設定完了」を選び、決定を押す
	MACアドレス	●ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶▲･▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷MACアドレスを確認したら、終了を押す
	接続テスト	●「LAN端子設定」が正しく行われているかテストします。 ❶▲･▼で「接続テスト」を選び、決定を押す ❷接続テストをする場合は、決定を押す（テスト結果のメッセージについては下の「お知らせ」を参照） ❸終了を押して、メニューを消す

■DNS設定について

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。（通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です）

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定されたものを手動で設定してください。
(プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください)

■接続テストについて

接続テスト結果のメッセージ表示	内容または対処のしかた
「接続を確認しました。」	●正しく設定されています。
「接続できませんでした。 通信設定をご確認ください。」	●「LAN端子の接続（1）」27 および前ページと上記の「LAN端子設定」で、接続・設定の状態を確認してください。 ●LAN端子の各設定を有効にするには、必ず設定後に本体の 電源 で電源を一度切って、もう一度入れ直してください。
「接続できませんでした。 LAN端子の接続をご確認ください。」	

●接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認してください。

(1)「LAN端子設定」を確認する

・ 正しく設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。(ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

(2) ネットワーク環境の接続確認

・ 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。

❶パソコンのインターネット･ブラウザ(Internet Explorerなど)を起動する

❷URL欄に「http://www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する

・ ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコン、ルーターの設定が正しいか確認してください(詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください)。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

<table>
<tr><th colspan="2">設定項目</th><th>説明および操作手順</th></tr>
<tr><td rowspan="3">LAN HDD端子設定（HDD専用LAN端子）</td><td>IPアドレス設定</td><td>●HDD専用LAN端子を使用するときのIPアドレスを設定します。通常は、お買い上げ時の状態（「自動設定」）のままでご使用ください。
※ 「LAN端子設定」の「IPアドレス設定」71 と「LAN HDD端子設定」の「IPアドレス設定」は連動しています。
たとえば、「LAN端子設定」で「IPアドレス設定」を「自動取得」に設定すると、「LAN HDD端子設定」の「IPアドレス設定」は自動的に「自動設定」になります。
●手動で設定する場合は、「LAN端子設定」の「IPアドレス設定」で、「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定してから、以下の操作をしてください。
❶▲・▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す
❷▲・▼で「IPアドレス」を選び、1 ～ 10 0で3番目と4番目の欄に入力する
・「LAN端子設定」の「IPアドレス設定」で「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、ここでのIPアドレスは、左端から1番目と2番目の欄が自動的に設定されます。（変更できません）
・最大3ケタの数字（「0」～「255」）を一組として、3番目と4番目の欄に入力します。
・次の組（欄）に移動するには、▶を押します。
❸▲・▼で「サブネットマスク」を選び、1 ～ 10 0 で入力する
・最大3ケタの数字（「0」～「255」。ただし、左端の欄には「0」は入力できません）を一組として、4箇所の欄に入力します。
❹決定を押す</td></tr>
<tr><td>DHCPサーバー設定</td><td>●通常はお買い上げ時の状態（「使用する」）でご使用ください。他の機器からIPアドレスを割り振るなどの場合は、「使用しない」に設定してください。
❶▲・▼で「DHCPサーバー設定」を選び、決定を押す
❷◀・▶で「使用する」または「使用しない」を選ぶ
■「使用する」に設定した場合で、開始IPアドレスやリースアドレス数を変更する場合
①▲・▼で「開始IPアドレス」を選び、1 ～ 10 0で3番目と4番目の欄に入力する
・開始IPアドレスは、左端から1番目と2番目の欄が自動的に設定されます。（変更できません）
・最大3ケタの数字（「0」～「255」）を一組として、3番目と4番目の欄に入力します。
・次の組（欄）に移動するには、▶を押します。
②▲・▼で「リースアドレス数」を選び、1 ～ 10 0 で入力する
・入力できる数字は「1」～「254」です。
❸決定を押す</td></tr>
<tr><td>MACアドレス</td><td>●ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。
❶▲・▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す
❷MACアドレスを確認したら、終了を押す</td></tr>
</table>

個別に設定をするとき

■DHCPサーバー設定について

● DHCPサーバーを使用しない場合は、汎用LAN端子で使っているIPアドレスとは異なる数値に設定してください。
たとえば「192.168.XXX.YYY」で、「XXX」の部分を汎用LAN端子とは異なる数値にします。

通信設定 つづき

接続確認メッセージ設定

● データ放送でのダイヤルアップ通信の接続や切断をする際に、確認のメッセージを表示させることができます。
● お買い上げ時は、「表示する」に設定されています。

1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「通信設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「接続確認メッセージ設定」を選び、決定 を押す

3 ▲·▼ で「表示する」または「表示しない」を選び、決定 を押す

● アクセスポイントにダイヤルアップ接続する場合やダイヤルアップ接続が切断される場合に、確認の画面を表示するかどうかが設定されます。
● 設定が完了して前画面に戻ります。

4 終了 を押して、メニューを消す

通信エラー履歴

● 通信エラー履歴は、回線接続エラーが生じた場合に、一番新しい接続エラーを1件だけ記録して表示します。
この通信エラー履歴は、放送局へのお問い合わせの際に必要になる場合があります。

1 以下の操作で「通信設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「通信設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「通信エラー履歴」を選び、決定 を押す

● エラー履歴があれば表示されます。

3 内容を確認し、決定 を押す

4 終了 を押して、メニューを消す

■**接続確認メッセージ設定のお知らせ**
● 以下の場合は「表示する」に設定してもメッセージは表示されません。
・番組購入情報の送信時(操作編 14ページ)

■**通信エラー履歴について**
● おもなエラーメッセージの対処のしかたは、操作編の79ページをご覧ください。

録画機器設定

i.LINK設定

i.LINK機器の登録と解除

● i.LINK端子にD-VHSビデオなどのi.LINK機器をつないだ場合や、使用しない機器の登録を解除したい場合には、以下の設定をしてください。

登録について

● 通常は、本機にi.LINK機器が接続されると自動的に機器登録されるので、登録は不要です。
● 次の場合には、以下の手順で登録してください。
・ 右記の「登録モード設定」を「手動」に設定している場合で、新たなi.LINK機器を登録する場合
・ 9台以上のi.LINK機器をつないでいる場合(登録できるのは、最大8台までです)
● 登録できるのはD-VHSビデオとHDDビデオレコーダーです。

解除について

● 接続をはずして使用しなくなった機器の登録を解除することができます。
● つながっている機器の登録を解除する場合は、「登録モード設定」を「手動」に設定してください。

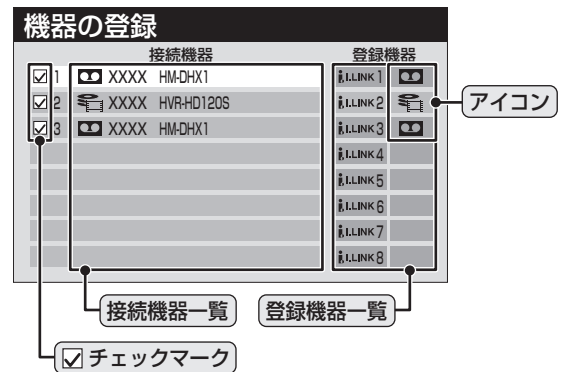
1 以下の操作で「i.LINK設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「録画機器設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「i.LINK設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「機器の登録」を選び、決定 を押す

● 登録画面が表示されます。
● i.LINK機器が1台もつながっていない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

3 ▲·▼ で登録(または解除)したい機器を選び、決定 を押す

● チェックマーク「✔」が付き、登録機器一覧の登録番号1～8の空いている小さい番号順に登録されます。

● 決定 を押すたびに、「登録☑」と「解除□」が交互に切り換わります。
● 予約設定されているi.LINK機器は解除できません。

4 終了 を押して、メニューを消す

その他のi.LINK設定

● お買い上げ時は、基本的な状態に設定されています。変更する場合は、左の手順**2**で、必要に応じてその他の項目を選択して設定をしてください。項目と内容は下表のとおりです。

設定項目	内容
登録モード設定	●通常は「自動」のままお使いいただけますが、i.LINK機器の一部だけを登録したい場合や、自動登録の動作が不安定な場合は「手動」にしてください。 ・自動…i.LINK機器を自動で登録します。 ・手動…左記手順**1**～**3**に従ってi.LINK機器を手動で登録します。
ブロードキャスト入力設定	・オン…本機でブロードキャスト信号を受け取る ・オフ…本機でブロードキャスト信号を受け取らない
最大データ転送速度設定	・最適……通常はこれに設定します。 ・S100…転送速度が100Mbpsのケーブルや機器を使用する場合に設定します。
D-VHSテープ検出	・オン…D-VHSビデオで録画予約やクイックメニューからの録画をする際に、D-VHSテープがはいっているか検出します。 ・オフ…D-VHSテープの検出をしません。
ちょっとタイム機器	「ちょっとタイム機能」(操作編 53) を使うHDDビデオレコーダーを(i.LINK接続)1台だけ設定します。
ちょっとタイム機器電源設定	・連動しない…電源を連動させません。 ・テレビ電源入連動…本機の電源を「入」にすると、「ちょっとタイム機器」に設定した機器の電源も自動的に「入」にします。(本機の電源が「入」のときは、「ちょっとタイム機器」の電源は「待機」になりません)

● 録画中はi.LINK設定はできません。
● ブロードキャストとは、i.LINK接続されている複数の機器に同時に映像や音声の信号を送り、それぞれの機器で受けるようにした機能のことです。本機は入力にのみ対応しており、お買い上げ時の設定は「オフ」です。本機でこの機能を使いたい場合には「オン」に設定します。
● 「D-VHSテープ検出」の設定で、D-VHSテープを入れても、はいっていないというメッセージが表示される場合は「オフ」に設定してください。これは、D-VHSビデオにテープの自動検出機能がないためです。
● 「ちょっとタイム機器」の設定をしないと、「ちょっとタイム」機能は使用できません。ただし、本機につないだときに自動登録されたHDDビデオレコーダーが、「追っかけ再生」のできる機器であれば、自動的にちょっとタイム機器に設定されます。
● 「ちょっとタイム機器電源設定」で「テレビ電源入連動」に設定している場合は、i.LINK接続したHDDビデオレコーダーの電源を「操作パネルで操作する」(操作編 54)の操作で「待機」にすることはできません。

録画機器設定 つづき

LAN HDD設定

LAN HDDの登録と解除

● LAN HDDを接続した場合は、必要に応じて以下の設定をしてください。
(HDD専用LAN端子に接続した場合には、必要ありません)

登録について

● LAN HDDを本機のHDD専用LAN端子につないでいる場合は、通常は自動登録されますので、この操作での登録は不要です。(自動登録されるのはguestユーザーでアクセス(ファイルの読み書き)可能な共有フォルダのみです)

● 次の場合に、以下の操作で登録してください。
- 次ページの「登録モード設定」を「手動」に設定している場合で、新たなLAN HDDを登録する場合
- 9台以上のLAN HDDをつないでいる場合(登録できるのは、最大8台までです)
- 共有フォルダを使用する際、ユーザー名とパスワードが必要な機器の場合

解除について

● 本機からはずして使用しなくなったLAN HDDの登録を解除することができます。

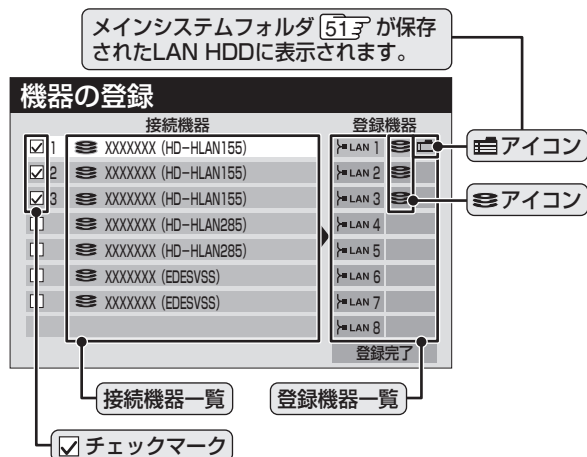
1 以下の操作で「LAN HDD設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「録画機器設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「LAN HDD設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「機器の登録」を選び、決定を押す

● 登録画面が表示されます。
● LAN HDDが1台もつながっていない場合は、その旨のメッセージが表示されます。

3 ▲·▼で登録(または解除)したい機器を選び、決定を押す

● チェックマーク「✔」が付き、登録機器一覧の登録番号1～8の空いている小さい番号順に登録されます。

● 決定を押すたびに、「登録☑」と「解除□」が交互に切り換わります。
解除すると、登録機器一覧からアイコンが消えます。
● 予約設定されているLAN HDDは解除できません。

メインシステムフォルダの保存先を選んだ場合

● 確認画面が表示されたら「はい」を選んで決定を押します。

登録したいLAN HDDが表示されていない場合

● 正しく接続されていることと、電源がはいっていることを確認して赤を押します。

ユーザーIDを切り換えるには

● LAN HDDに複数のユーザー(ユーザー名とパスワード)が登録されている場合、共有フォルダにアクセスする際のユーザーを切り換えるには、以下の操作で入力します。

❶ 青を押す
● ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。
❷ ▲·▼·◀·▶で「ユーザー名」を選び、決定を押す
● 文字入力画面が表示されます。
❸ 1～11で「ユーザー名」を入力する
● 文字入力のしかたは、操作編 28 をご覧ください。
❹ 「パスワード」も同様にして入力する
❺ ▲·▼·◀·▶で「入力完了」を選び、決定を押す
● 正しく認証された場合は、入力されたユーザーIDでアクセスできる共有フォルダの一覧に切り換わります。

次のページにつづく

● ユーザーIDを切り換えた場合、次回このLAN HDDにアクセスしたときに、変更後のユーザー名とパスワードの入力が必要です。(guestユーザーの場合は不要です)
● ここで入力したユーザー名やパスワードは本機内に記憶されます。この設定をしたLAN HDDで「画質モードテスト」や「システムフォルダ設定」などをする際には、本機はこの情報を使ってLAN HDDにアクセスします。

4 ▶で「登録完了」を選び、決定を押す

5 終了を押して、メニューを消す

登録モード設定

※ 通常は、この設定は不要です。
● LAN HDDを自動で登録するか、手動操作で登録するかの設定をします。
● HDD専用LAN端子につないだLAN HDDは、自動で登録されます。汎用LAN端子（ルーターを経由した場合を含みます）につないだLAN HDDは、手動で登録する必要があります。ほかにも、本機に接続しているLAN HDDのうち、一部だけを登録したい場合や、共有フォルダを使用する際にユーザー名とパスワードが必要な機器の場合は、以下の操作で「手動」にしてください。

1 以下の操作で「LAN HDD設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼ で「録画機器設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼ で「LAN HDD設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼ で「登録モード設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼ で「手動」または「自動」を選び、決定を押す

・ **自動**･･･ LAN HDD専用端子にLAN HDDが接続されると、自動的にLAN HDDが登録されます。自動登録されるのはguestユーザーでアクセス（ファイルの読み書き）可能な共有フォルダのみです。
・ **手動**･･･ 自動登録をしないで、手動で登録をするモードです。「手動」にした場合は、前ページの「LAN HDDの登録·解除」で登録をしてください。

4 終了を押して、メニューを消す

画質モードテスト

● 本機につないだLAN HDDで、どの画質モードが使用できるかをテストします。
※ テスト結果は目安です。テスト結果が「OK」でも正常に録画できない場合や、テスト結果が「OK」ではない場合でも正しく録画できる場合があります。

1 以下の操作で「LAN HDD設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼ で「録画機器設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼ で「LAN HDD設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼ で「画質モードテスト」を選び、決定を押す

3 ▲·▼ でテストしたいLAN HDDを選び、決定を押す

● テストが始まります。終了するまでに数分間かかります。
● テスト結果で「NG」と表示された画質モードでは録画することはできません。

4 終了を押して、メニューを消す

お知らせ
●LAN HDDの自動登録には10分間ほど時間がかかります。

録画機器設定 つづき

LAN HDD設定 つづき

システムフォルダ設定

システムフォルダの設定には十分ご注意ください。誤ってシステムフォルダの変更や削除をすると、これまでLAN HDDに録画した番組が再生できなくなります。

● ここでは、システムフォルダの保存先の変更や、システムフォルダの一括更新、削除などをします。

メインシステムフォルダ 51 を保存してあるLAN HDDが故障した場合には、システム情報の読み出しができなくなり、ほかのLAN HDDに録画した番組も再生できなくなります。そのような場合は、以下の操作で正常なLAN HDDの情報からメインシステムフォルダを作り直し、新たに指定したLAN HDDに保存することができます。

1 以下の操作で「LAN HDD設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「録画機器設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「LAN HDD設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「システムフォルダ設定」を選び、決定を押す

● システムフォルダ設定画面が表示されます。

3 ▲·▼でメインシステムフォルダを保存したいLAN HDDを選び、決定を押す

4 システム設定更新中の画面が表示されたら、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

● 選んだLAN HDDへのメインシステムフォルダの保存が始まります。

※ **画面の表示中は、本機やLAN HDDには触れないでください。途中で強制的に終了したりすると、これまで録画した番組が再生できなくなることがあります。**

● 設定が完了すると、手順**3**の画面に戻ります。引き続いてシステム情報の一括更新をします。

5 ▲·▼で「設定完了」を選び、決定を押す

6 青を押す(システム情報の一括更新)

● システム情報の一括更新が始まります。

※ 手順**4**と同じ画面が表示されます。終了するまで手を触れずに待ってください。

● 設定が完了すると、手順**3**の画面に戻ります。

● システム情報の一括更新だけをする場合は、左の手順**1**、**2**とこの操作をします。

● 以下の場合にはその旨のメッセージが表示されます。メッセージの内容を確認後、決定を押してください。
- HDDにエラーがある、またはHDDの容量が不足しているとき
- システム情報にエラーや欠落などがあり、録画番組を再生できない場合があるとき

7 終了を押して、メニューを消す

次のページにつづく

お知らせ

● メインシステムフォルダの記録先であるLAN HDDからは、システムフォルダを削除することはできません。

システムフォルダを削除するには

● メインシステムフォルダの保存先を変更した場合、もとの使用しなくなったシステムフォルダを削除することができます。
ほかの場合は、システムフォルダを削除しないでください。誤って削除すると録画番組を再生できなくなる場合があります。

❶ 前ページ左の手順**1**、**2**で「システムフォルダ設定」画面にする

❷ システムフォルダを削除するLAN HDDを▲·▼で選ぶ

❸ 赤 を押す
● LAN HDDにアクセスするためのユーザー名·パスワードの入力画面が表示された場合は、以下の手順で入力します。
① ▲·▼·◀·▶で「ユーザー名」を選び、決定を押す
·文字入力画面が表示されます。
② LAN HDDに設定されているユーザー名を入力する
·文字入力のしかたは、操作編 28 をご覧ください。
③ パスワードも同様にして入力する
④ ▲·▼·◀·▶で「入力完了」を選び、決定を押す

❹ 削除する場合は、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

❺ 画面の説明を確認後、削除する場合は◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

❻「削除しました」のメッセージが表示されたら、決定を押す

❼ 終了を押して、設定画面を消す

外部機器からの制御

●「あり」に設定すると、i.LINK接続されている他の機器から本機を制御できるようになります。
お買い上げ時は「なし」に設定されています。

1 以下の操作で「録画機器設定」の画面にする
❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「録画機器設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「外部機器からの制御」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「あり」または「なし」を選び、決定を押す

4 設定を終了するには、終了を押す

スキップ／リプレイ設定

● HDDビデオレコーダー(i.LINK接続)やLAN HDDでの、ちょっとスキップやちょっとリプレイ(操作編 54)の時間を設定することができます。
● お買い上げ時の状態
· ちょっとスキップ設定···30秒
· ちょっとリプレイ設定···10秒

1 以下の操作で「録画機器設定」の画面にする
❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「録画機器設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「スキップ／リプレイ設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「ちょっとスキップ設定」または「ちょっとリプレイ設定」を選び、決定を押す

4 ▲·▼で時間を選び、決定を押す
● 5秒、10秒、30秒、5分から選択できます。
※ これらの時間は目安です。録画番組のレートによって多少変わります。

5 設定を終了するには、終了を押す

■外部機器からの制御について
● 他のi.LINK機器から本機を制御するには、本機の電源を「入」または「待機」にしておく必要があります。「待機」で制御する場合は、「番組情報取得設定」(操作編 66)を「取得する」に設定してください。(「取得しない」に設定すると、制御できません)
●「外部機器からの制御」を「なし」に設定した場合、i.LINK機器によっては本機を認識できないことがあります。
●「外部機器からの制御」を「なし」に設定した直後に動作が不安定になる場合は、i.LINKケーブルを抜き差ししてください。

メール設定

● メール機能を使うには、「LAN端子の接続(1)」27 と「LAN端子設定」71 ～72 が必要です。また、メールサービスが利用できるインターネット接続業者（プロバイダー）との契約が必要です。詳しくは、インターネット接続業者にお問い合わせください。

基本設定

● 本機でメールを受信するための基本的な設定をします。

1 以下の操作で「基本設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す
❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲･▼ で「メール設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲･▼ で「基本設定」を選び、決定 を押す

2 設定する項目を▲･▼で選び、決定 を押す

基本設定	
POP3サーバーアドレス	XXXX
POP3ユーザー名	XXXX
POP3パスワード	＊＊＊＊
APOP	使用しない
POP3アクセス間隔	15分
SMTPサーバーアドレス	XXXX
メールアドレス	XXX@XXX.ne.jp

● 設定項目と操作手順は下表のとおりです。
● 入力する内容はプロバイダーから提供された資料をご覧ください。
● 「APOP」と「POP3アクセス間隔」以外は、文字を入力します。

3 終了 を押して、メニューを消す

4 設定を有効にするには、本体の 電源 で電源を切り、もう一度電源を入れる

設定項目	説明および操作手順
POP3 サーバーアドレス	POP3サーバーアドレスを入力します。（例）pop.XXX.ne.jp
POP3 ユーザー名	ユーザーIDを入力します。
POP3パスワード	パスワードを入力します。
APOP	●メール受信時にパスワードを暗号化して送ります。メールサーバーやメールソフトが対応していない場合は「使用しない」を選びます。 ❶▲･▼で「使用する」または「使用しない」を選び、決定 を押す
POP3 アクセス間隔	●本機がメールサーバーに定期的に新着メールの確認にいく間隔を設定します。 ❶▲･▼･◀･▶で時間を選び、決定 を押す
SMTP サーバーアドレス	SMTPサーバーアドレスを入力します。（例）smtp.XXX.ne.jp
メールアドレス	メールアドレスを入力します。

メール録画予約設定

● Eメールで録画予約する機能を使う場合に必要な設定です。

1 以下の操作で「メール録画予約設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す
❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲･▼ で「メール設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲･▼ で「メール録画予約設定」を選び、決定 を押す

2 設定する項目を▲･▼で選び、決定 を押す

メール録画予約設定	
メール録画予約機能	使用しない
録画機器	ビデオ
メール予約パスワード	未設定
予約設定結果通知	通知する
指定メールアドレス	
予約アドレス登録	

● 設定項目と操作手順は下表（次ページまで）のとおりです。

3 終了 を押して、メニューを消す

設定項目	説明および操作手順
メール録画予約機能	●Eメールでの録画予約機能を使用する、しないを設定します。 ※使用する場合は、「予約アドレス登録」をしてください。登録が１件もない場合は、「使用する」に設定しても「使用しない」に自動的に変更されます。 ❶▲･▼ で「使用する」または「使用しない」を選び、決定 を押す
録画機器	●番組の録画先の機器を指定します。 ❶▲･▼で録画先を選び、決定 を押す
メール予約パスワード	●メールで録画予約をする場合に使用するパスワードを設定します。 ※パスワードを設定しないと、メール録画予約はできません。 ❶パスワードを設定する ・パスワードには最小6文字～最大20文字までの半角英数字を入力します。 ❷入力が終わったら、決定 を押す

次のページにつづく

● メール予約パスワード」は、Eメールの本文に記載しますので、この点を考慮して文字数や文字列を決めてください。Eメールは悪意を持った第三者に見られるおそれがありますので、POP3パスワードやキャッシュカードの暗証番号などを使用しないことをお勧めします。
● 文字の入力については「文字入力をする」（操作編 28）をご覧ください。
● SMTPサーバーアドレスの設定は、「メール録画予約機能」を使わない場合は不要です。

設定項目	説明および操作手順
予約設定結果通知	●メールからの録画予約が完了した旨を、メールでお知らせする機能です。 ❶ ▲･▼ でご希望の通知先を選び、決定を押す ・**使用しない**････予約設定結果通知を使用しません。 ・**指定アドレスへの通知**････下記の「指定メールアドレス」で指定したアドレスに通知します。 ・**送信元アドレスへの通知**････録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。 ・**指定アドレスと送信元アドレスへの通知**････下記の「指定メールアドレス」で指定したアドレスと、録画予約のメールを送ったアドレスに通知します。
指定メールアドレス	●「予約完了通知メール」の送り先を設定します。 ※指定したアドレスに送信する場合は上記の「予約設定結果通知」で「指定アドレスと送信元アドレスへの通知」または「指定アドレスへの通知」に設定してください。 ❶指定するメールアドレスを入力する ❷入力が終わったら、決定を押す

設定項目	説明および操作手順
予約アドレス登録	●以下で登録したアドレスからの録画予約メールだけを受信することができます。 ・予約アドレスを一件も登録しない場合は、「メール録画予約機能」が「使用しない」に自動的に変更されます。 **予約アドレスを登録する** ●6件のアドレスが登録できます。 ① ▲･▼･◀･▶で「新規追加」を選び、決定を押す ② 1 ～ 10/0 でアドレスを入力する ・いくつものアドレスを登録する場合は手順①～②を繰り返します。 **登録されているアドレスを編集・削除する場合** ●すでに登録されているアドレスの内容を編集・削除します。 ①上記の「予約アドレスを登録する」①の操作で、「アドレス登録」画面にする ② ▲･▼で編集・削除したいアドレスを選び、決定を押す ③ ▲･▼で「編集する」または「削除する」を選び、決定を押す ■ **「編集する」を選んだ場合** ●文字入力画面で、アドレスを変更する ■ **「削除する」を選んだ場合** ●確認画面で、◀･▶で「はい」を選び、決定を押す ・指定したアドレスが削除されます。 ●アドレスの登録、編集・削除が終わったら、▲･▼･◀･▶で「登録完了」を選び、決定を押す

メール設定 つづき

メール受信設定

● Eメールを受信したときの、表示などについての設定です。

1 以下の操作で「メール受信設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す
❸ ▲·▼ で「メール設定」を選び、決定 を押す
❹ ▲·▼ で「メール受信設定」を選び、決定 を押す

2 設定する項目を▲·▼で選び、決定 を押す

メール受信設定	
一覧表示設定	オン
自動削除設定	使用しない
着信通知設定	表示する
フィルター設定	

● 設定項目と内容は、表のとおりです。

3

設定項目	説明および操作手順
一覧表示設定	●お買い上げ時には、新着メールアイコン（操作編 49ｽﾞ）が画面に表示されたときに 決定 を押すと、受信メール一覧（操作編 49ｽﾞ）が表示されるようになっています。 以下の設定で、決定 を押しても受信メール一覧が表示されないようにすることができます。 ❶▲·▼ で「オン」または「オフ」を選び、決定 を押す ・**オン**‥‥新着メールアイコンが表示されたときに 決定 を押すと受信メール一覧が表示されます。 ・**オフ**‥‥新着メールアイコンが表示されたときに 決定 を押しても受信メール一覧が表示されません。 （新着メールアイコンは数秒たつと消えます。戻る または 終了 を押しても消えます）
自動削除設定	●受信したメールの自動削除機能を使用するかどうかと、自動削除する際に何日以前のメールを削除するのかを設定します。 ❶◀·▶で「する」または「しない」を選び、決定 を押す ・**する**‥‥手順❷で設定した日数よりも前に受信したメールを自動的に削除します。 ❷▲·▼で「削除期間」を選ぶ ❸削除する期間を 1 ～ 10 で入力し、戻る を押す ・1～30日のあいだで設定できます。
着信通知設定	●メールが届いたときに、画面に新着メールアイコン（操作編 49ｽﾞ）を表示させるように設定することができます。 ❶▲·▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定 を押す
フィルター設定	●指定したアドレスからのメールだけを受信する、または、指定したアドレスからのメール受信を拒否するのどちらかを設定することができます。 ❶▲·▼で「フィルター設定」を選び、決定 を押す ❷◀·▶で「使用する」を選び、戻る を押す **■ フィルター条件を設定する** ①▲·▼で「フィルター条件」を選び、決定 を押す ②▲·▼で「指定受信」または「指定拒否」を選び、決定 を押す ・**指定受信**……指定したアドレスからのみメールを受信します。 ・**指定拒否**……指定したアドレスからのメールを拒否します。 **■ アドレスを登録する** ●15アドレスを登録することができます。 ①▲·▼で「アドレス登録」を選び、決定 を押す ②▲·▼·◀·▶で「新規追加」を選び、決定 を押す ③ 1 ～ 10 でアドレスを入力する ・フィルター設定させるアドレスを登録してください。 ④アドレスの入力が終わったら、決定 を押す ・いくつものアドレスを登録する場合は②～④を繰り返します。 **■ 登録されているアドレスを編集・削除する場合** ●すでに登録されているアドレスの内容を編集・削除します。 ①上の「アドレスを登録する」①の操作で、「アドレス登録」画面にする ②▲·▼で編集・削除したいアドレスを選び、決定 を押す ③▲·▼で「編集する」または「削除する」を選び、決定 を押す **■ 編集を選んだ場合** 1）文字入力画面で、アドレスを変更する 2）編集が終わったら、決定 を押す **■ 削除を選んだ場合** 1）確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定 を押す ●アドレスの登録、編集・削除が終わったら、▲·▼·◀·▶で「登録完了」を選び、決定 を押す

● 文字の入力については「文字入力のしかた」（操作編 28ｽﾞ）をご覧ください。
● 「メール受信設定」の「フィルター設定」は、受信したEメール表示画面からもアドレスの登録ができます。（操作編 50ｽﾞ）

4th MEDIA（フォースメディア）設定

● 4th MEDIAを視聴するための設定、確認をします。（4th MEDIAについては、操作編 11 をご覧ください）

設定のしかた

1 以下の操作で「4th MEDIA設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲･▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲･▼ で「4th MEDIA設定」を選び、決定 を押す

4th MEDIA設定	
フレッツの「お客様ID」／「Sub NO.」	
ユーザー名	
パスワード	未設定
視聴制限設定	
接続テスト	
システム情報	

2 ▲･▼ で設定（または確認）する項目を選び、決定 を押す

● 設定項目と操作手順は下表のとおりです。
● 文字の入力については「文字入力をする」（操作編 28 ）をご覧ください。
● 下表の※１印については、NTT東日本、NTT西日本、プロバイダーとの契約時の資料でご確認ください。

設定項目		説明および操作手順
フレッツの「お客様ID」／「Sub No.」※1		NTT東日本の場合はフレッツの「お客様ID」、NTT西日本の場合はフレッツの「Sub No.」（どちらもフレッツ契約時に指定されたもの）を設定します。
ユーザー名 ※1		ユーザー名は、ユーザーIDと識別子を例のように設定します。 例）abc123@XXXX └ユーザーID　└プロバイダーの識別子
パスワード ※1		ご契約プロバイダーのパスワードを本機に設定します。
視聴制限設定（4th MEDIA用） ＊視聴制限の機能を使わない場合は、この設定は不要です。 ただし、成人向けコンテンツやR指定コンテンツの視聴には「視聴年齢制限設定」が必要です。	視聴年齢制限設定	大人向けの番組やビデオでは視聴年齢が設定されているものがあり、暗証番号を入力しないと視聴できないように設定することができます。 ●4歳～20歳の間で視聴を制限したい年齢を設定します。 ●視聴年齢制限を使わない場合は、20歳に設定してください。 ＊ あらかじめ4th MEDIA用の暗証番号を設定してください。 ❶「視聴年齢制限設定」 86 の手順**2**～**4**をする ※2
	番組購入制限設定	「制限する」に設定するとビデオ購入時に暗証番号の入力が必要となります。 ＊ あらかじめ4th MEDIA用の暗証番号を設定してください。 ❶▲･▼で「番組購入制限設定」を選び、決定 を押す ❷ 1 ～ 10/0 で暗証番号を入力する ※2 ❸▲･▼で「制限する」または「制限しない」を選び、決定 を押す
	暗証番号設定	4th MEDIA用の暗証番号をお客様ご自身で設定してください。 （4th MEDIA用の暗証番号は、上の二つの設定をする際に必要です） ご注意 ＊暗証番号を忘れた場合の消去は有料になりますので、忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、東芝家電修理ご相談センター（裏表紙参照）にご連絡ください。 ❶「暗証番号の設定」 87 の手順**2**、**3**をする ※2
	暗証番号削除	4th MEDIA用の暗証番号を削除します。 ❶「暗証番号の削除」 87 の手順**1**、**2**をする ※2
接続テスト		4th MEDIAの接続と設定が正しいことを確認します。 ❶「接続を確認しました。」が表示されたら、決定 を押す ・「接続できませんでした。」が表示されたときは、次ページをご覧ください。
システム情報		4th MEDIAのシステム情報を確認できます。 ❶前画面に戻るには、決定 を押す ＊「ネットワーク接続」が「未接続」になっている場合は、「LAN端子の接続（2）」 28 をご確認ください。

3 終了 を押して、メニューを消す

次のページにつづく

● 「4th MEDIA設定」の「視聴制限設定」と、「機能設定」の「視聴制限設定」は別の設定です。
● ※2印については、4th MEDIA用の暗証番号を使用してください。

簡易確認テスト

設定のしかた つづき

■前ページの接続テスト結果で「接続できませんでした。」が表示されたとき

テスト表示の結果	対処のしかた
「LAN端子の接続をご確認ください。」	●「LAN端子の接続(2)」28で接続を確認してから、もう一度「接続テスト」をしてください。
「システム情報をご確認ください。」	●「システム情報」表示(前ページの表を参照)で、「ネットワーク接続」が「未接続」になっている場合は、「LAN端子の接続(2)」28と「LAN端子設定」71をご確認ください。

簡易確認テスト

● 地上D受信テスト、BS・110度CS受信テスト、B-CASカードテスト、電話回線テストをまとめて行います。
● 通信についてのテストは、「接続テスト」72を行ってください。

1 以下の操作で「初期設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「簡易確認テスト」を選び、決定を押す

● 受信テストは、BSデジタル→110度CSデジタル→地上デジタルの順に行います。

● 簡易確認テスト結果については、37の表をご覧ください。

「地上D受信テスト」の伝送チャンネルを変えるには

❶ ◀･▶で伝送チャンネルを選ぶ

●受信テストが始まり、結果が表示されます。

❷ 他の伝送チャンネルをテストする場合は、手順❶と同じ操作をする

3 簡易確認テストが終了したら、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

選局機能設定

キーワードを登録する

● 番組検索やお好み番組設定などで指定するキーワードをあらかじめ登録することができます。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「キーワード登録」を選び、決定を押す

4 ▲·▼·◀·▶で「新規登録」を選び、決定を押す

キーワード登録

新規登録するか、編集／削除するキーワードを選択してください。

旅行		新規登録
温泉		
釣り		
テニス		
ファッション		
和食		
中華		登録完了

で選び 決定 を押す 戻る で前画面

5 登録したいキーワードを入力して、決定を押す

● 文字の入力については「文字入力をする」(操作編 28)をご覧ください。
● キーワードは14個登録できます。
● 一つのキーワードは最大で全角15文字まで入力できます。

キーワードを変更する場合

❶ 変更したいキーワードを選択して、決定を押す
❷ ▲·▼で「編集する」を選び、決定を押す
❸ キーワードを修正して、決定を押す

キーワードを削除する場合

❶ 削除したいキーワードを選択して、決定を押す
❷ ▲·▼で「削除する」を選び、決定を押す
❸ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

6 ▲·▼·◀·▶で「登録完了」を選び、決定を押す

● 終了を押してメニューを消します。

お好み番組を設定する

● faceネットの「お好み番組を見たい」で使われる検索条件を設定します。「お好みＡ」～「お好みＤ」まで四つの検索条件を登録することができます。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「お好み番組設定」を選び、決定を押す

● 詳しい設定については「はじめての設定」の「お好み番組設定」(33の手順**11**)をご覧ください。

お好み番組設定

お好み A	ジャンル	■スポーツ	キーワード	指定なし
	チャンネル	BS−テレビ−すべて		
お好み B	ジャンル	■音楽	キーワード	指定なし
	チャンネル	BS−テレビ−すべて		
お好み C	ジャンル	指定なし	キーワード	指定なし
	チャンネル	すべて		
お好み D	ジャンル	指定なし	キーワード	指定なし
	チャンネル	すべて		
				設定完了

4 ▲·▼·◀·▶で「設定完了」を選び、決定を押す

● 終了を押してメニューを消します。

地上A番組表設定

● 地上アナログ放送の番組表を表示するかしないか設定します。お買い上げ時は「オン」に設定されています。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「地上A番組表設定」を選び、決定を押す

4 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

・**オン**･･･ 地上アナログ放送の番組表を表示する。
・**オフ**･･･ 地上アナログ放送の番組表を表示しない。
※ 地上アナログ放送の番組表を使うにはインターネットの常時接続と設定が必要です。(「LAN端子の接続(1)」27、「通信接続設定」71をご覧ください)

● 終了を押してメニューを消します。

視聴制限設定

視聴年齢制限設定

- デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されている場合があります。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
- お買い上げ時には、視聴年齢制限は設定されていません。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼ で「機能設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲･▼ で「視聴制限設定」を選び、決定 を押す

2 ▲･▼ で「視聴年齢制限設定」を選び、決定 を押す

- 暗証番号の入力画面になります。暗証番号を設定していない場合は、先に次ページの操作暗証番号を設定してください。

3 1 ～ 10 0 で暗証番号を入力する

4 ◀･▶ で年齢を設定し、決定 を押す

- 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
- 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳(制限しない)」に設定してください。

視聴年齢制限設定

4～20歳の間で、視聴を制限したい年齢を設定してください。

4歳 ▶

番組の視聴制限年齢がこの設定年齢よりも高い場合、その番組の視聴には暗証番号の入力が必要になります。視聴年齢制限を使わないときは「20歳」にしてください。

5 終了 を押して、メニューを消す

番組の設定年齢が、設定した年齢よりも上の場合

- メッセージが表示されます。
- 決定 を押し、1 ～ 10 0 で暗証番号を入力してください。

本機に暗証番号や視聴年齢制限が設定されていない場合

- 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
- 決定 を押し、設定が必要な項目を設定してください。

番組購入限度額設定

- ペイ･パー･ビュー番組1番組ごとの購入限度額を設定します。設定した限度額を超える番組を購入するには、暗証番号の入力が必要です。
- お買い上げ時には、「すべての購入を制限しない」に設定されています。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼ で「機能設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲･▼ で「視聴制限設定」を選び、決定 を押す

2 ▲･▼ で「番組購入限度額設定」を選び、決定 を押す

- 暗証番号の入力画面になります。暗証番号を設定していない場合は、先に次ページの操作で暗証番号を設定してください。

3 1 ～ 10 0 で暗証番号を入力する

4 ▲･▼ で制限モードを選ぶ

- **すべての購入を制限する**･･･ペイ･パー･ビュー番組を購入するためには暗証番号の入力が必要になります。
- **限度額を設定**･･･ 設定した限度額を超える番組の場合、暗証番号の入力が必要です。
- **すべての購入を制限しない**･･･購入制限はしません。

5 「限度額を設定」を選んだ場合、◀･▶ で限度額を選ぶ

- 以下のように設定できます。
  - 100円～1,000円の範囲で100円単位
  - 1,000円～3,000円の範囲で500円単位
  - 3,000円～10,000円の範囲で1,000円単位

6 決定 を押す

7 終了 を押して、メニューを消す

- ここで設定する「視聴年齢制限設定」は「4th MEDIA設定」83 で設定する「視聴年齢制限設定」とは別のものです。
- 番組によって視聴料金と録画料金が異なる場合は、高いほうの金額にあわせて制限します。

暗証番号の設定・削除

● 暗証番号は、ペイ・パー・ビュー番組を購入する際や、視聴年齢制限が設定されている番組を見るときなどに使われます。

● 暗証番号を忘れた場合の消去は有料になりますので、暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、東芝家電修理ご相談センター（裏表紙参照）にご連絡ください。

暗証番号の設定

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲・▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「暗証番号設定」を選び、決定を押す

はじめて暗証番号を登録する場合

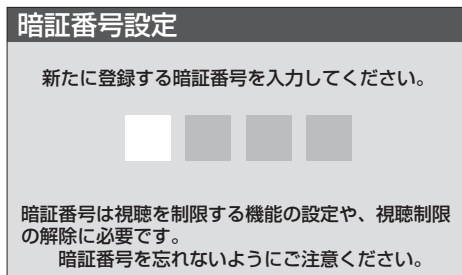
● 登録したい暗証番号（4ケタの数字）を1あ～10小文字0で入力してください。

●間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力してください。

※入力した数字は画面には「＊」で表示されます。

暗証番号設定

新たに登録する暗証番号を入力してください。

暗証番号は視聴を制限する機能の設定や、視聴制限の解除に必要です。
暗証番号を忘れないようにご注意ください。

暗証番号を変更する場合

● 変更する前の暗証番号を1あ～10小文字0で入力してください。

3 1あ～10小文字0でもう一度暗証番号を入力し、確認画面で決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

暗証番号の削除

1 左記の手順2で「暗証番号削除」を選び、決定を押す

2 1あ～10小文字0で暗証番号を入力する

3 確認画面で、◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

インターネット制限設定

● インターネットを起動する際に、暗証番号の入力が必要となるように設定することができます。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲・▼で「機能設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「インターネット制限設定」を選び、決定を押す

● 暗証番号の入力画面になります。暗証番号を設定していない場合は先に暗証番号を設定してください。

3 1あ～10小文字0で暗証番号入力する

4 ▲・▼で「制限する」または「制限しない」を選び、決定を押す

- **制限する**……… インターネット起動時に暗証番号の入力が必要になります。
- **制限しない**…… インターネットを起動するための暗証番号入力は不要です。

5 終了を押して、メニューを消す

● ここで設定する「暗証番号」は「4th MEDIA設定」83で設定する「暗証番号」とは別のものです。

機能設定

HDMI音声入力設定

● **お買い上げ時は「オート」に設定されており、通常は設定を変える必要はありません。**
「オート」の状態で音声が出ない場合は、47ページ に図示したHDMIアナログ音声入力端子への音声用コードも接続して、以下の手順で「アナログ」に設定してください。

1 メニュー (リモコンとびら内) を押し、▲·▼ で「機能設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「HDMI音声入力設定」を選び、決定 を押す

3 ▲·▼ で以下の項目から選び、決定 を押す

- **オート** ······· 自動切換をします。
- **デジタル** ····· HDMI入力端子からの音声が出ます。
- **アナログ** ····· HDMIアナログ音声入力端子からの音声が出ます。

4 終了 を押して、メニューを消す

ビデオ入力表示設定

● ビデオ入力を切り換えたときに表示される機器の名称(ビデオ、DVDなど)を変更することができます。

1 メニュー (リモコンとびら内) を押し、▲·▼ で「機能設定」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「ビデオ入力表示設定」を選び、決定 を押す

3 設定するビデオ入力を ▲·▼ で選び、決定 を押す

ビデオ入力表示設定	
ビデオ1設定	VTR
ビデオ2設定	VTR
ビデオ3設定	ゲーム
ビデオ4設定	VTR
HDMI設定	DVD
初期設定に戻す	

4 設定する機器名を ▲·▼·◀·▶ で選び、決定 を押す

ビデオ入力表示設定		ビデオ1設定
VTR	D−VHS	DVD
デジタル	CSデジタル	DVDレコーダー
ゲーム	レーザーディスク	ケーブルテレビ
表示しない		

5 終了 を押して、メニューを消す

ビデオ入力表示を工場出荷時の状態に戻すには

❶ 上記手順**3**で「初期設定に戻す」を選び、決定 を押す
❷ ◀·▶ で「はい」を選び、決定 を押す
❸ 終了 を押して、メニューを消す

● お買い上げの状態
- ビデオ1 ··· VTR
- ビデオ2 ··· VTR
- ビデオ3 ··· ゲーム
- ビデオ4 ··· VTR
- HDMI ····· DVD

お知らせ
● 「ゲーム」に変更したビデオ入力を選ぶと、ゲームに適した画質と画面サイズに切り換わります。

音声設定

※ 音声設定は、操作編 65 にもあります。

光デジタル音声出力の設定

● 光デジタル音声出力は、「PCM」、「デジタルスルー」、「サラウンド優先」の三つのモードから選ぶことができます。
● お買い上げ時は、「PCM」に設定されています。
● MPEG-2 AACデコーダー、AACデコーダー内蔵アンプ、AC3デコーダーをつなぐときは、「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定してください。

1 クイックを押し、▲·▼で「音声設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「光デジタル音声出力」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で信号を選び、決定を押す

音声設定

ステレオ／モノラル	PCM
音声調整	デジタルスルー
WOW	サラウンド優先
光デジタル音声出力	
AVアンプ電源連動	
ヘッドホーンモード	

・ **PCM** ………… PCM信号が出力されます。
・ **デジタルスルー** …… MPEG-2 AAC、またはAC3信号の場合、それらの信号が出力されます。
・ **サラウンド優先** …… MPEG-2 AAC、またはAC3信号で、マルチＣＨステレオ音声（5.1CHや4.1CHステレオ音声など）の場合にはそれらの信号が出力されます。それ以外の場合にはリニアPCM信号が出力されます。

4 終了を押して、メニューを消す

本機とオンキヨー製AVアンプの電源連動設定

● RI端子（RI EX対応品）付オンキヨー製AVアンプと、本機のRIオーディオコントロール端子をモノラルオーディオコードでつなぐと、本機のリモコンでオンキヨー製AVアンプを連動動作させることができます。連動動作については 49 をご覧ください。
● 本機の電源とオンキヨー製AVアンプの電源を連動させたくない場合は、「AVアンプ電源連動」を「オフ」に設定してください。
● お買い上げ時は、「オン」に設定されています。

1 クイックを押し、▲·▼で「音声設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「AVアンプ電源連動」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「オン」、または「オフ」を選び、決定を押す

・ **オン** …… 本機に付属のリモコンで、電源入／待機、音量調整、消音の操作にAVアンプが連動します。
・ **オフ** …… 本機に付属のリモコンで、音量調整、消音の操作に連動します。電源入／待機には連動しません。

4 終了を押して、メニューを消す

● メニュー（リモコンとびら内）を押して、メニューから「音声設定」を選ぶこともできます。

■光デジタル音声出力設定について
● 背面の「光デジタル音声出力」からは、テレビのスピーカー音と同じ音が出力されます。
ただし、音声調整（低音、高音、バランス）とWOWの効果は得られません。
● 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC、またはAC3音声のときには、データ放送の一部の音声（効果音など）が、光デジタル音声出力端子からは出力されないことがあります。

■AVアンプ電源連動設定について
● 「AVアンプ電源連動」を「オン」に設定したあとは、本機のリモコンの電源で、本機を一度「待機」にし、もう一度電源で電源を「入」にして、正しく連動動作することをご確認ください。正しく連動動作しない場合は、つなぎかたと「連動動作についてのご注意」49 をご覧ください。
● RI EXはオンキヨー株式会社の商標です。

お買い上げ時の状態に戻すには（設定内容を初期化するには）

● お買い上げの状態に戻す設定内容は3種類あります。目的に合わせて行ってください。
※ **初期化をするとデータを元に戻すことはできませんのでご注意ください。**

設定項目	内容
初期化1	以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 ・チャンネル設定、機能設定の［暗証番号設定、視聴年齢制限設定、番組購入限度額設定、インターネット制限設定］ ・4th MEDIA設定用の［暗証番号設定、視聴年齢制限設定、番組購入制限設定］ お好みに設定した項目を設定し直すときに行うと便利です。
初期化2	「初期化1」の項目に加えてチャンネル設定が初期化されます。
すべての初期化	本機に設定されたすべての内容をお買い上げ時の状態に戻します。 **※この初期化は、データ放送の個人情報（住所、氏名、視聴ポイント数等）についてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合にのみ行ってください。**

1 以下の操作で「設定の初期化」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲·▼ で「初期設定」を選び、決定 を押す

❸ ▲·▼ で「設定の初期化」を選び、決定 を押す

2 ▲·▼ で「初期化1」、「初期化2」、または「すべての初期化」を選び、決定 を押す

● 初期化される項目は、上の表をご覧ください。

設定の初期化

初期化1
初期化2
すべての初期化

設定項目を初期化します。
ただし、チャンネル設定、暗証番号入力が必要な設定は初期化されません。

すべての初期化をする場合

● 暗証番号入力画面が表示された場合は暗証番号を入力してください。

※暗証番号には、「機能設定」で設定したものと、「4th MEDIA設定」で設定したものの2種類があります。画面表示に従って、設定した暗証番号を入力してください。

3 初期化する場合は ◀·▶ で「はい」を選び、決定 を押す

● 初期化したあとにデータを元に戻すことはできません。

すべての初期化

お買い上げ時の状態に戻すとすべてのデータを元に戻すことはできませんのでご注意ください。

お買い上げ時の状態に戻しますか？

はい　いいえ

※データ放送で登録した情報なども消去されます。

4 初期化終了の画面で 決定 を押す

● 終了 を押してメニューを消します。

● 本機が記憶しているLAN HDDのメインシステムフォルダの保存先情報も初期化されます。
初期化後は、メインシステムフォルダの保存先をご確認ください。（78 手順**3**）

■お買い上げ時の状態

項目		設定内容
映像メニュー		あざやか
ユニカラー、明るさ		100
黒レベル、色の濃さ		00
色あい、画質		00
カラーイメージプロ設定		オン
カラーパレットプロ調整	レッド	色あい：0　色の濃さ：0　明るさ：−3
	グリーン	色あい：0　色の濃さ：+8　明るさ：0
	ブルー	色あい：0　色の濃さ：+12　明るさ：0
	イエロー	色あい：0　色の濃さ：0　明るさ：0
	マゼンダ	色あい：0　色の濃さ：0　明るさ：0
	シアン	色あい：0　色の濃さ：0　明るさ：0
MPEG NR		弱
ダイナミックNR		オート
ヒストグラムバックライト制御		オン
ドット・クロスカラーリダクション		オフ
上下振幅調整／上下画面位置		00
ステレオ/モノラル		ステレオ
音声調整	バランス	00
	高音	00
	低音（D端子以外）	00
WOW	SRS 3D	オフ
	FOCUS	オン
	TruBass	強
光デジタル音声出力		PCM
AVアンプ電源連動		オン
ヘッドホーンモード		主画面モード
HDMI音声入力設定		オート
省エネ設定	消費電力	標準
	番組情報取得設定	取得する
	無操作自動電源オフ	動作しない
	オンエアー無信号オフ	待機にする
	外部入力無信号オフ	待機にする
ビデオ入力表示設定		ビデオ1：VTR、ビデオ2：VTR ビデオ3：ゲーム、ビデオ4：VTR HDMI：DVD
お好み番組設定 A	ジャンル	スポーツ
	キーワード	指定しない
	チャンネル	BS―テレビ―すべて
お好み番組設定 B	ジャンル	音楽
	キーワード	指定しない
	チャンネル	BS―テレビ―すべて
お好み番組設定 C·D共通	ジャンル	指定しない
	キーワード	指定しない
	チャンネル	すべて
チャンネルスキップ設定		CATV：スキップ、他の放送：受信
地上A番組表設定		オン
GR設定		地上A、CATV：モード1
文字スーパー表示設定		表示言語：表示する、言語設定：日本語
ビデオ録画方式設定		ビデオコントロール（東芝1）
テレビdeナビ設定	RD本体名	未設定
	ユーザー名	未設定
	パスワード	未設定
	ポート設定	80
	連動ライン入力番号	ライン入力3
自動スキャン		自動スキャンする
接続確認メッセージ設定		表示する
ダイヤル方式		トーン

項目		設定内容
待ち時間設定	外線発信番号	設定なし
	電話番号通知	設定しない
	マイラインプラス解除番号	設定しない
	電話会社指定番号	設定しない
通信環境設定		イーサネット優先
LAN端子設定	IPアドレス設定	自動取得する
	DNS設定	自動取得する
	プロキシ設定	使用しない
LAN HDD端子設定	IPアドレス設定	自動設定
	DHCPサーバー設定	使用する
i・LINK設定	機器の登録	未登録
	登録モード設定	自動
	ブロードキャスト入力設定	オフ
	最大データ転送速度設定	最適
	D-VHSテープ検出	オン
	ちょっとタイム機器	未登録
	ちょっとタイム機器電源設定	テレビ電源入連動
LAN HDD設定	機器の登録	未登録
	登録モード設定	自動
	システムフォルダ設定	未登録
外部機器からの制御		なし
スキップ/リプレイ設定	ちょっとスキップ設定	30秒
	ちょっとリプレイ設定	10秒
メール設定 基本設定	POP3サーバーアドレス	未設定
	POP3ユーザー名	未設定
	POP3パスワード	未設定
	APOP	使用しない
	POP3アクセス間隔	15分
	SMTPサーバーアドレス	未設定
	メールアドレス	未設定
メール設定 メール録画予約設定	メール録画予約機能	使用しない
	録画機器	ビデオ（ビデオコントロール）
	メール予約パスワード	未設定
	予約設定結果通知	送信元アドレスへの通知
	指定メールアドレス	未設定
	予約アドレス登録	未設定
メール設定 メール受信設定	一覧表示設定	オン
	自動削除設定	しない
	着信通知設定	表示する
	フィルター設定	使用しない
番組表	文字サイズ変更	標準
	番組表色分け設定	赤：映画、緑：スポーツ、橙：音楽
	スキップチャンネル表示設定	スキップチャンネル表示
写真再生	並べ替え	古い順
	表示モード切換	シームレス（USBのみ）
	スライドショーの表示時間の間隔	5秒
画面サイズ	4：3信号	スーパーライブ
	1080i	オーバースキャン
	ゲームモード	ゲームフル
	4th MEDIA	スーパーライブ
音多切換		主音声
字幕		字幕オフ
字幕アウトスクリーン		オフ
音量		30
ヘッドホーン音量		30
放送からの自動ダウンロード		ダウンロードする
放送からの任意ダウンロード予約		予約なし
BS･110度CSアンテナ電源供給		供給する

各種お問い合わせ先

テレビのネットワーク接続（LAN端子を使った接続）についてのご相談は

［フェイス］ネットワークご相談センター

フリーダイヤル **0120−97−9674**（クナン クローナシ）
※携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。

携帯電話からのご利用は
ナビダイヤル（通話料有料） **0570−05−5100**
※PHSなど一部の機種ではご利用になれません。

FAX 03−3258−0470

●受付時間（月曜日～土曜日）10：00～20：00　日曜・祝祭日および年末年始など当社休業日を除きます。

■各プロバイダー、4th MEDIAサービスお問い合わせ先　※西日本エリアのサービス提供時期は、各プロバイダーのホームページ等でご確認ください。

【Plala.TV on 4th MEDIA】のサービス内容、お申し込みについて
○Plala.TV on 4th MEDIAのサービスページ………… *http://plala.tv/4media/*

【Plala.TV on 4th MEDIA】に関するお問い合わせ
○**E-mail** ………………………………………………… ***4th-sup@plala.co.jp***
○**ぷららダイヤル**（4th MEDIA専用）
　TEL ………………………………………………… ***009192−31***（通話料無料）
　その他携帯・PHS・公衆電話から …………………… ***03−5954−5330***（通話料はお客さま負担となります）
　※受付時間：平日12：00～21：00、土日祝日12：00～19：00

【@nifty TV on 4th MEDIA】のサービス内容、お申し込みについて
@nifty TV on 4th MEDIAのサービスページ………… *http://www.nifty.com/tv/*

【@nifty TV on 4th MEDIA】に関するお問い合わせ
@nifty TV専用サポート窓口 ……………………………… ***0120−221−535***（フリーダイヤル）
※受付時間：平日9：30～12：00／13：00～18：00（土日祝はお休みいたします。）

【BIGLOBE.TV on 4th MEDIAのサービス内容、お申し込みについて】
○BIGLOBE.TV on 4th MEDIAのサービスページ………… *http://bbtv.biglobe.ne.jp/4md/*

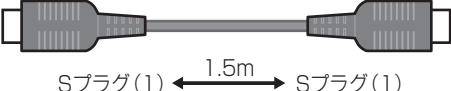
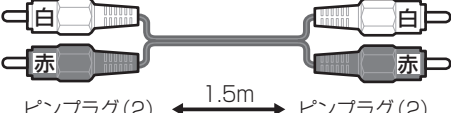
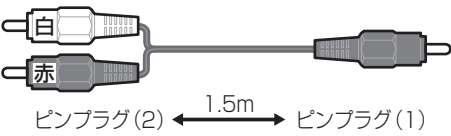
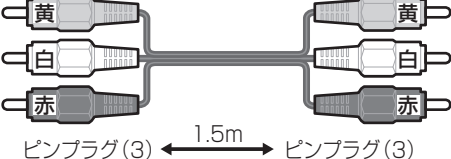
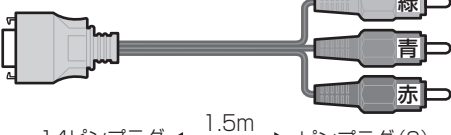
【BIGLOBE.TV on 4th MEDIAに関するお問い合わせ】
○ホームページからのお問い合わせ ……………………………… *http://support.biglobe.ne.jp/ask.html*
○電話でのお問い合わせ（受付時間9：00～22：00）
BIGLOBE　ブロードバンドサービスデスク
　通話料無料 ……………………………………………… ***0120−71−0962***
　携帯電話・PHS・CATV電話の場合 …………………… ***03−3945−0962***（通話料はお客様負担）

【hi-ho.TV on 4th MEDIA】のサービス内容、お申し込みについて
○hi-ho.TV on 4th MEDIAのサービスページ ……………… *http://home.hi-ho.ne.jp/4th/*

【hi-ho.TV on 4th MEDIA】に関するお問い合わせ
○**E-mail** ……………………………………………………… *info4th@desk.hi-ho.ne.jp*
○hi-hoインフォメーションデスク
　TEL………………………………………………………… ***0120−858140***
　※受付時間：月～金　9：00～21：00／土日祝　9：00～18：00（年中無休）

【So-net.TV on 4th MEDIA】のサービス内容、お申し込みについて
○So-net.TV on 4th MEDIAのサービスページ …………… *http://www.so-net.ne.jp/4th/*

【So-net.TV on 4th MEDIA】に関するお問い合わせ
○ホームページからのお問い合わせ ……… *http://www.so-net.ne.jp/support/ask/info/entry.html*
○電話でのお問い合わせ（受付時間9：00～21：00年中無休）
　一般固定電話から　　全国共通……… ***0570−00−1414***（日本全国どこからでも市内通話料金）
　携帯/PHS/IP電話から　東京………… ***03−3446−7555***

メニュー 一覧

● 設定･調整のメニュー 一覧を下図に示します。（薄く記載している部分は、別冊「操作編」で使用する部分です）
「操作編」のメニュー 一覧は、操作編 85 ～ 86 をご覧ください。
● メニューで選択できる項目は接続機器などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄く表示されます。

次のページ につづく

メニュー 一覧 つづき

第一階層
第二階層
第三階層
第四階層
第五階層〜
メニュー
初期設定
はじめての設定
31
アンテナ設定
地上Dアンテナレベル
29
BS・110度CS アンテナレベル
30
BS・110度CS アンテナ電源供給
30
BS中継器切換
59
110度CS中継器切換
59
チャンネル設定
地上A自動設定
59〜60
地上D自動設定
60〜61
初期スキャン
再スキャン
自動スキャン
手動設定
62〜65
地上A
地上D
BS
110度CS
チャンネル スキップ 設定
66
地上A
地上D
BS
110度CS
GR設定
67
初期設定に戻す
67
データ放送設定
68
郵便番号と地域の設定
文字スーパー表示設定
ルート証明書番号
通信設定
電話回線設定
69〜70
ダイヤル方式
外線発信番号
電話会社の設定
電話番号通知設定
電話回線テスト
待ち時間の設定
通信接続設定
71〜73
通信環境設定
LAN端子設定
IPアドレス設定
DNS設定
プロキシ設定
MACアドレス
接続テスト
LAN HDD端子設定
IPアドレス設定
DHCPサーバー設定 →DHCPサーバー →開始IPアドレス →リースアドレス数
MACアドレス
接続確認 メッセージ設定
74
通信エラー履歴
74
録画機器設定へ
初期設定 つづき
録画機器設定
ビデオ録画方式設定
41
テレビdeナビ設定
44
i.LINK設定
75
機器の登録
登録モード設定
ブロードキャスト 入力設定
最大データ転送 速度設定
D-VHSテープ検出
ちょっとタイム機器
ちょっとタイム機器 電源設定
LAN HDD設定
76〜79
機器の登録
登録モード設定
画質モードテスト
システムフォルダ設定
外部機器からの制御
79
スキップ/リプレイ 設定
79
ちょっとスキップ設定
ちょっとリプレイ設定
メール設定
基本設定
80
POP3サーバー アドレス
POP3ユーザー名
POP3パスワード
APOP
POP3アクセス間隔
SMTPサーバー アドレス
メールアドレス
メール録画予約設定
80〜81
メール録画予約機能
録画機器
メール予約パスワード
予約設定結果通知
指定メールアドレス
予約アドレス登録
メール受信設定
82
一覧表示設定
自動削除設定
着信通知設定
フィルター設定
4th MEDIA設定
83〜84
フレッツの「お客様ID」/「Sub No.」
ユーザー名
パスワード
視聴制限設定
視聴年齢制限設定
番組購入制限設定
暗証番号設定
暗証番号削除
接続テスト
システム情報
簡易確認テスト
84
設定の初期化
90

別売品

- 別売アクセサリーは、設置のしかたや、接続する外部機器の種類などに合わせてお選びください。
- ここにあげたアクセサリーは一部です。詳しくは東芝総合カタログまたは、販売店にご相談ください。
- イラストはイメージです。実際の形状と一部異なる場合があります。

別売品/名称	形名
映像用コード 黄 黄 ピンプラグ(1) 1.5m ピンプラグ(1)	TSC-VC01
S映像用コード ※S1、S2映像用としても使えます。 Sプラグ(1) 1.5m Sプラグ(1)	TSC-VS01
音声用コード(ステレオ) 白 赤 白 赤 ピンプラグ(2) 1.5m ピンプラグ(2)	TSC-AS01
音声用コード(ステレオ/モノラル) 白 赤 ピンプラグ(2) 1.5m ピンプラグ(1)	TSC-AX05
映像・音声用コード(ステレオ) 黄 白 赤 黄 白 赤 ピンプラグ(3) 1.5m ピンプラグ(3)	TSC-VA01
コンポーネント映像変換用 D端子ケーブル 緑 青 赤 14ピンプラグ 1.5m ピンプラグ(3)	TSC-VX01

別売品/名称		形名
D端子ケーブル 14ピンプラグ 1.5m 14ピンプラグ		TSC-VX02
光ファイバーケーブル プラグ 1.5m プラグ		TSC-AD01
アンテナアダプター		JP-1C
BS・CS分配器 (全方向電流通過形)		2分配： CSG-D2A 3分配： CSG-D3A 4分配： CSG-D4A
東芝液晶テレビ用フロアスタンド		RL-F120 RL-F80
東芝液晶テレビ 壁取り付け金具／ チルト式	32/37/ 42Z1000	FPT-TA9
	47Z1000	FPT-TA10

保証とアフターサービス

必ずお読みください

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびに、お取り扱い・お手入れに関するご不明な点は **お買い上げの販売店にご相談ください。**

販売店に修理のご相談ができない場合

東芝家電修理ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-41

携帯電話・PHSからのご利用は
東日本地区（北海道、東北、関東、甲信越、東海、沖縄県）044-543-0220
西日本地区（上記以外）06-6440-4411

電話で365日24時間お応えします

お買い物、お取り扱いのご相談

東芝家電ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-86

携帯電話・PHSからのご利用は 03-3426-1048
FAX 03-3425-2101（365日：8:00～20:00受付）

- 「東芝家電修理ご相談センター」「東芝家電ご相談センター」は東芝テクノネットワーク株式会社が運営しております。
- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

※**電話受付：365日・24時間受け付けます。**　※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。
http：//www.toshiba.co.jp/product/tv/
※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

保証書（別添）

- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
B-CASカードは、保証の対象から除きます。

補修用性能部品の保有期間

- 液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は弊社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

- 「操作編」69ページにしたがって調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	32Z1000,37Z1000,42Z1000,47Z1000
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も合わせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
便利メモ お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。 TEL（　）　―

廃棄時のお願い

- **一般の廃棄物といっしょにしないでください。**ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。
本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

愛情点検

長年ご使用の液晶テレビの点検をぜひ！ 熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際このような症状はありませんか？
- 電源を入れても映像や音が出ない。
- 映像が時々、消えることがある。
- 変なにおいがしたり、煙が出たりする。
- 電源を切っても、映像や音が消えない。
- 内部に水や異物がはいった。

ご使用中止

このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

株式会社 東芝
デジタルメディアネットワーク社
〒105-8001　東京都港区芝浦1-1-1
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

R100
●この印刷物は古紙配合率100%再生紙を使用しています。

YC/T3　23552212